

9年間の 学び舎を作ろう

— 学校, 地域, 行政, 設計者
対話で生まれる学校建築 —

令和2年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会

小中一貫教育校の学校建築 (教育者と建築家の対話の促進)

— 海外と日本の事例から —

令和3年2月10日(水) 13:30~16:30

日英
同時通訳



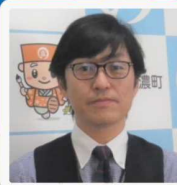
伏木 久始 (ふせぎ ひさし) 氏
信州大学学術研究院・教育学系 教授



峯村 均 (みねむら ひとし) 氏
信濃町立信濃小中学校 初代校長



Kit Ku 氏
Hayball Associate



小林 義尚 (こばやし よしなお) 氏
信濃町教育委員会 総務教育係長



関口 浪男 (せきぐち なみお) 氏
株式会社エーシーエ設計 取締役副会長



長澤 悟 (ながさわ さとる) 氏
国立教育政策研究所客員研究員, 教育環境研究所所長, 東洋大学名誉教授

— 講演資料 —



◆主催 NIER 文部科学省 国立教育政策研究所 ◆後援 一般社団法人日本建築学会

イントロダクション

小中一貫教育校の制度・現状

国立教育政策研究所文教施設研究センター
総括研究官

早田 清宏

小中一貫教育校の制度概要

令和3年2月10日
国立教育政策研究所文教施設研究センター
総括研究官 早田 清宏

小中一貫教育の導入の歴史①

- ① 小中一貫教育を初めて導入したのは広島県呉市であり、2000年度に、文部省から、研究開発学校※1の指定を受け、3小1中学校を統合した。導入のねらいは、義務教育9年間で修了するにふさわしい学力と社会性の育成、中1ギャップの解消、自尊感情の向上とされた。

※1「研究開発学校」とは、教育実践の中から提起される諸課題や、学校教育に対する多様な要請に対応した新しい教育課程（カリキュラム）や指導方法を開発するため、学習指導要領等の国の基準によらない教育課程の編成・実施を認める制度であり、1976年から実施されている。

- ② 2003年には、構造改革特別区域研究開発学校制度が創設され（特区研究）、これを利用して、2004年度から東京都品川区、2006年度から東京都三鷹市が小中一貫特区の取組を開始し、徐々に広がりを見せていく。

- ③ 2008年には、教育課程特例校制度※2が創設され（特区研究の全国展開）、小中一貫校導入のハードルが大きく引き下げられることになった。

※2「教育課程特例校制度」とは、文部科学大臣が、学校教育法施行規則第55条の2等に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度

小中一貫教育の導入の歴史②

自治体や学校現場での取組が10数年以上にわたって蓄積され、**顕著な成果が明らか**になった。また、取組んできた自治体からは、取組を一層高度化させる等の観点から、**正式な学校制度として法制化すべきとの要望**があった。



教育再生実行会議の第5次提言や中央教育審議会答申※を経て、2015年6月の通常国会で、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「**義務教育学校**」の設置を可能とする改正学校教育法が成立した。

※例えば、教育再生実行会議の第5次提言では、「子供の発達に応じた教育の充実、様々な挑戦を可能にする制度の柔軟化など、新しい時代にふさわしい学制を構築する」において、「小中一貫教育を制度化するなど学校段階間の連携、一貫教育を推進する」とされた。



2016年4月1日、改正学校教育法が施行。小中一貫教育が制度として全国的に開始。

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月26日 文部科学省 参照

小中一貫教育導入のねらい

大目的

義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること

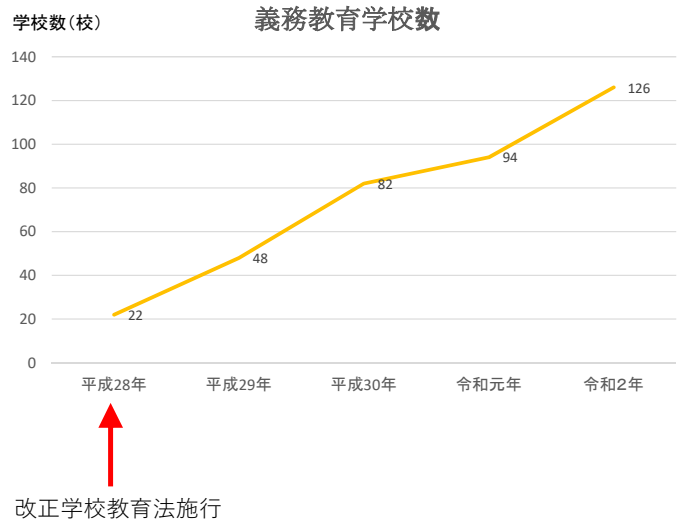
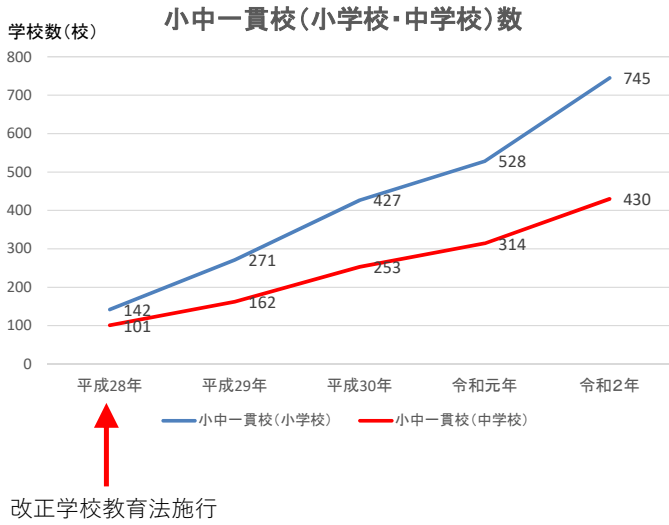
例えば、

- ・ 小学校の先生は、子供達が中学校を卒業する時の姿をイメージしているだろうか？
- ・ 中学校の先生は、小学校の時、子供達が、どの学習の部分でつまづいたかを知っているだろうか？
- ・ 小中のギャップ（いじめ、不登校、暴力行為の増加、環境の変化・勉強が難しくなることへのストレス）への対応が必要ではないか？

といった問いに向き合い、目の前の子供たちの課題に応じた対応を模索することが、前述の法令上の要請と相まって、重要性を増してきた。

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月26日 文部科学省 参照

小中一貫教育の導入校数



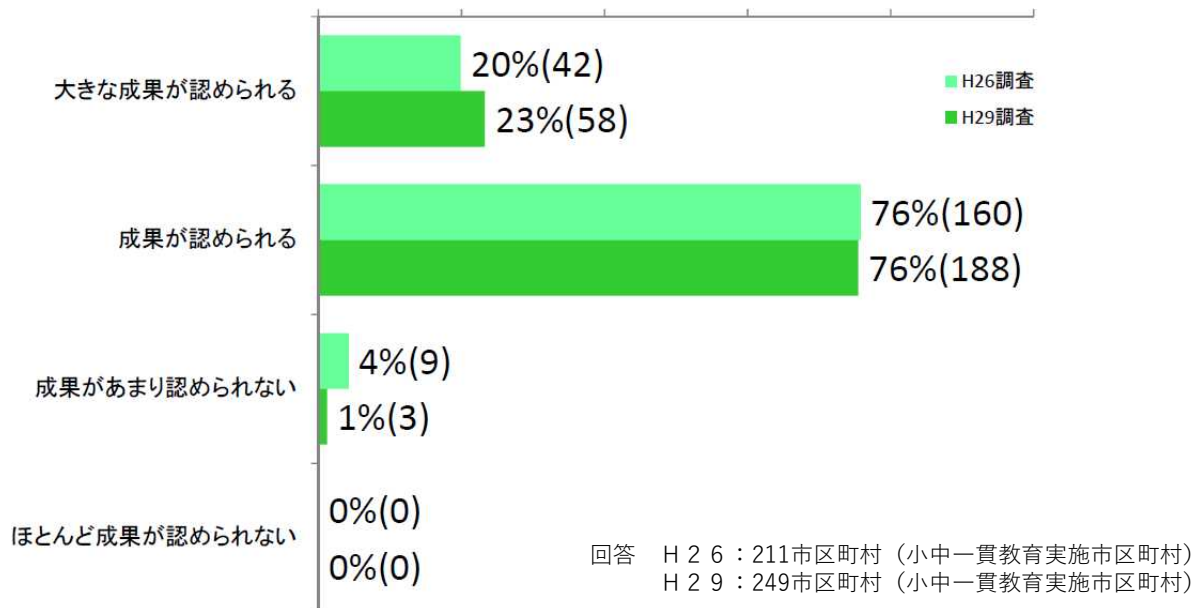
出典：学校基本調査（文部科学省）
※国立、公立、私立の合計数

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

小中連携教育	<ul style="list-style-type: none"> 小学校・中学校の先生が互いに情報交換や交流を行う
小中一貫型 小学校中学校	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成 小学校・中学校は組織上、独立している 設置者が同一の併設型小学校・中学校、設置者が異なる連携型小学校・中学校の2類型がある
義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成 小学校・中学校の組織が一体化 (1人の校長、1つの教職員組織)

小中一貫教育

小中一貫教育を導入した成果①



「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施 平成29年3月1日時点）」参照

小中一貫教育を導入した成果②

（学習面）

- 勉強が好きと答える児童生徒が増えた（71%）
- 全国学力・学習状況調査の結果が向上した（61%）

（生徒指導面）

- 中学校への進学に不安を感じる児童が減少した（96%）
- 上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった（94%）

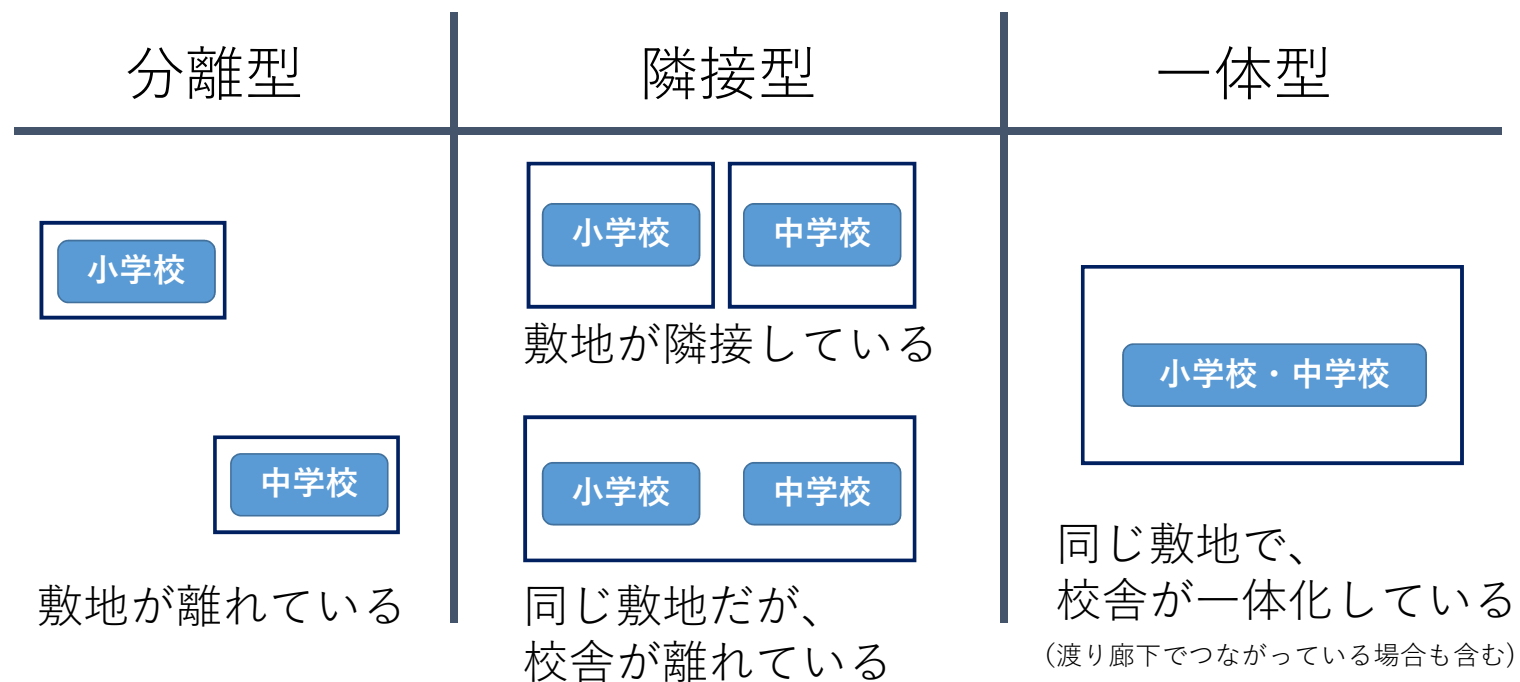
（教職員の協働）

- 小・中学校共通で実践する取組が増えた（98%）
- 教員の教科指導力の向上につながった（87%）

※H29調査において、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合

「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施 平成29年3月1日時点）」参照

施設の設置パターン



施設整備に関するアンケート調査（国研実施）

■ 調査内容

全国の小中一貫教育校において、施設の計画・設計上の工夫が、

- ① 実際にどの程度整備されているか
- ② 学校現場において、どのように評価されているか
- ③ どの程度の費用がかかっているか

について調査を実施

■ 調査対象

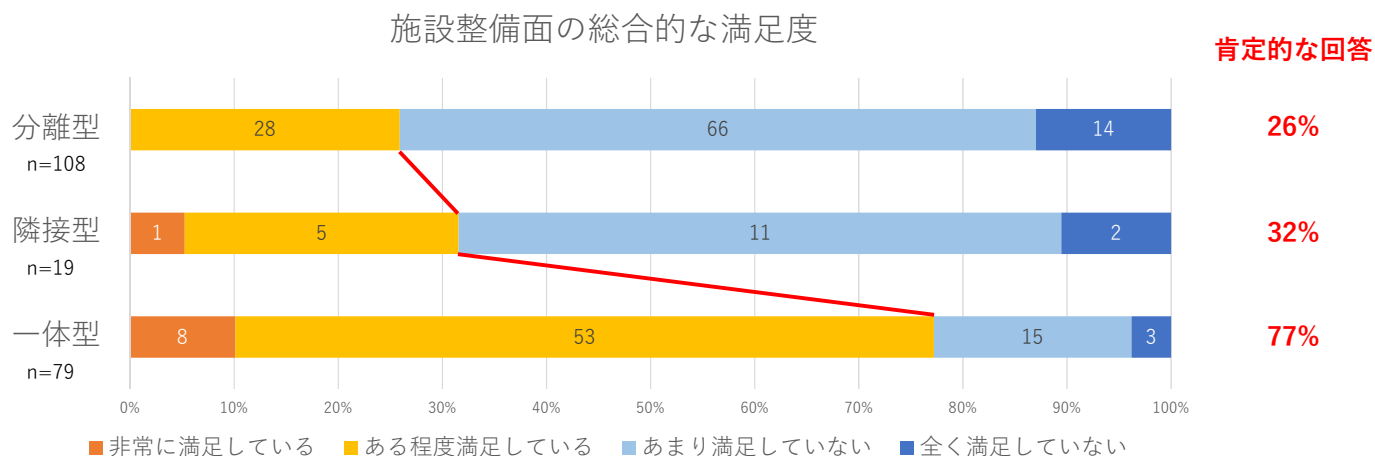
全国の公立小中一貫教育校のうち、地域別の学校数のバランスを考慮して抽出した286件を調査対象とし、207件から有効回答を得た。

■ 調査時点

平成29年3月1日現在

施設整備に関するアンケート調査結果①（国研実施）

- 施設面の総合的な満足度は、一体型が最も高く、隣接型、分離型の順に低くなる。
- 渡り廊下がなく校舎が完全に一体となっている「完全一体型」の方が、渡り廊下で繋いで一体となっている「渡り廊下型」より満足度が高い。



「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所文教施設研究センター実施 平成30年8月）」参照
https://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/compulsory_education_schools_h3008.pdf

施設整備に関するアンケート調査結果②（国研実施）

- 施設面の総合的な満足度は、学校の「面積」「築年数」「施設整備費用」の影響を受けるが、「築年数」が進んだ学校、「施設整備費用」が小さい学校でも、満足度が高い学校は一定程度見受けられる。
- 一体型であっても、準備段階で建築設計の専門家が関わっていない学校や施設的な工夫の少ない学校では、施設面の総合的な満足度は低い。

施設的な工夫の例

教室と連続性を持つオープンスペース、教科の学習・交流スペース、ランチルーム、掲示板・展示スペース、一体的な職員室、地域住民の活動拠点となる施設・室 等

- 分離型であっても、施設的な工夫をしている学校では、施設面の総合的な満足度は高い。

施設的な工夫の例

分離校舎間の取組を紹介する掲示板・展示スペース、分離校舎間の交流等に十分な広さ・数のランチルーム、交流授業等を行うネットワーク環境、十分な広さ・数の地域住民の活動拠点となる施設・室

「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所文教施設研究センター実施 平成30年8月）」参照
https://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/compulsory_education_schools_h3008.pdf

基調講演

学校像を革新する 小中一貫教育校とその計画

国立教育政策研究所客員研究員
教育環境研究所所長 東洋大学名誉教授

長澤 悟

令和2年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会

小中一貫教育校の学校建築
(教育者と建築家の対話の促進)

教育の革新と小中一貫教育校の計画

東洋大学名誉教授
教育環境研究所 理事長
国立教育政策研究所客員研究員

長澤 悟

学校づくりとは、

1. 教育と施設、学校と地域、ソフトとハードを総合的に考えること
2. 建築は土地の上に建ち、学校は「観」の上に立つ
3. はじめに関係者が「観」を共有する計画プロセスが大切
 - ① **子供観** 未来社会に生きる子供の姿を描く
 - ② **教育観** 教育を問い直し、目標を共有する
 - ③ **学校観** 地域のみんなで、地域にとっての学校を考える
 - ④ **施設像** 固定観念にとらわれずに意見を出し合う
4. その姿、姿は学校ごと、地域ごとに異なる
→ 「**私たちの学校**」

小中一貫教育の学校づくり

1. 子供の学び・成長を9年間見通した教育
2. 地域ぐるみ、社会総がかりの教育

施設計画の課題

- ・ 9年間一貫した**教育活動**に適した施設環境
- ・ 9年間一貫した**学校運営**に適した施設環境
- ・ **地域ぐるみ**で子供たちの学びを支える施設環境

小中一貫教育で期待される効果

- ・「中1ギャップ」の緩和
 - 不登校、いじめ、暴力行為等の減少－生徒指導の問題・負担減少
- ・児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが育まれる
- ・中学校への進学に不安を覚える児童が減る
- ・上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まる
- ・下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まる
- ・思いやりや助け合いの気持ちが育つ
- ・自己肯定感、自己効用感が向上する
- ・学習意欲の向上、授業の理解度の向上、学習習慣の定着が図れる
- ・小中学校教職員間で互いのよさを取り入れ、協力意識が高まる

効果を高め、取組みをしやすくする施設・環境のあり方

19

施設一体型小中一貫教育校計画の課題と対応

- ・児童生徒の人間関係の固定化（特に小規模校）
 - 多様な形態での異学年交流機会を増やす
 - 異学年交流空間の確保
- ・施設・スペース(教室、グラウンド等)の確保及び使用時間調整
 - 面積効率の高い計画→計画面積の削減
 - * 小中単独では持てない施設による教育活動の充実
- ・校舎間等の移動、活動に伴う児童生徒の安全の確保
 - 階段、設備と雲寸法の違い
 - 小学生が安全に活動できる遊び・運動スペースの確保
- ・小学生高学年のリーダー性・主体性の育成
 - 校舎やフロアの区分による成長段階の演出
 - 各行事の中で高学年がリーダーシップを発揮する機会の設定
- ・中学校における生徒指導上の問題の小学生への影響
 - (先進校ではあまり聞かない)
- ・施設一体型の課題
 - 登下校時間、授業時間の違いへの対応
 - 学校規模に応じた室構成と配置
 - 校地面積の確保－運動場・遊び場・屋外教育環境
 - 余裕ある空間を生み出す工夫

20

小中学校段階間の差異への配慮 9年の旅

- 授業方法の違い(小学校:学級担任制、中学校:教科担任制)
- 授業の1単位時間の違い(小学校:45分、中学校:50分)
- 部活動等の有無、PTA、コミュニティスクール

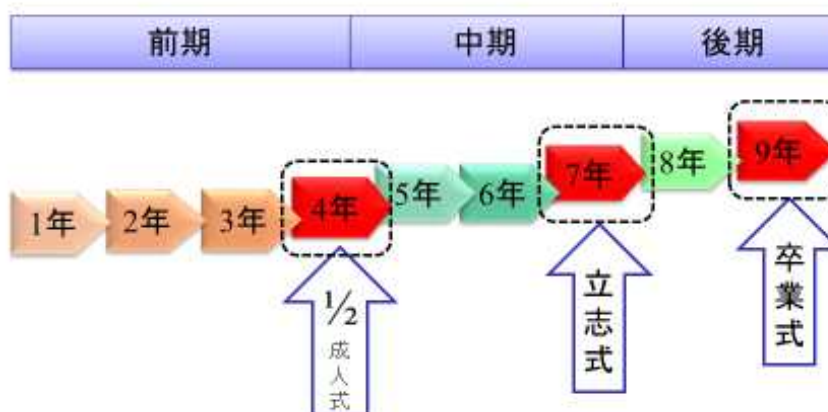
	学年区分	PTA	授業方法	運営方式	部活動	校長ポスト	主な行事	校時	制服	
1年生	第1ステージ	小中PTA一本化	学級担任制	特別教室型	なし	1人	入学式・小学校過程終了式・卒業式・始業式・終業式・運動会・体育大会・学習発表会・文化祭等	授業の1単位時間 45分	なし	
2年生										
3年生										
4年生										
5年生	第2ステージ		一部教科担任制		部活動			50分		標準服着用
6年生										
7年生										
8年生	第3ステージ		教科担任制		50分					
9年生										

21

1. 発達段階の特色に応じた学年の区切り (4・3・2制、5・4制、4・5制等)

- 小学校高学年と中学校1年の接続
- 学年の区切りごとの特色ある指導内容
(少人数学級編制、教科担任制の導入、ステージ発表など)
- 成長の節目を大切にできる機会
- 9年間の旅ー学年が上がるとともに変化の感じられる施設・環境づくり

学年の区切りの例

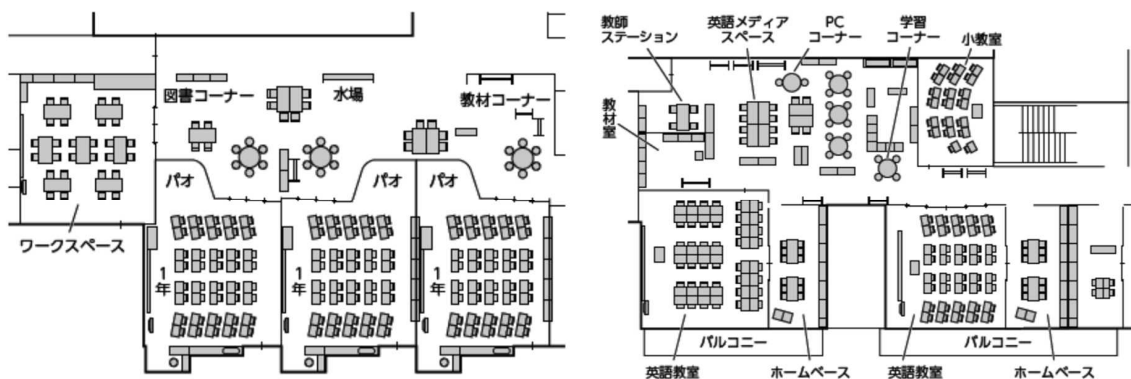


22

2. 学年段階の区切りに対応した空間構成・配置・環境

⇒各学年段階の特性に応じた教室まわりの構成

- 例) 1・2年：教室まわりで様々な活動ができる 総合教室型
 3・4年：普通教室と特別教室との組み合わせ 特別教室型
 5～7年：教科担任制の導入 一部教科教室型
 8・9年：自ら教室に行く。教科指導の充実 教科教室型



1・2年:学年コモンズ

8・9年:教科コモンズ

学年区分「6・3」に基づきゾーニングを計画。校舎中央を交流の核として位置付け、図書館や特別教室を配置【府中市 府中学園】

23

3. 特別教室・運動施設等の共用と時間割編成

- 目的
- ・積極的に共用を図ることにより、教室の利用率を高める
 - ・教育内容の充実や学校運営の円滑化を図る
 - ・単独には持てない教室・施設を利用できるようにし、教育機会を充実する

* 教室の共用、授業の乗り入れ、小中の交流のために校時を揃える



24

4. 子供同士、学校と地域の交流スペース

異学年交流 集会・発表・行事

児童会・生徒会、部活動

- ⇒ 図書室・学習情報センター、特別教室
- ⇒ 食堂・ホール
- ⇒ 移動空間・トイレ・流し、屋外空間
- ⇒ お互いが見え合う関係

地域との交流、地域活動等

- ⇒ 地域交流センター



25

5. 学校運営の一貫性を確保する管理諸室

● 職員室

- ⇒ 小中一貫教育校の運営では小・中学校の教員間の連携が重要
職員室を共同で利用、教員相互のコミュニケーションの場として活用
* 多人数となる場合のスペース構成

● 日常的な業務の連携、コミュニケーションがとれる管理諸室

- ⇒ 管理諸室＝校務センターの一体化により、組織体制を整えやすくする
- ⇒ 打合せ、印刷・教材作成・情報処理、カリキュラム管理等のスペースを充実
- ⇒ 教材作成室、リフレッシュスペース、休憩室をコミュニケーションペースに



● 保健室・相談スペース

- ⇒ 児童生徒の発達段階に応じて心と体への対応ができるようスペースを確保
落ち着いた雰囲気づくりをする。

26

学校の変革と小中一貫教育校

1. 教育空間の革新
2. 新たな学校像

変わる社会

- ICT、AI、IoT、ロボット — Society 5.0
- グローバル化
- インクルーシブな共生社会
- 持続可能な社会づくり
- ポスト・コロナ
- さらにその先を見つめて・・・

変わる教育、変わる学校

新学習指導要領

- アクティブ・ラーニング** 主体的・対話的で深い学び
 コンテンツ 内容・教科 → コンピテンシー 資質・能力
 教育目標・内容・時間数 + 方法 → 施設・教育環境のあり方
 ①「未知の状況にも対応できる“思考力・判断力・表現力等”
 ② 学びを人生や社会に活かそうとする“学びに向かう力・人間性”
 STEAM教育・ICT教育・EdTech 個別最適化学習・インクルーシブ教育
 - カリキュラム・マネジメント**
 教育内容・時間、人的・物的資源を効果的に組み合わせ、学習効果を最大化
 - コミュニティ・スクール** 学校運営協議会
 学校が地域を支え、地域が学校を支える
 教育・地域づくりの目標を、学校と地域が共有し、連携して実現する
 - チームとしての学校**
 教職員の力+地域の力+外部の力
 学校と地域の共同ー地域ぐるみの教育
- ⇒一つ一つの教室、場所を問い直す

29

アクティブ・ラーニング

主体的、対話的で深い学び
 ICT、オンライン教育

—調べる— 一人で、グループで—

—議論する— 教室で、多目的スペースで、
 プロジェクターでホワイトボードで

—まとめる— 一人で、グループで、—

—発表する— 教室で、—



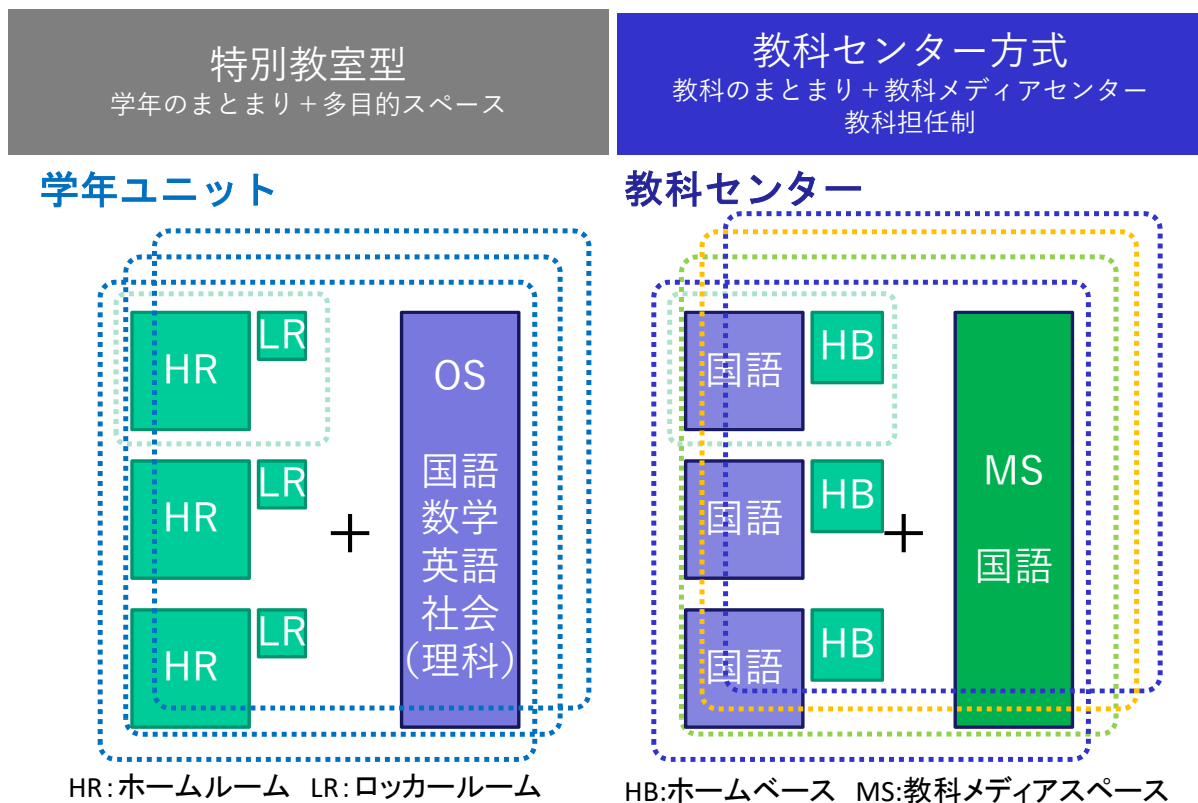
高学年での教科教室型(教科センター方式)の検討

教科教室、教科メディアセンター、教科ステーション等で
教科コモンズ(教科センター)を構成する。

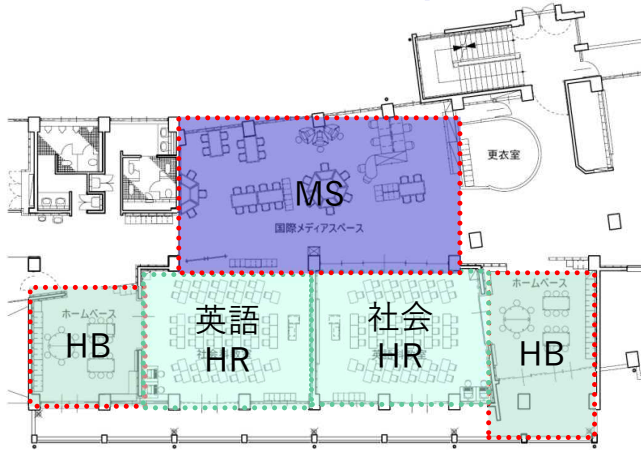
- ・各教科の狙い、教師の思い通りに教育環境を作れる。
- ・教科指導を充実させる。
- ・自律性、主体性、能動的な生徒を育てる
– アクティブ・ラーニング
- ・学校が取り組む教育を「見える化」する
- ・小中一貫校や小中併設校で9年間の学校生活に変化をつける

33

教科センター方式 (教科教室型) の中学校



教科コモンズの構成



MS:教科メディアセンター HB:Home Base



学校は、博物館である。

廊下を歩くたびに、好奇心を引き出す仕掛けがある。ワクワクする校舎が、同志社中のシンボルです。



大洗町立南中学校 (茨城)

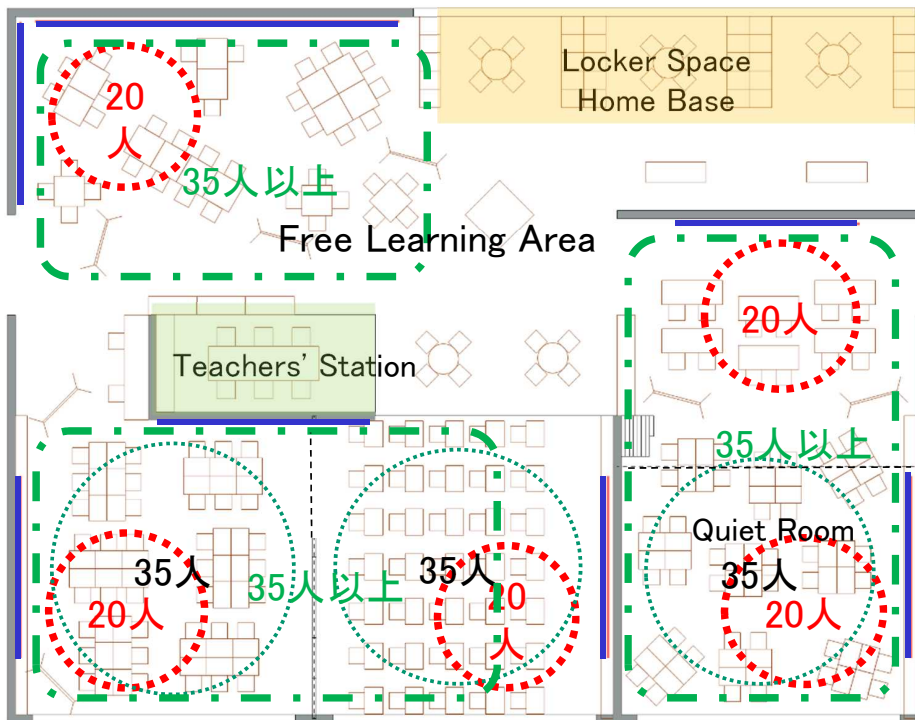


南房総市立嶺北中学校 (千葉)



学年コモンズのダイアグラム

70~100人程度

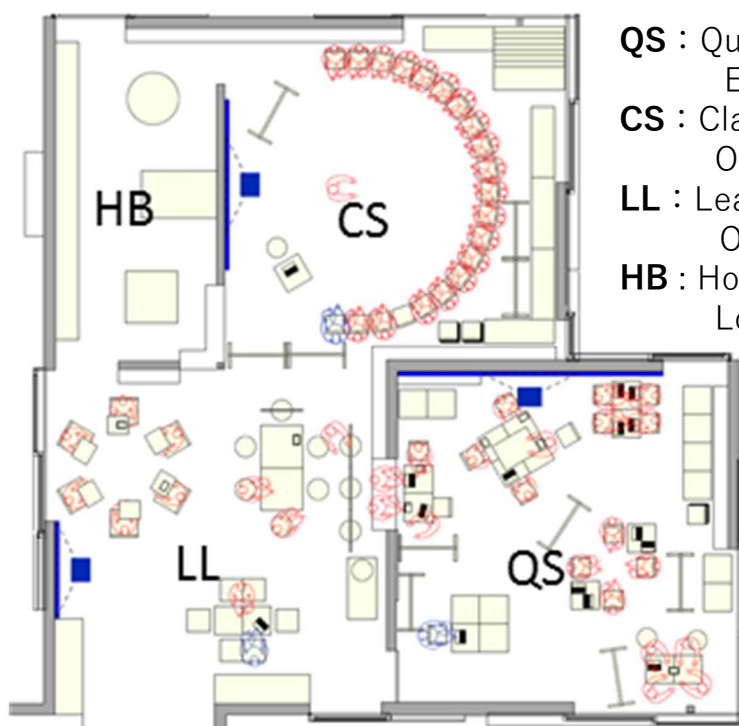


White Board

Collaboration Labo

広島県立広島観智学園中学校・高等学校

Class Unit (70人)



- QS : Quiet Space
Enclosed Classroom
- CS : Class Space
Open Classroom
- LL : Learning Lounge
Open Space
- HB : Home Base
Locker Space



- Video Projector
- White Board

学習情報センター・ラーニング・コモンズ

- 読書センター: 読書の楽しさ喜びを感じる
- 学習センター: 主体的な学びを支える
- 情報センター: コンピュータ室と一体
- 交流センター: 他のクラス・学年の子供と童
- ラーニング・コモンズ



横浜市立霧が丘義務教育学校



糸魚川市立糸魚川小学校(新潟)



豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校





オンライン

時間・場所の制約を越えた学び
いつでも、どこでも、だれとでも

対面

学校は共に学び合い、
育つ場
リアルな体験、交流、
空間の重要性

チャットで全員が発表

画面上でクラス全員と顔を合わせ、チャットで質問・回答、授業配速に合わせみんなが話し、作品を見せ合い、意見に目を輝かせる。

ベッドサイドから授業に出席

ネットワークにつながれた「分身ロボット」を通して、病院や家にも教室にいるのと同じに授業を受ける。いつもみんなと一緒に。

オンラインで生まれる新しい学び

遠くの友だちと共に学ぶ

離島の学校、小規模校など、遠隔地の学校や地域、世界の子どもたちとの交流授業を通し、新鮮な気づきを得て、考えを深める。

英会話の先生は海の向こう

海外のネイティブの先生や子どもたちと画面を通して会話。恥ずかしがらず相手の口元を見ながら、積極的に、楽しく。

いつでもつながり合う

画面の向こうの友だちと情報を交換、授業では別室もよい。自由時間は楽しくおしゃべり。それぞれの学校時間が豊かに。

特別教室は創作工房・アトリエ

- 作る、表現する喜びが感じられる場
- 実験し、体験し、発見する驚きの感じられる場
- 本物・実物に触れる
- 利用時間数を高め、余裕のある空間を確保する



美術室 坂井市立丸岡南中学校(福井)



音楽室 熊野市立有馬中学校



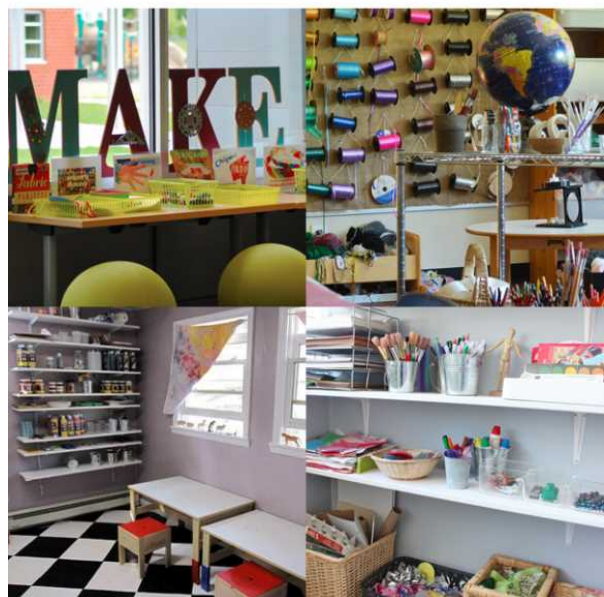
調理室 武蔵野市立大野田小学校

ティンカー・スペース メーカー・スペース



TINKERING SPACES

A SERIES OF INSPIRING INTERVIEWS
WITH MAKERS, EDUCATORS, + PARENTS



Tinkering is about playing, exploring, experimentation and setting imaginations on fire!
Build your own **tinker space** and ignite a passion for learning.
www.steampoweredfamily.com

STEAMコモンズ Science + Art & Craft Center



理科センター カリタス女子中学・高校

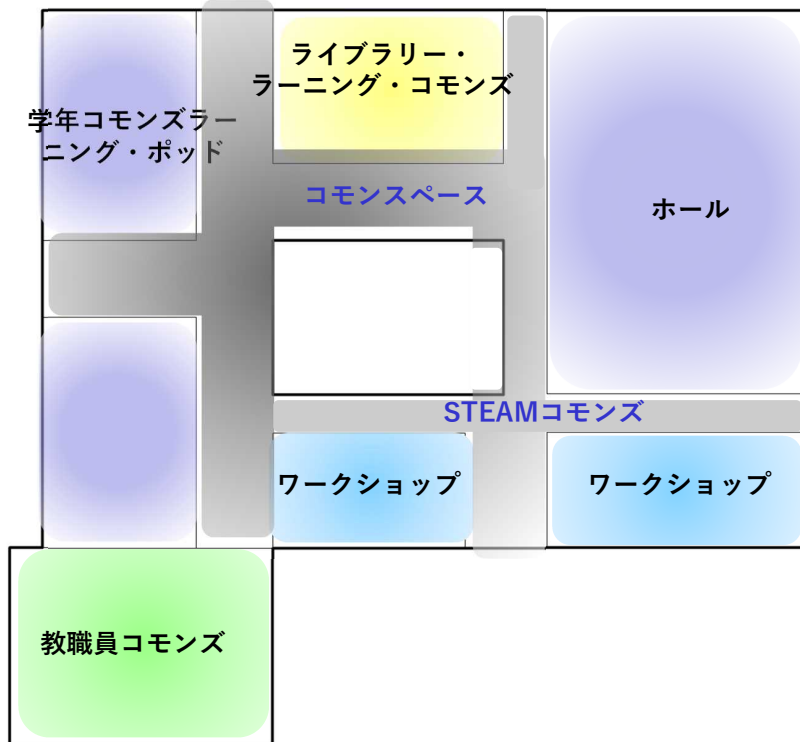


美術センター 同志社中学校



学校・高等学校

コモンスペース



発表・集まりの場



同志社中学校



楽しいトイレ・水場

4K → 新4K
 きたない → きれい
 くさい → かいてき
 くらい → けんこう
 こわい → こうりゅう

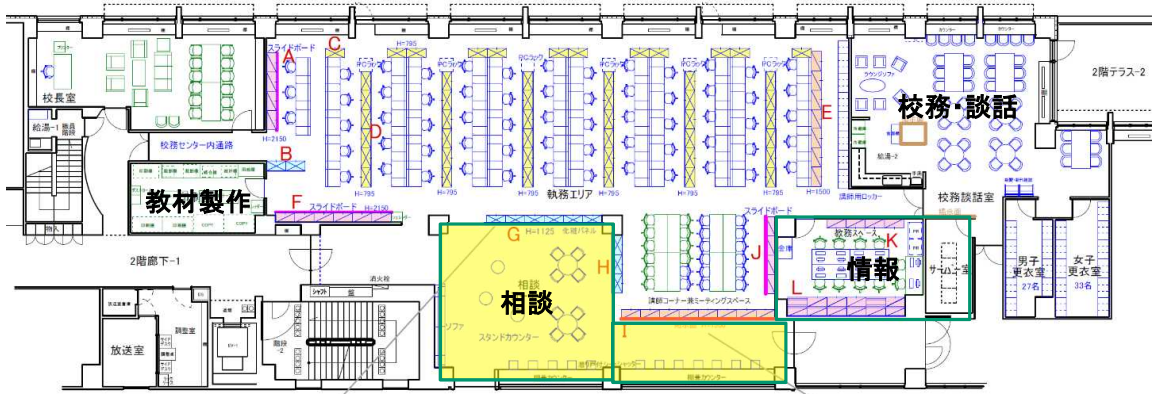


藤村女子中学校



三春町立要田中学校 (福島)

入りやすく、気軽に相談ができる職員室



カリタス女子中学校・高校



南部町立名川中学校(青森)

教職員コモン

教師の働き方改革

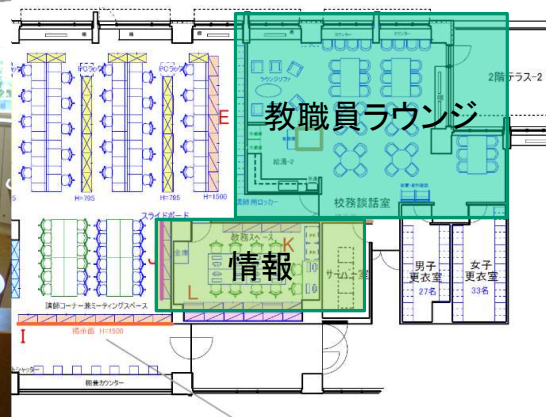
- ⇒ 多様なコミュニケーション
- ⇒ 印刷・教材製作・情報処理
カリキュラム管理
- ⇒ リフレッシュできるラウンジ



教材製作・カリキュラム管理室



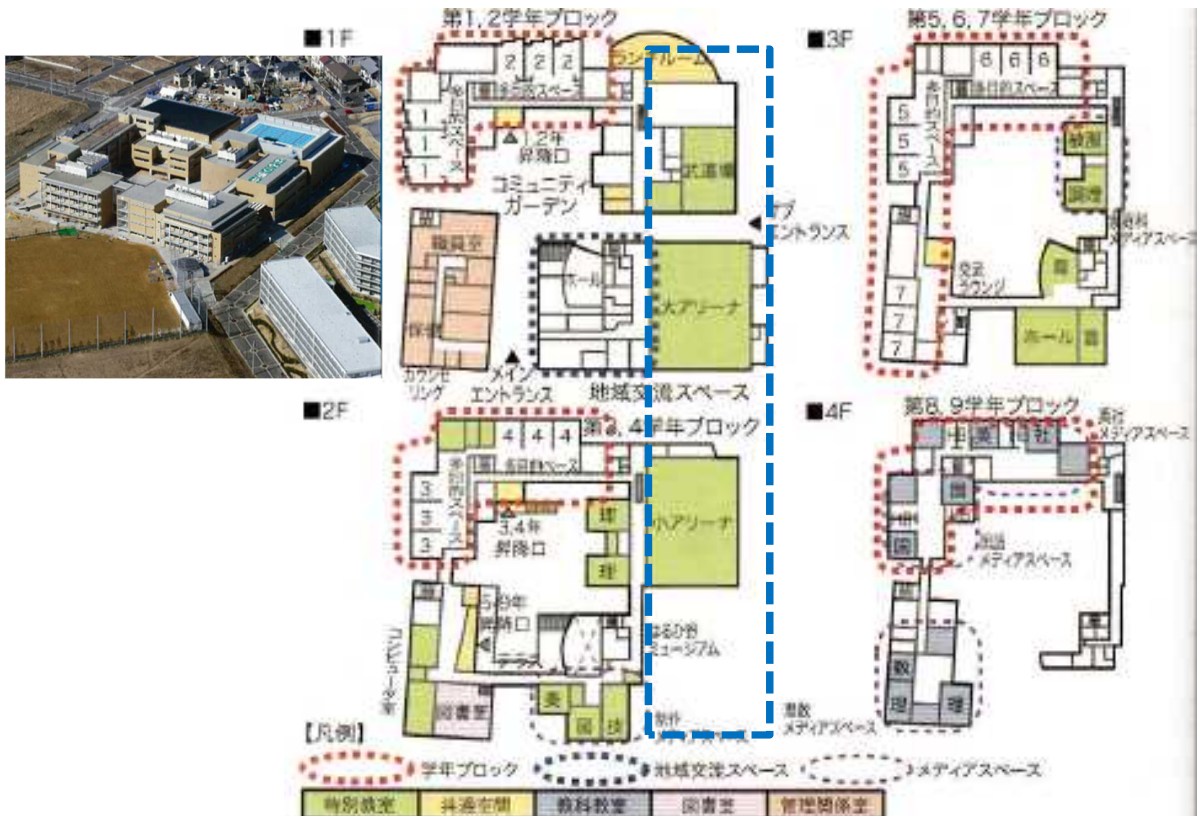
カリタス女子中学校・高校



小中一貫教育校の計画例

川崎市立はるひ野小学校

施設一体型の小中一貫教育校の計画例 川崎市立はるひ野小学校・中学校



交流の場となるアプローチ



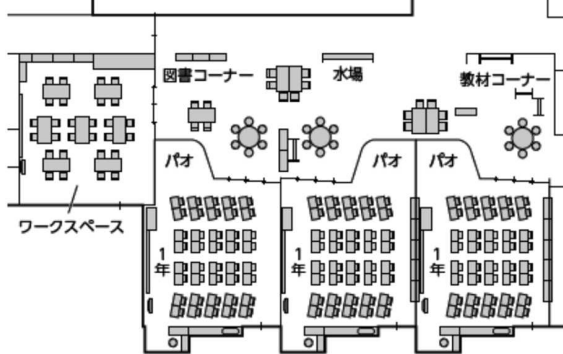
川崎市立はるひ野小学校

小中交流スペース

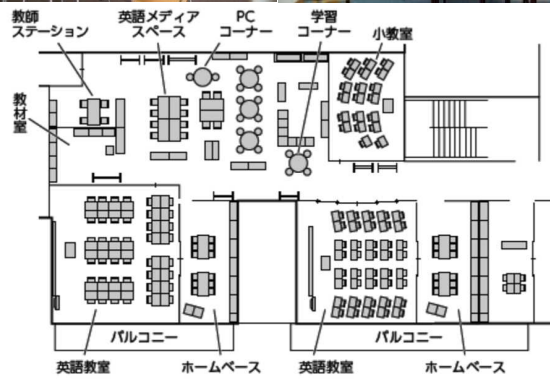


学年段階に応じた教室まわり

川崎市立はるひ野小・中学校



1・2学年: 学年コモンズ



8・9学年: 教科コモンズ

全校教職員スペース



学校と地域の交流スペース



地域交流センター



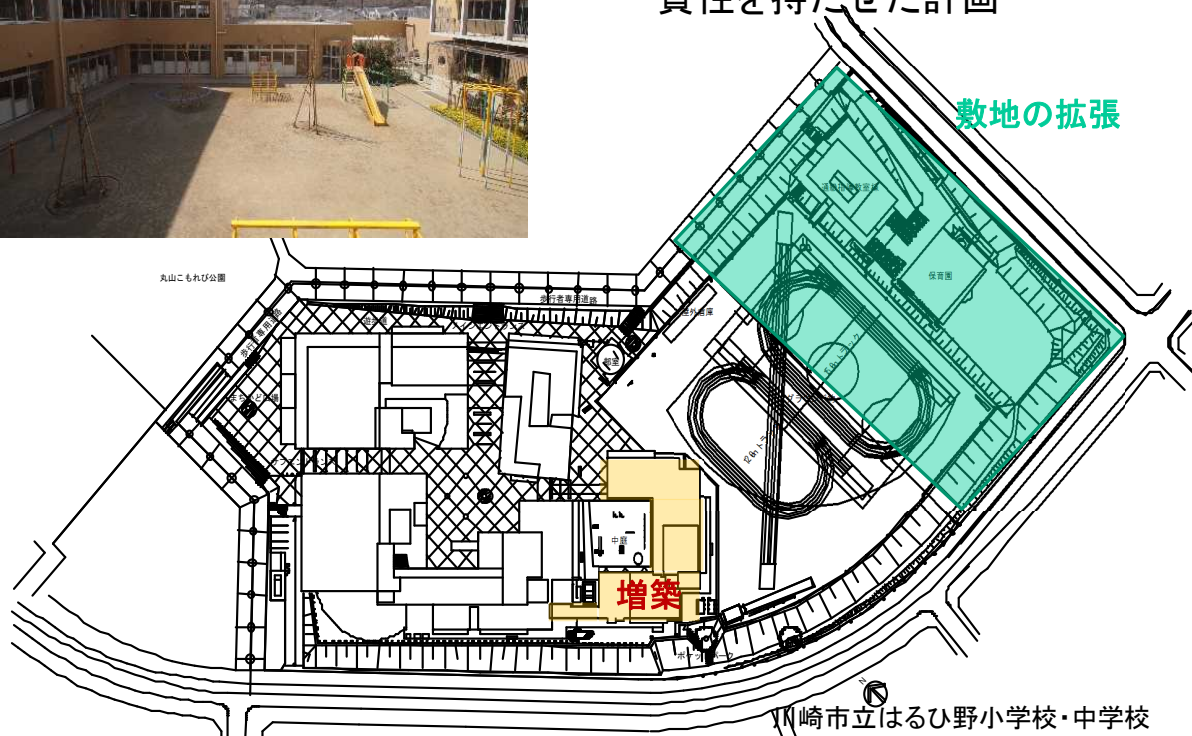
多目的室



増築棟

増築計画

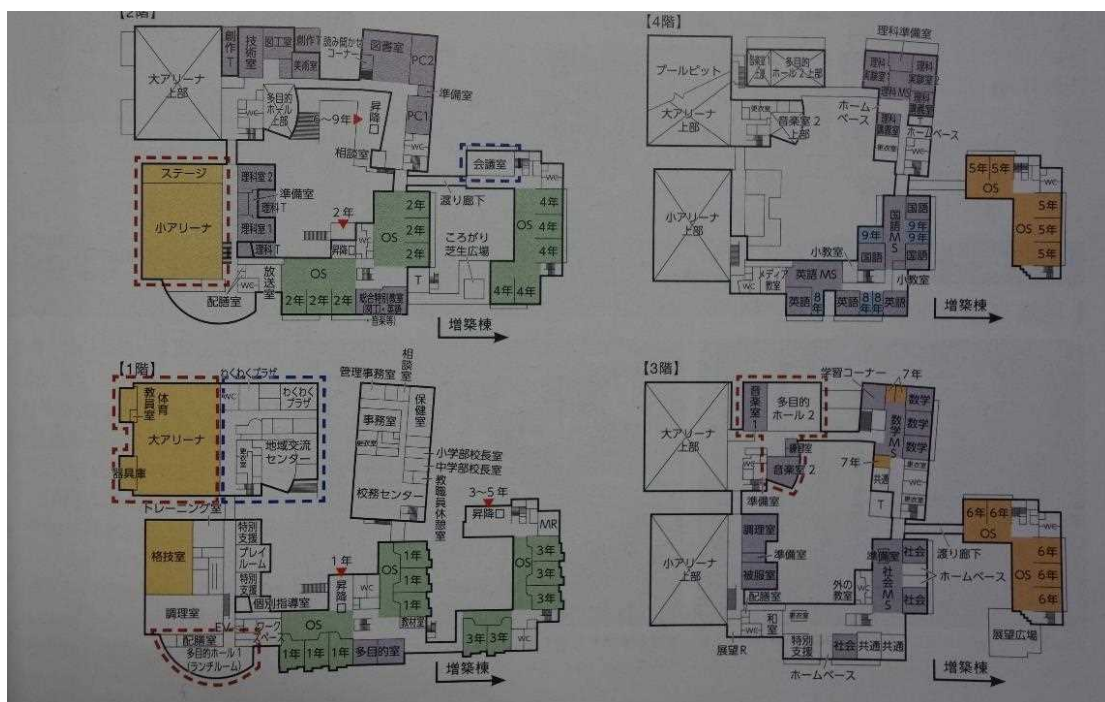
小中一貫教育校として
一貫性を持たせた計画



敷地の拡張

増築

増築計画



川崎市立はるひ野小学校・中学校

学校とコミュニティ施設の複合 コミュニティセンターとなる小学校

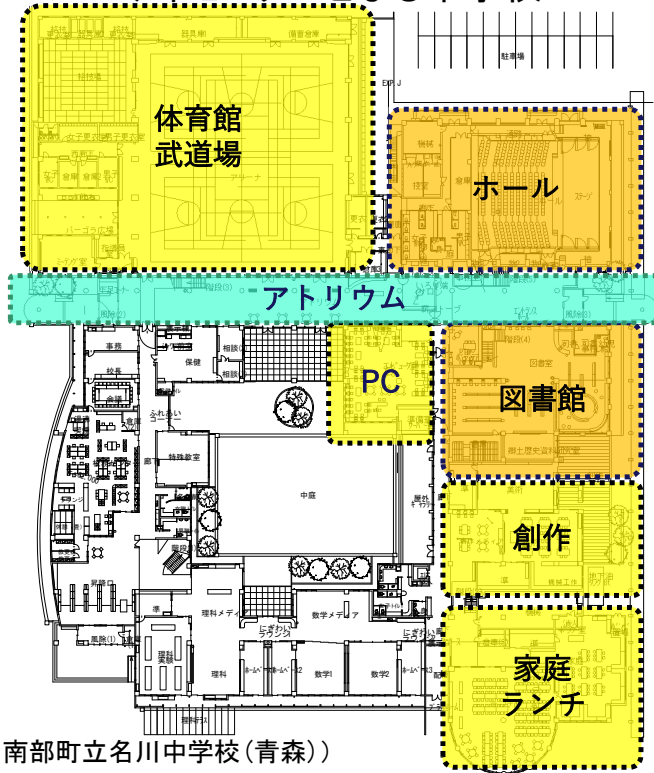
This section illustrates a school-community facility complex. The top part is an aerial photograph of the site, with labels identifying the 'コミュニティセンター' (Community Center), '体育館' (Gymnasium), 'ホール' (Hall), '小学校' (Elementary School), '図書館' (Library), and '児童クラブ' (Children's Club). The bottom part is a detailed floor plan of the building, showing the layout of various rooms and outdoor spaces. The plan includes a large hall, gymnasium, library, and classroom areas, with multiple entrances and exits.

近江八幡市立桐原コミュニティエリア(滋賀)

1階平面図

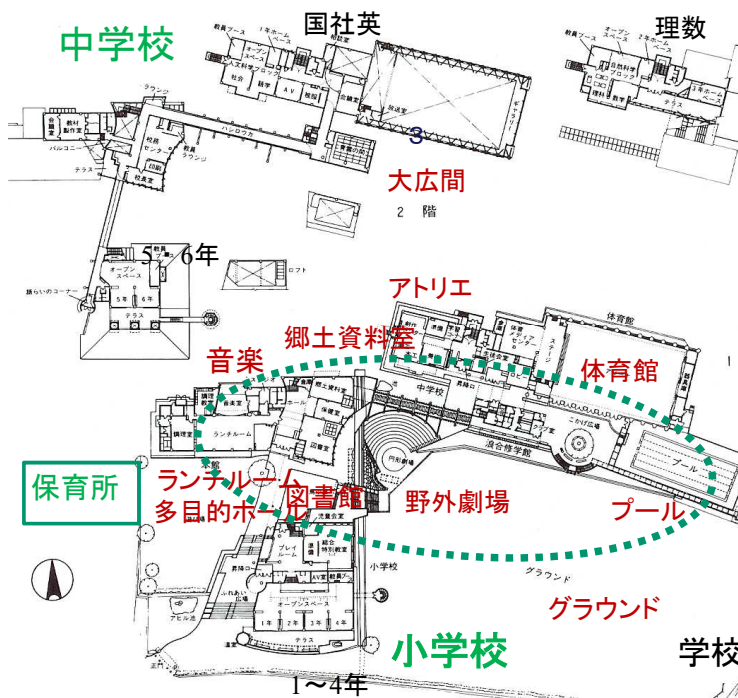
学校とコミュニティ施設の複合

コミュニティセンターとなる中学校



中山間地の小中併設校

学校は地域みんなのもの
地域を支える学校 地域が支える学校



村全体が村民すべての“混合学校”



東日本大震災からの学校復興 学校は地域の復興の核

「雄勝プロジェクト。みんなの夢の宝箱」
子供と書いて“みらい”と読む
未来と書いて“こども”と読む



特別教室棟

管理・特別教室棟

体育館



石巻市立雄勝小学校・中学校



さらなる検討課題

- 施設隣接型、施設分離型の施設的配慮
- 小学校複数校と1中学校による小中一貫教育校
合同授業、交流学习、教職員の交流
ネットワーク環境、オンラインの活用、スクールバス
- 学校統合と小中一貫教育校・義務教育学校
小規模・中山間地の小中一貫教育校のジレンマ
地域に学校を維持する←→学校規模の確保
低・中・高学年校の分散、中学校は集合
- 大規模な小中一貫教育校
帰属意識、交流、安心を確保できるゾーニング

小中一貫教育の意義、目標を共通理解し、
個別の条件に応じてみんなであり方を考える

講演1
海外事例

協働による 革新的な学習環境づくり

Hayball
Associate

Kit - ku

hayball

共創による
革新的な学習環境づくり

Kit Ku



国家的実践

Hayballは、建築、インテリアデザイン、都市計画を専門とした、オーストラリア最大規模の設計会社です。

スタッフ数

180

スタジオ数

03

事業年数

36

スタッフの国籍

27

関わるセクター

06

受賞

95



共創とは？

共創とは

集合的な設計プロセスにすべての利害関係者を関与させる。
結果がユーザーのニーズに合わせて調整されていることを確認する。





なぜ共創すべきか？

教育が主導する

学校の特定のニーズに対応する

学習者と教育者のニーズに対応する

「新しい学習空間を開発する設計過程に教師を
関与させることは、この空間と、この空間使用の
一端として想定された教育的なイニシアチブに対する
当事者意識、そしてより大きな支援とを獲得する、
と考えられている」

Terry Byers博士、2016年

「学校の建設と運営に子供と若者が参加することができるプロジェクトは、学業成績の向上、出席率の向上、態度の改善とプラスの相互関連性がある」

Passon, Levi, and Ri 、 2008年



関与

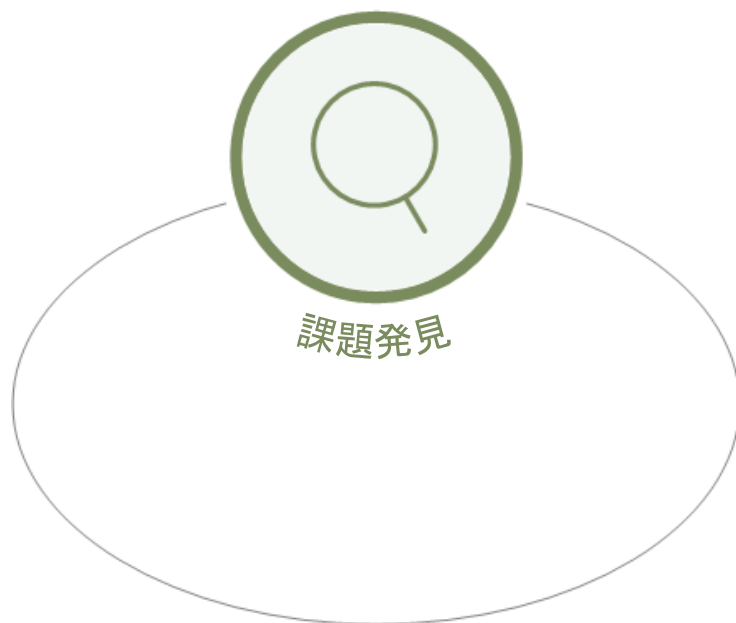


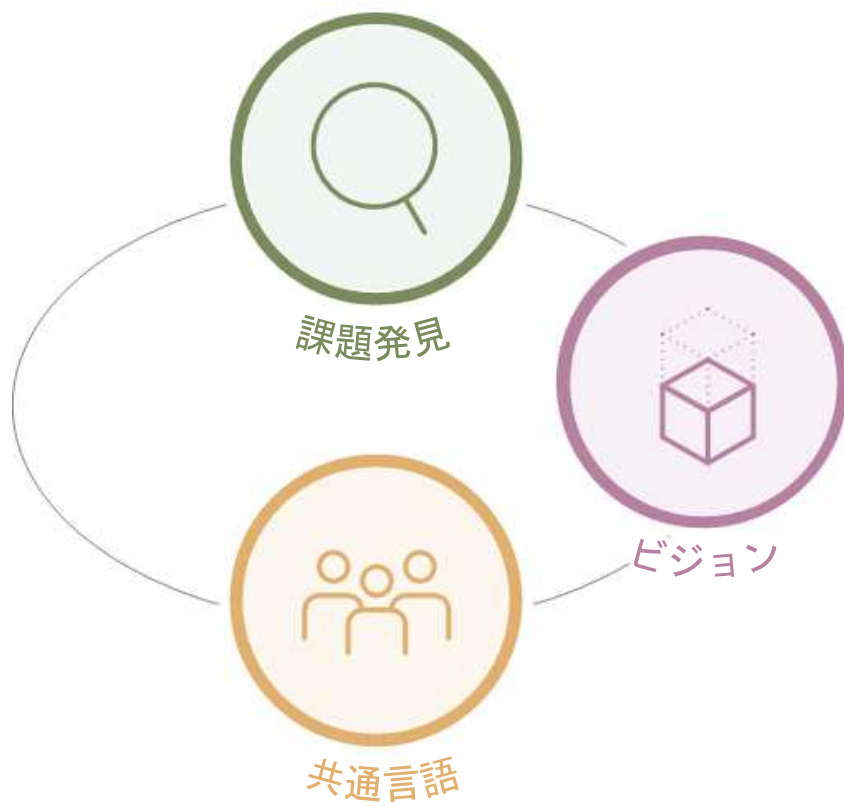
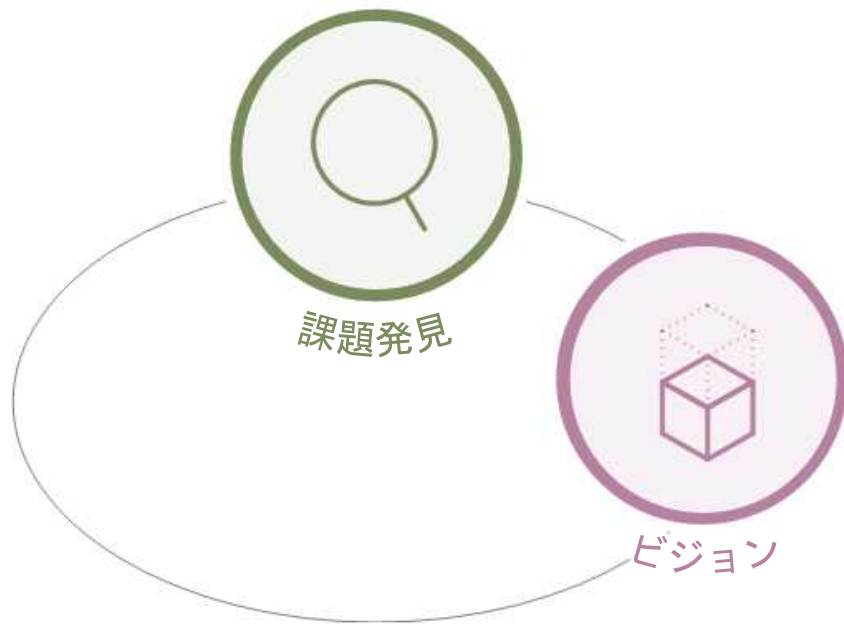
当事者意識

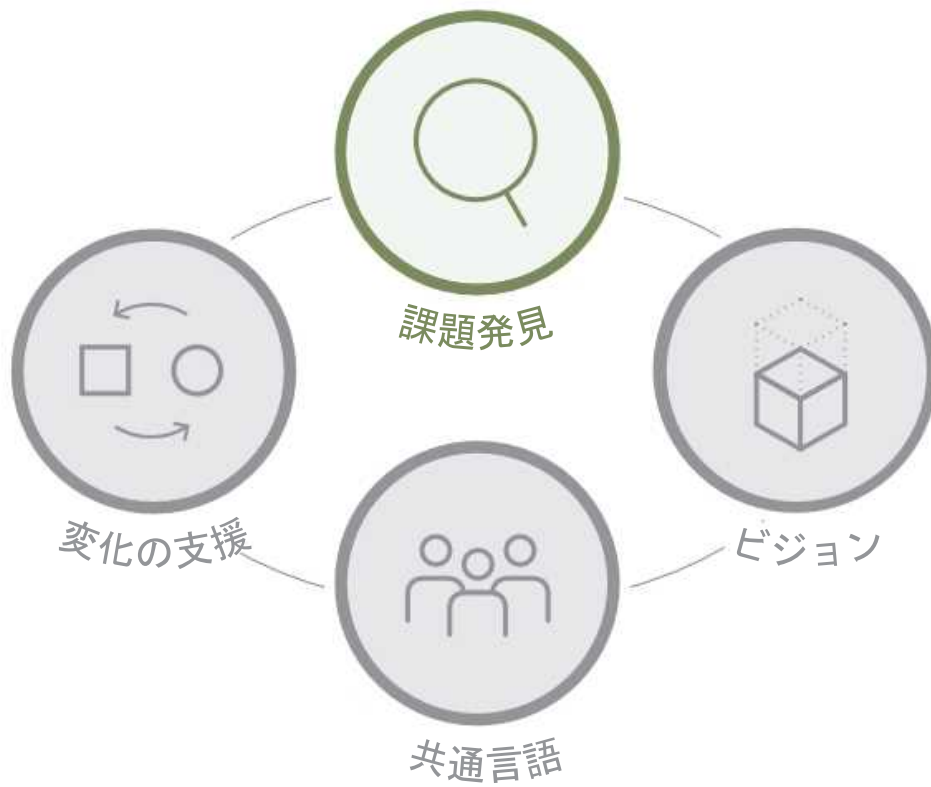
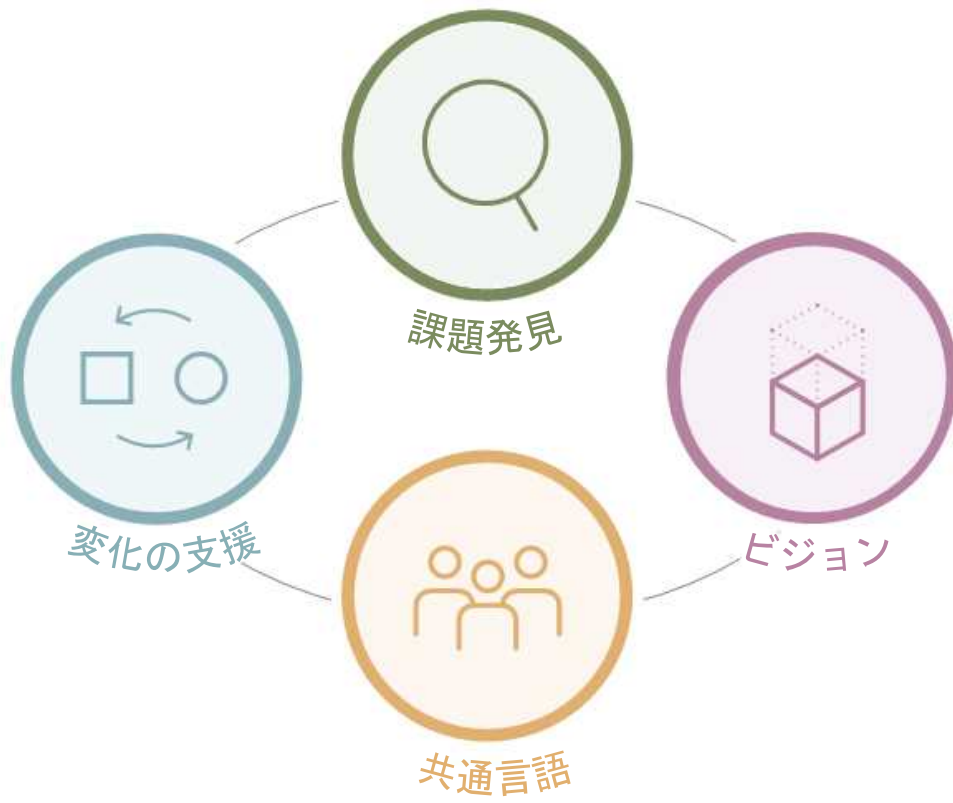


スムーズな引き渡しと
移行

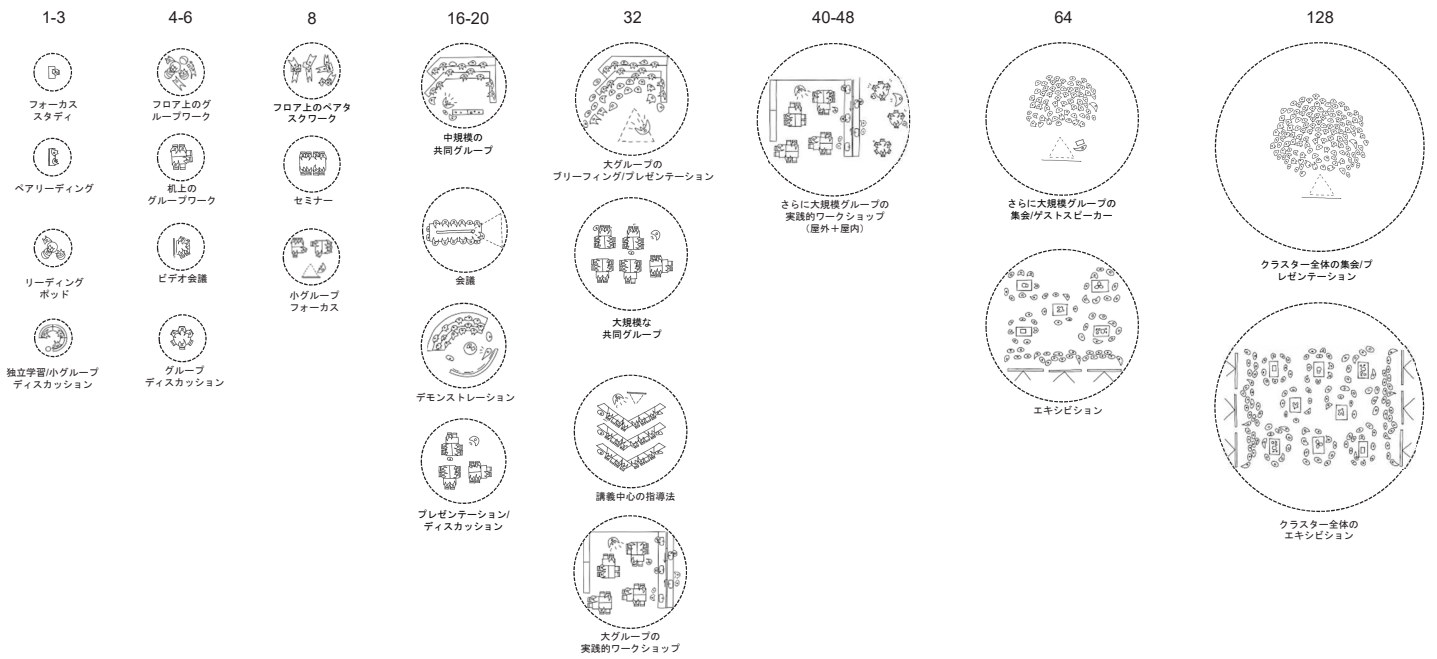
共創の方法とは？

















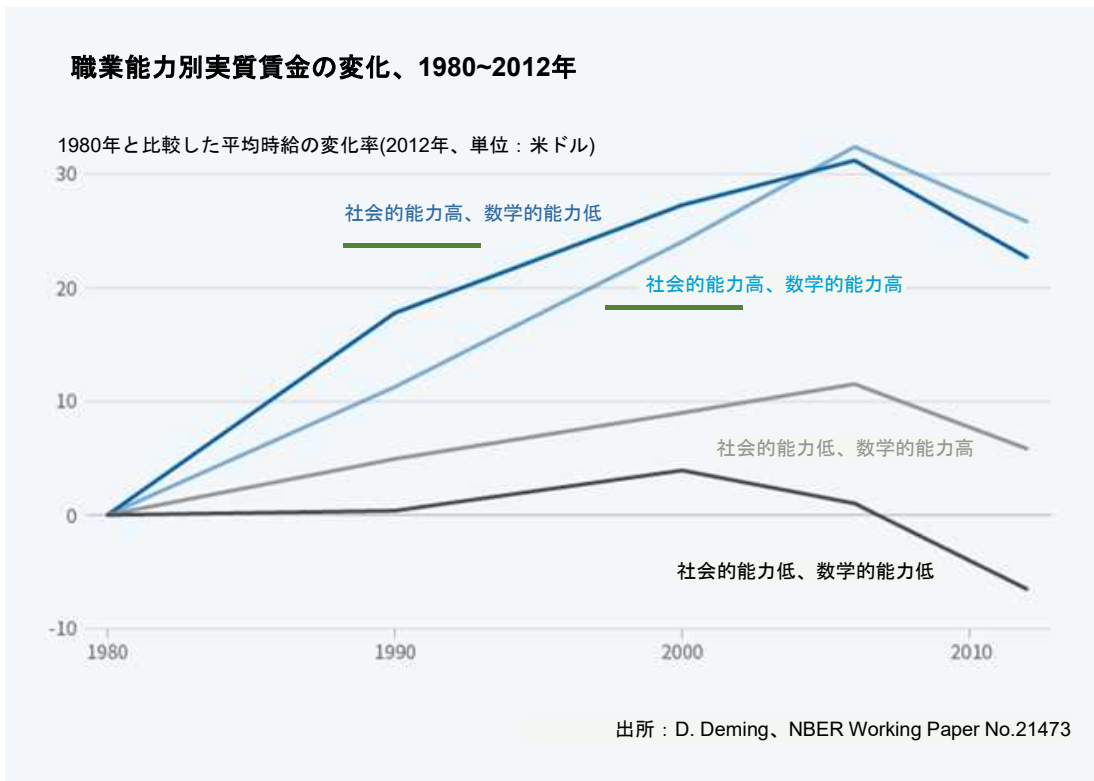


最大 **8億人分の仕事**が
オートメーションで奪われる可能性

表4：需要のある技能トップ10の比較2018年と2022年

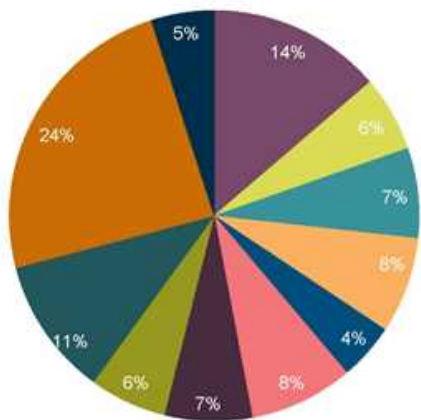
2018年、現在	2022年、上昇	2022年、低下
分析的な思考とイノベーション 複雑な問題解決 批判的思考と分析 能動的学習と学習戦略 創造性、独自性、イニシアチブ 細部への気配り、確かな信頼性 感情的知性 論理的思考、問題解決、観念化 リーダーシップと社会的な影響 調整と時間管理	分析的な思考とイノベーション 能動的学習と学習戦略 創造性、独自性、イニシアチブ 技術設計とプログラミング 批判的思考と分析 複雑な問題解決 リーダーシップと社会的な影響 感情的知性 論理的思考、問題解決、観念化 システム分析と評価	手先の器用さ、忍耐力と正確さ 記憶力、言語能力、聴覚能力、空間能力 財源や物的資源の管理 技術の設定と保守 読み、書き、数学、積極的傾聴 人事管理 品質管理と安全意識 調整と時間管理 視覚、聴覚、発話能力 テクノロジーの使用、監視、制御

「仕事の未来」レポート、世界経済フォーラム



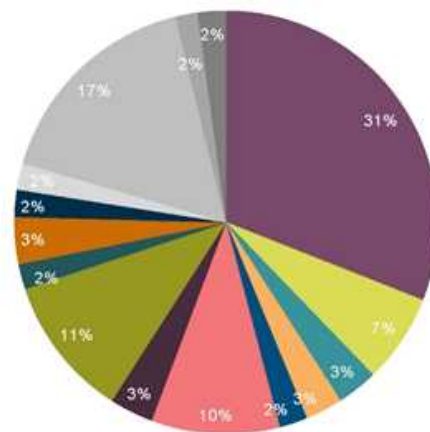


学生の活動



- 家で宿題をする
- 学校でグループプロジェクトや勉強をする (図書館や学習ハブなど)
- 学校で個人のプロジェクトや勉強をする (図書館や学習ハブなど)
- 学校行事 (集会や学園祭など)
- ホームルーム/学校での学級会
- 学校での激しいスポーツ (ランニング、バスケットボール、ネットボール、ダンスなど)
- 学校での軽いスポーツ (ウォーキング、ヨガ、ピラティスなど)
- 学校でのスポーツ以外の課外活動 (音楽、ディベート、模擬裁判、ボランティア/慈善活動など)
- 学校での友達付き合い (オンライン)
- 学校での友達付き合い (対面)
- 学校での内省心のケア (瞑想、マインドフルネス、カウンセリングなど)

職員の活動



- アクティブなクラス指導
- クラス外での学生の相談
- 遊び場の監督 (休み時間/昼食時)
- 学校での課外活動の監督 (音楽、ドラマ、スポーツなど)
- 全校集会と学校での社会イベント
- 授業準備と成績付け
- 職員会議
- 事務的な仕事
- 保護者との面談
- 学校職員との付き合い (昼食、コーヒー)
- 校内のトレーニング、セミナー、カンファレンス
- 学外：学外での課外活動の監督 (音楽、ドラマ、スポーツ、遠足など)
- 学外：自宅での授業準備と成績付け
- 学外：学外の会議

「地元の病院スタッフが日曜学校の場所を利用して幼少期に関する情報セッションを提供するなど、**地元のコミュニティに溶け込む**ことは素晴らしいと思う。」

マネージングディレクター

「コミュニティの構成員は情熱的な信念を持つことでつながっており、これは子供たちにも伝わります。当組織のすべての施設は現場の歴史とつながりがあります。」

宗教教育
コーディネーター | K-6

「強固な歴史、そして文化のつぼであるシドニーで「やればできる」アプローチによる現場とのつながり。しかし、活気がなく制度的な部分もあります。ステージをベースとする教育の利点は、学生は非常に才能があれば、彼らにその経験を提供することです。**勇気ある学びの会話**と、本質的な学習モデルを望んでいます。」

エグゼクティブプリンシパル | K-12

「柔軟な学びは重要です。直接指示を出すため30人の子供を集める必要があり、それから子供は立ち去りグループワークをします。」

副校長 | K6

「イタリアではその周辺にある街と共に教会がピアッツァという広場の中心にあるように、私たちは教会の周辺にある学校に注目することができます。ピアッツァは店舗の正面にあり、儀式的軸となる場所です。」

学校施設主任 |

「生徒は十分な利用可能なスペースで走り回りたいのです。それは男女ともアクティブで熱心な学生が発散できる機会です。学校はみんなが入れる集合場所、つまり、**舞台芸術ホール、ダンスパフォーマンスのステージ、屋内バスケットボール、体育館、GLA、そしてクリエイティブなアートと舞台芸術を育む**力が重要です。」

校長 | 7-10

探究型学習モデル—研究に基づいたアプローチでは、学生が疑問を提示し、ポートフォリオをデザインして、三次元の要素を実行します。**STEMはキャンパスのある特定の分野に関する**ことではなく、どこにでもあり得ます。」

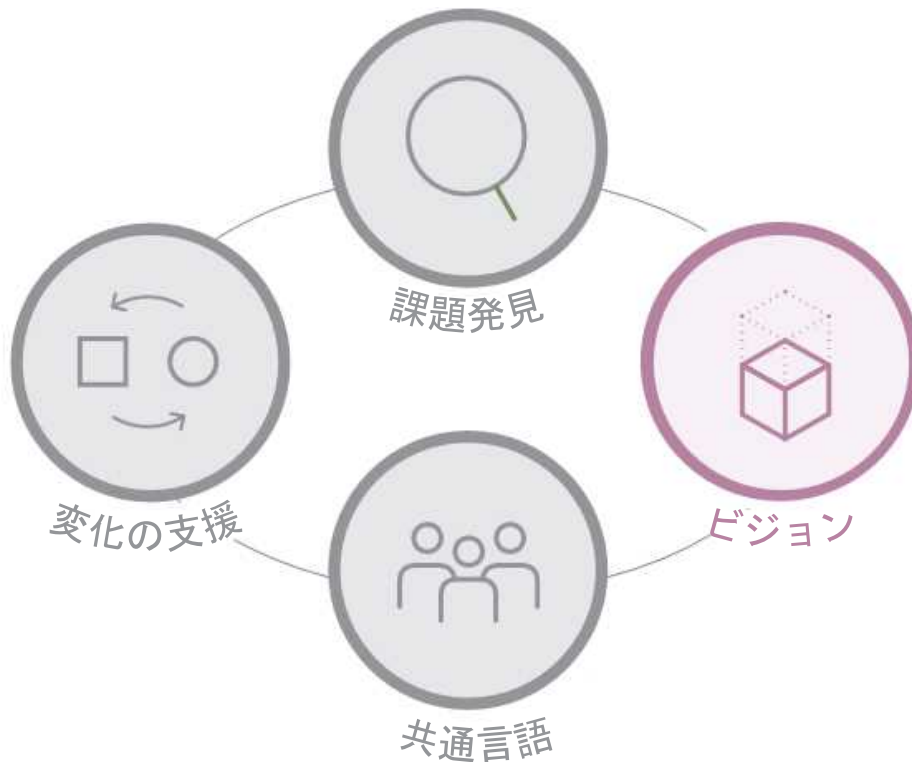
コーディネーター | K6

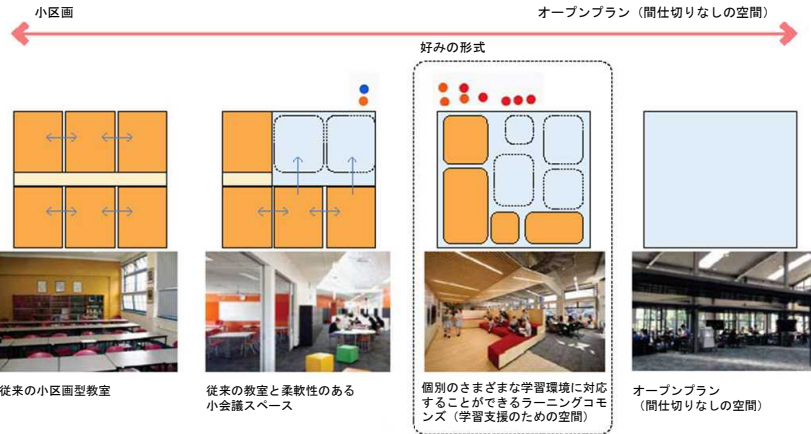
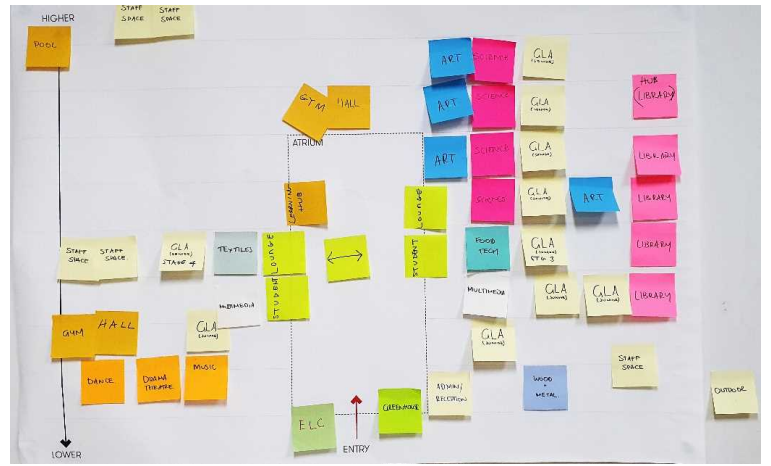
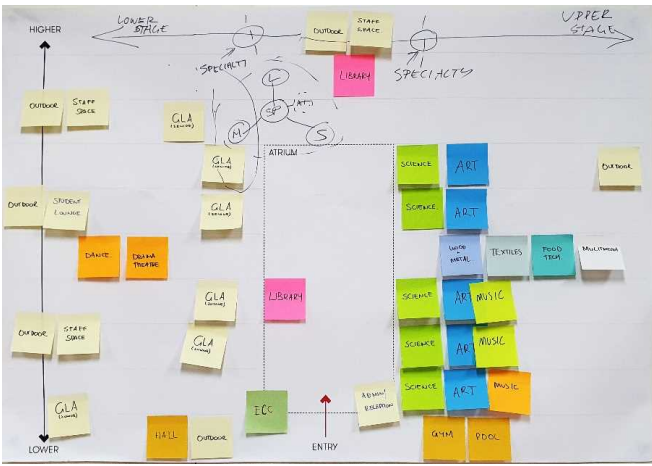
「学外でチームスポーツをする学生の割合は低いですが、学校が唯一のスポーツの機会です。**海に一度も行ったことがない子供もいます**。学習の効果を損なうという議論もありますが、こうした認識は変わりつつあります。」

コーディネーター | K6

「**専用のダンススタジオ**が必要で、体育にも、放課後上級生にも使えるかもしれません。くっつかないバネ床の。バレエというよりコンテンポラリー、ジャズ、タップ。学外のダンス大会、SCSダンス大会に参加する80~90人の学生たち。音楽には防音の練習室が必要です。個人または小グループで、部屋数は多いほうがいいでしょう、そしてバンド用の場所も。」

学習CAPAリーダー | 7-10

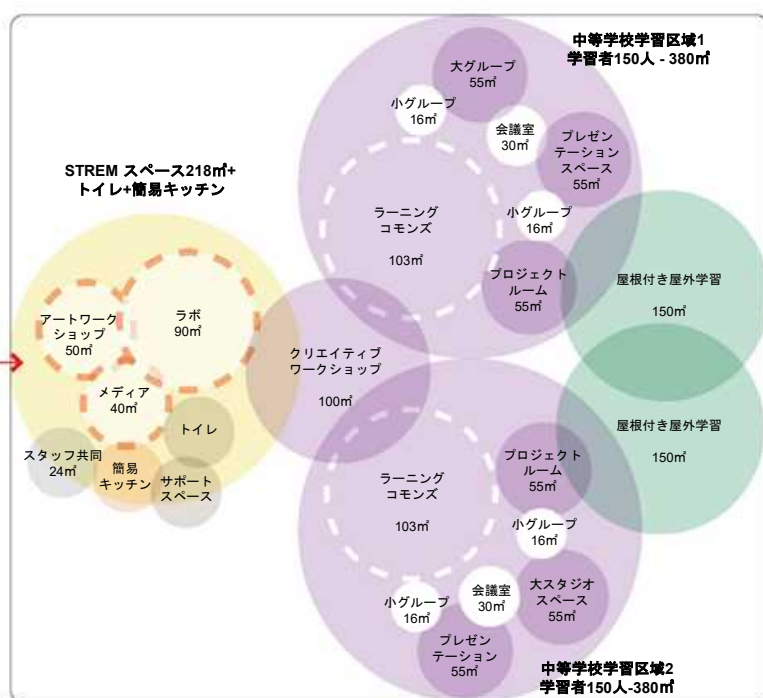
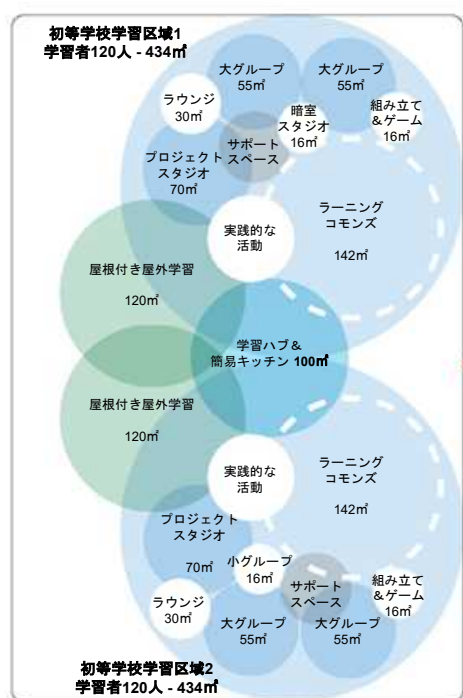


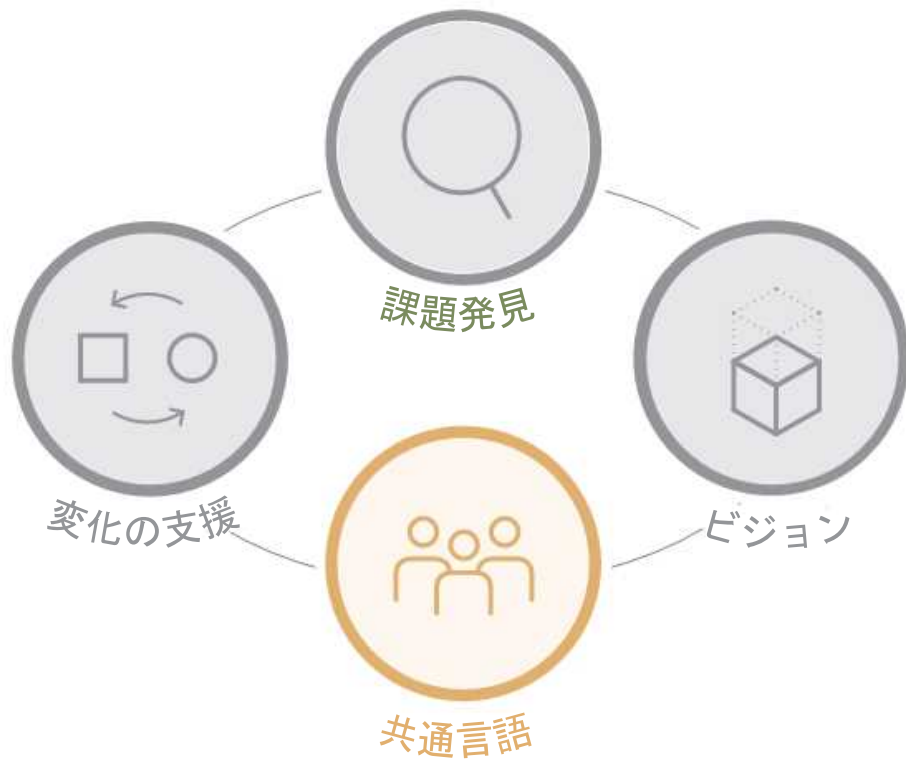




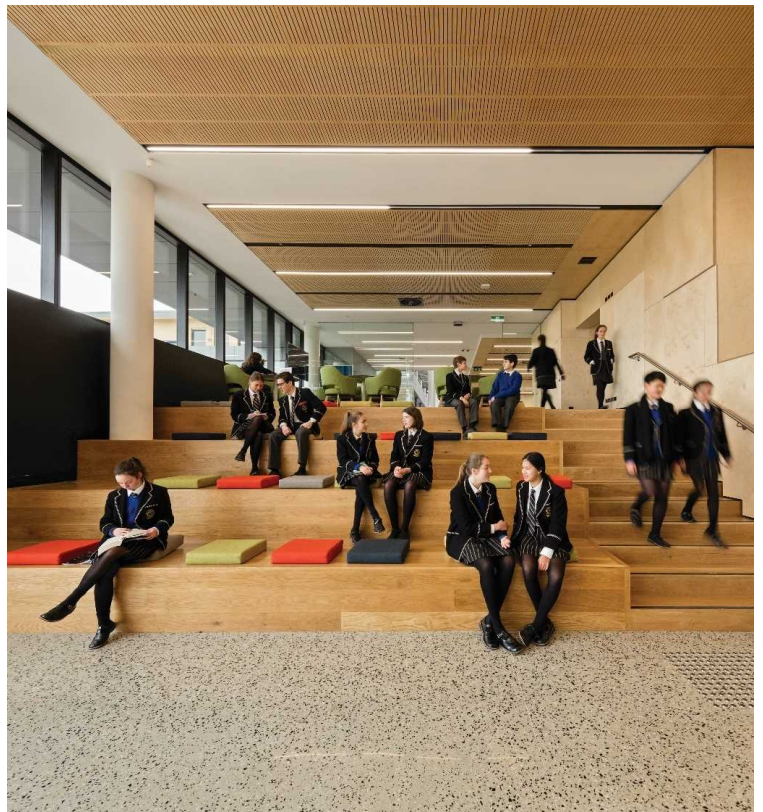
初等学校学習コミュニティ学習者240人
868㎡+240㎡ 屋根付き屋外学習

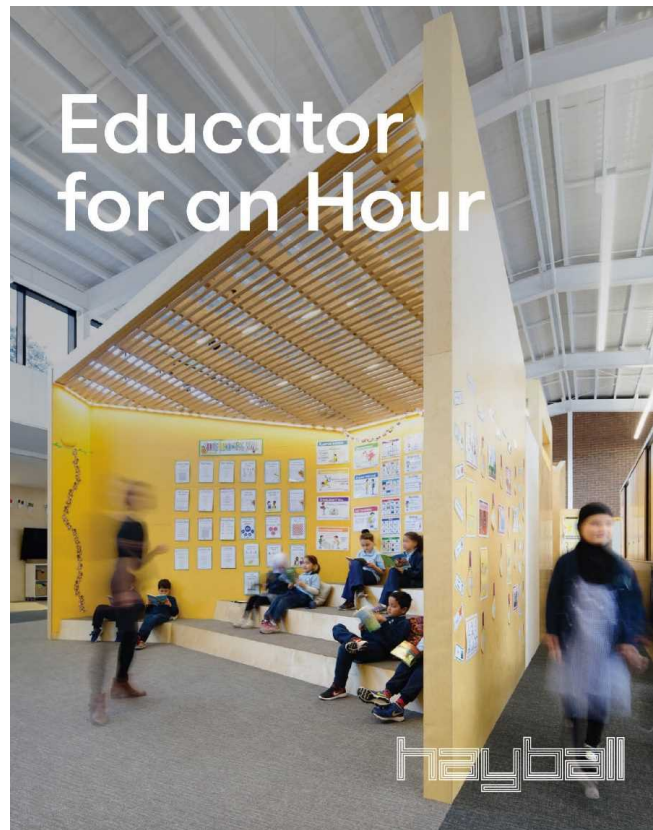
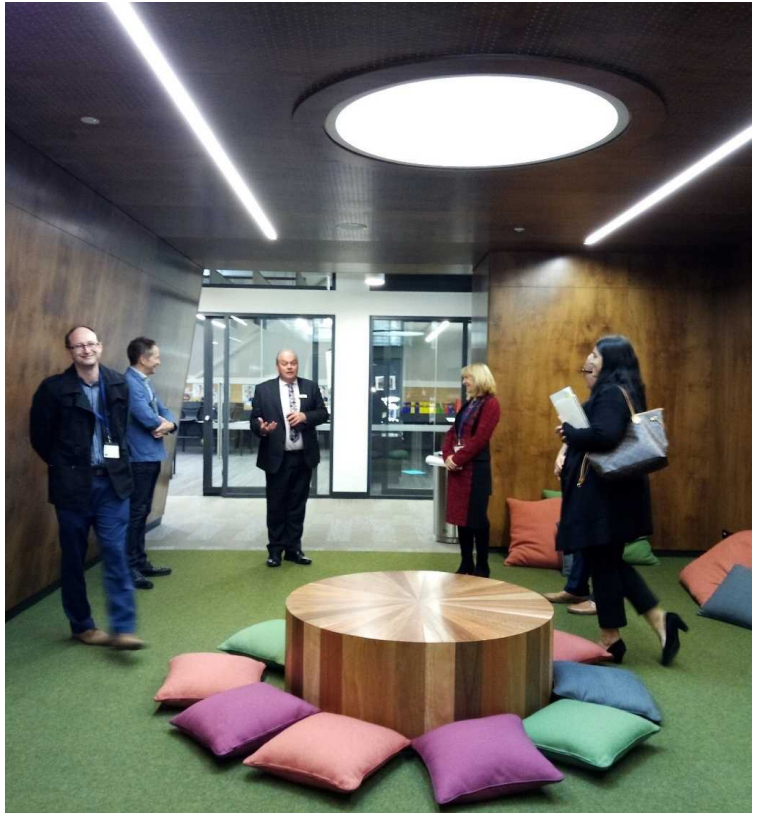
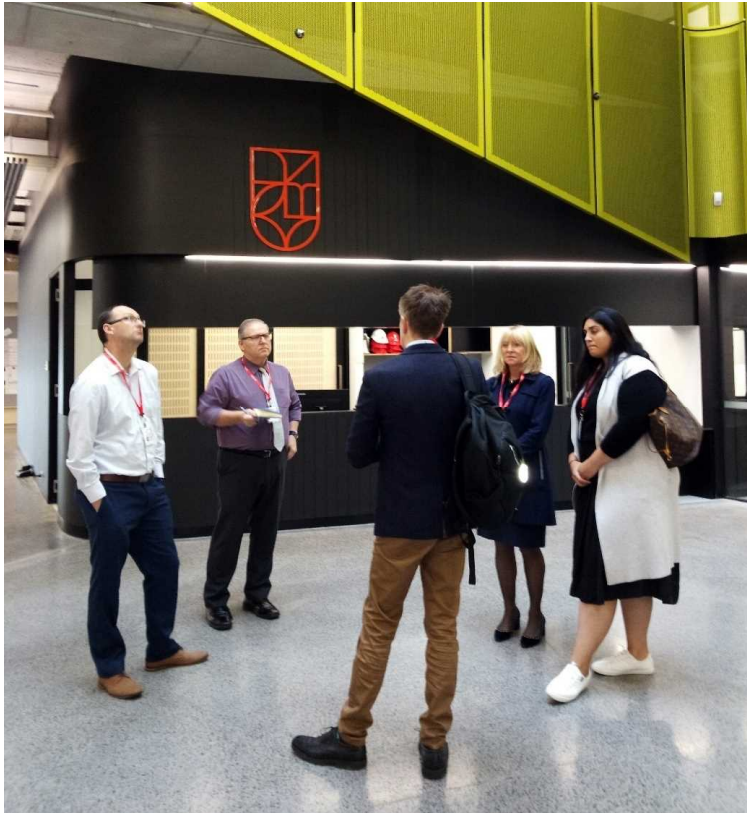
中等学校学習コミュニティ学習者300人
972㎡+300㎡ 屋根付き屋外学習



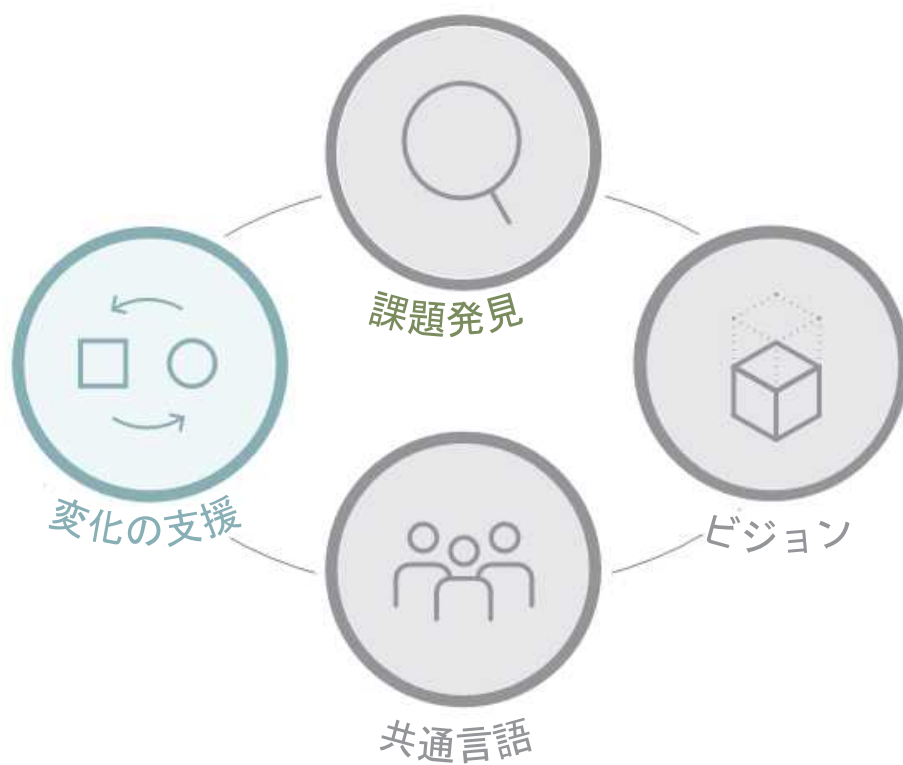






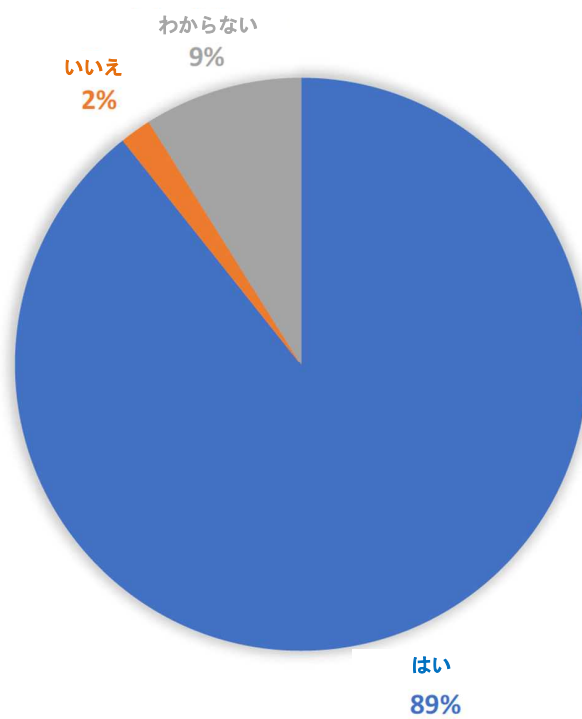


Winner 2018
Innovative Education Initiative

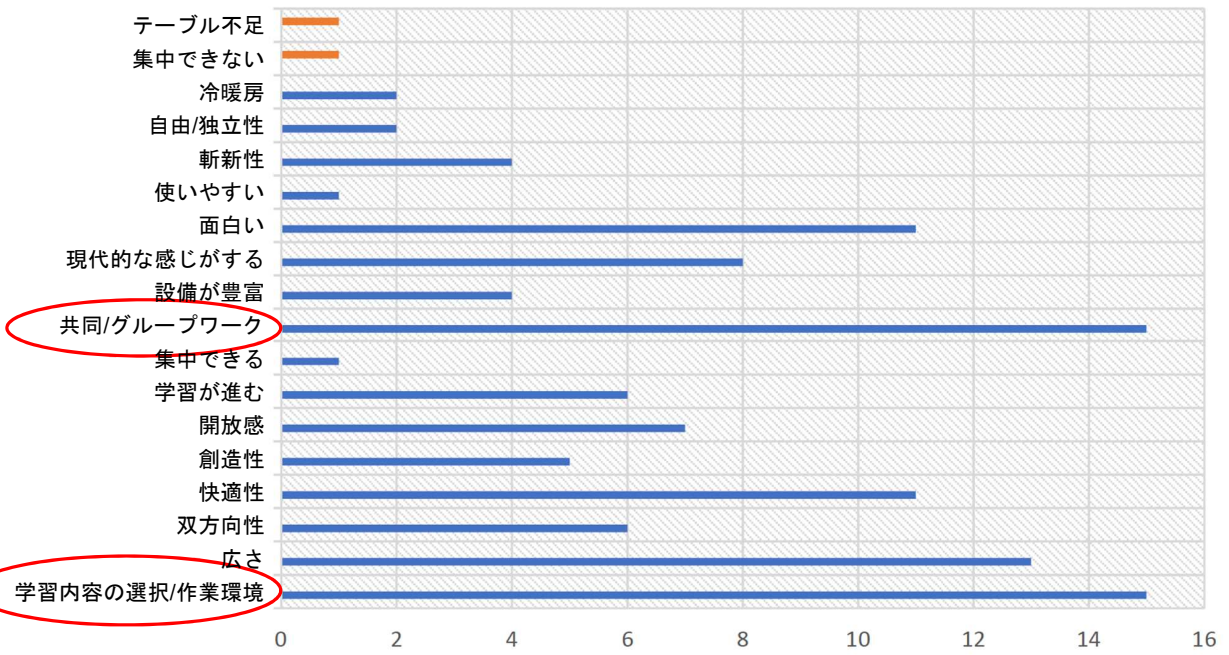


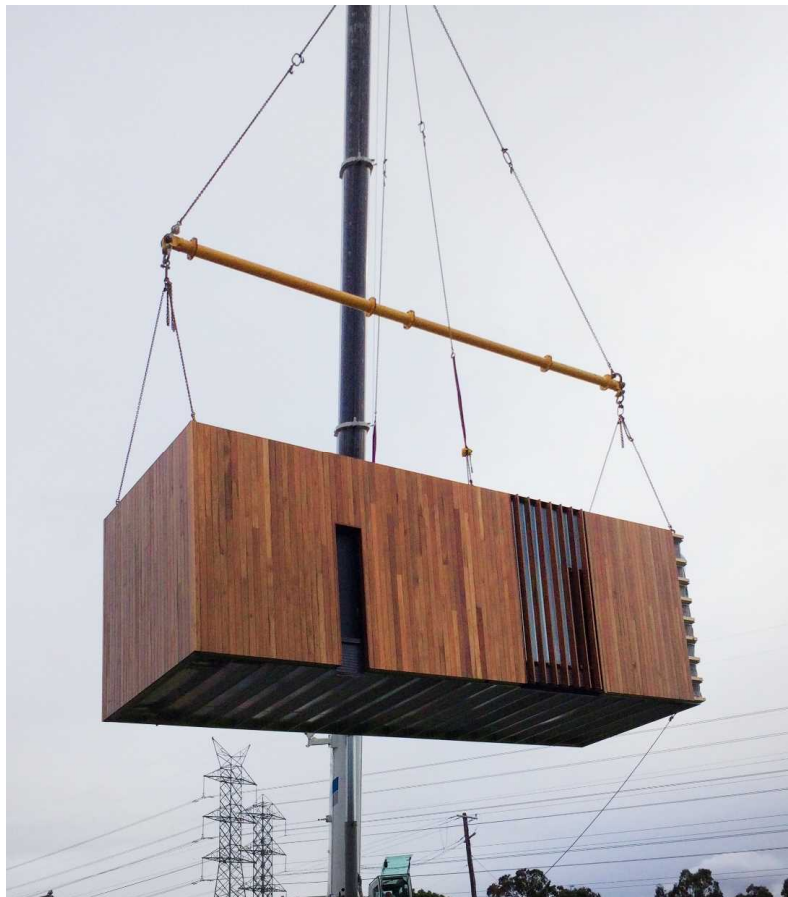



普通の教室よりも
ここで学習の方が好きですか？



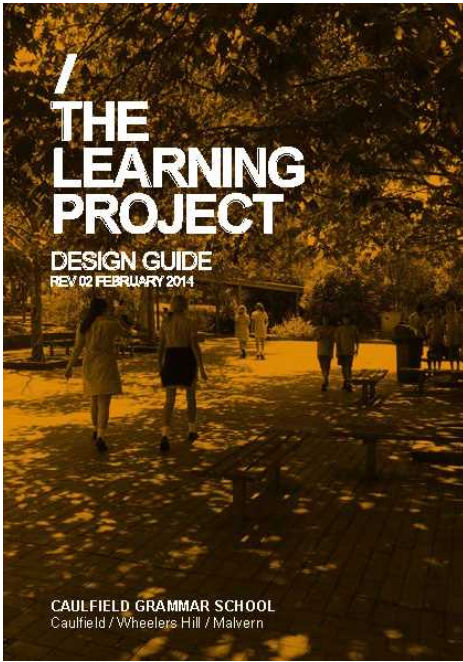
理由?





 ASSOCIATION FOR
**LEARNING
ENVIRONMENTS**
Enhancing the Educational Experience

Winner 2017
James D MacConnell Award



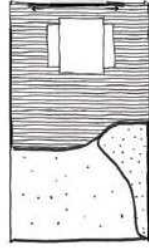
10/中庭

目的
個人または小グループの作業のための保護された屋外学習スペース。リラックスや読書にも向いている。

グループのサイズ
最大8人

備品
固定式テーブル、ベンチ2台、芝生の小山

テクノロジー+リソース
書き込みできる壁



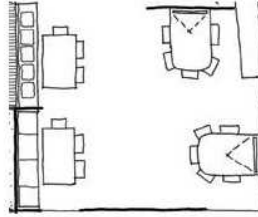
11/共同スペース

目的
共同のグループ作業を促進するためのオープン学習スタジオ、および学生が自立的に作業をするためのスペース

グループサイズ
最大24人 (4~6人の4グループ)

備品
固定式スタンディングベンチ2、スツール8、可動式スクリーン、固定式ベンチ/隣の座席、可動式テーブル2とイス6

テクノロジー+リソース
スタンディングベンチ用LCDスクリーン2、書き込みできる壁、テーブルと掲示板スペース



26 学習プロジェクトデザインガイド

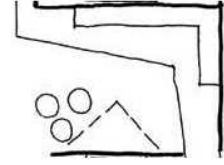
12/プレゼンテーションコーナー

目的
小グループのディスカッションやプレゼンテーションのための小さな上級スペース

グループサイズ
最大10人

備品
カーペット敷きの座席階段、布張りの長椅子3

テクノロジー+リソース
LCDスクリーン、書き込みできる壁、掲示板スペース



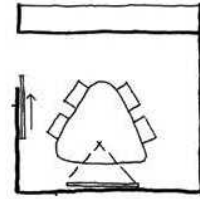
13/ビデオカンファレンス用ポッド (囲みスペース)

目的
ビデオ会議/スカイプ、メディアなど、学生主導の共同学習のための囲まれた会議スペース。

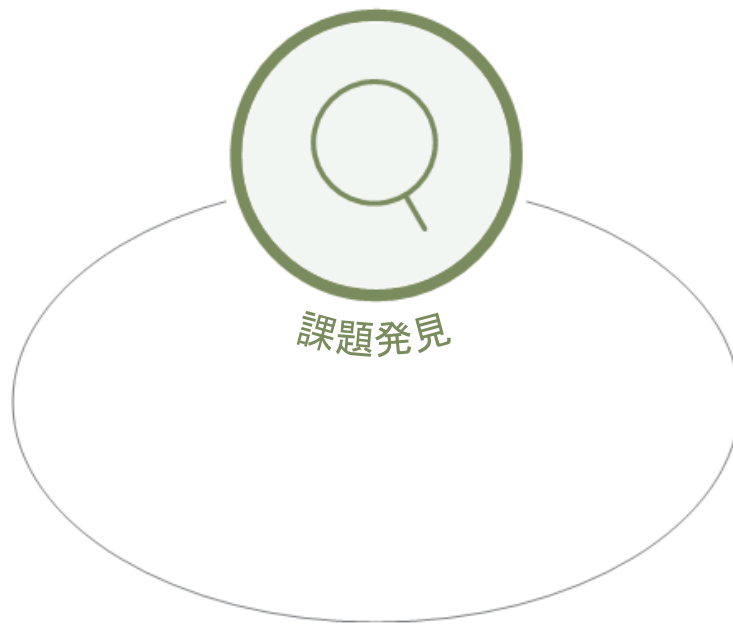
グループサイズ
4~6人

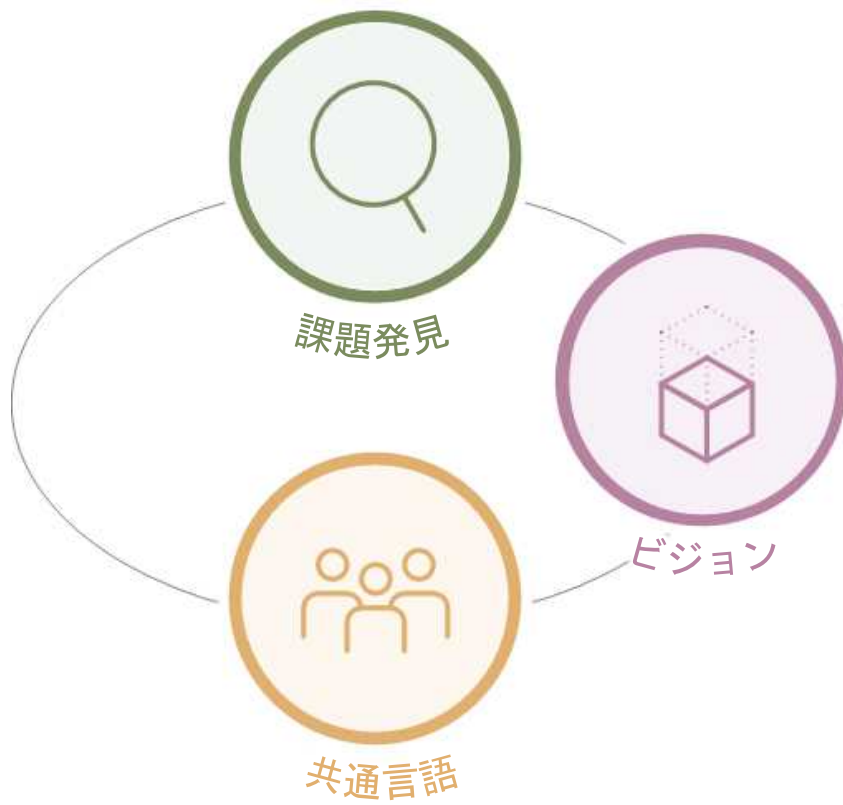
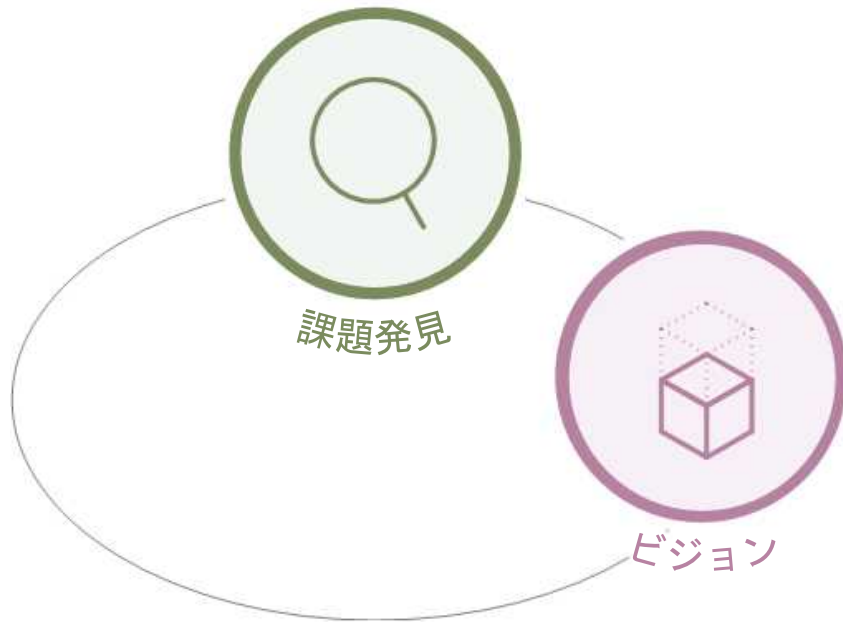
備品
固定式プレクトラム型テーブルとイス4

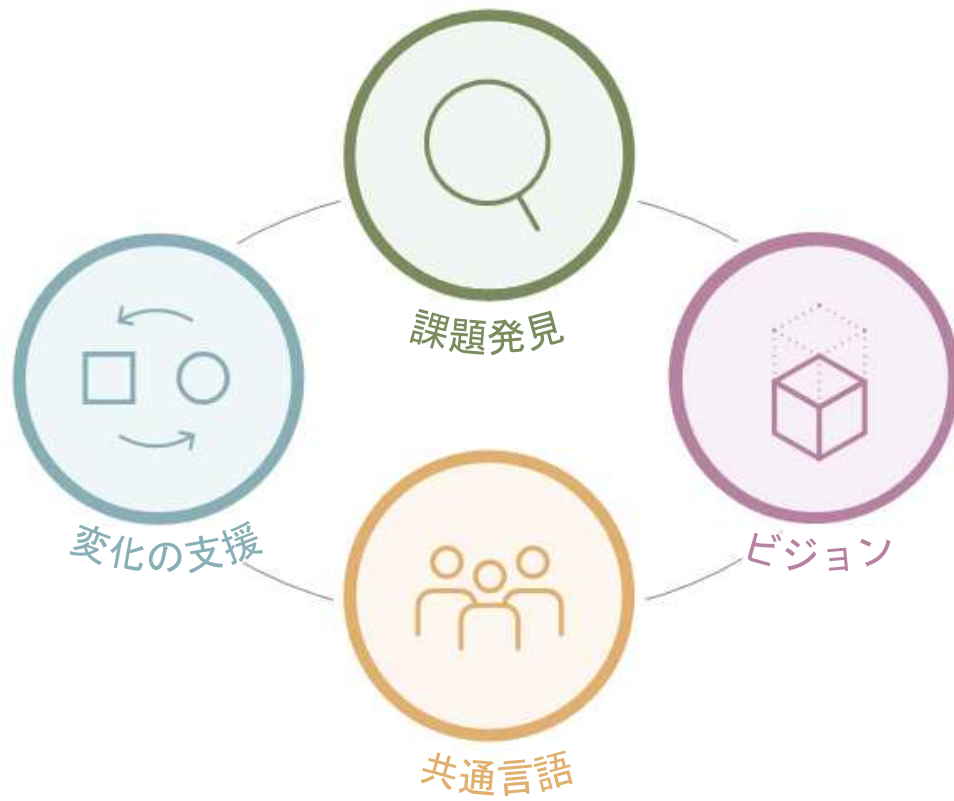
テクノロジー+リソース
LCDスクリーン、書き込みできる壁、調光照明とブラインド



学習プロジェクトデザインガイド 27







hayball

www.hayball.com.au
kku@hayball.com.au
www.linkedin.com/in/kitku/



講演2
国内事例

山と湖の小さな町の大きな挑戦
～住民対話と協働による学校づくり～

信州大学学術研究院・教育学系 教授

信濃町立信濃小中学校 初代校長

伏木 久始 峯村 均

信濃町教育委員会 総務教育係長

株式会社エーシーエ設計 取締役副会長

小林 義尚 関口 浪男

山と湖の小さな町の大きな挑戦

～住民対話と協働による学校づくり～

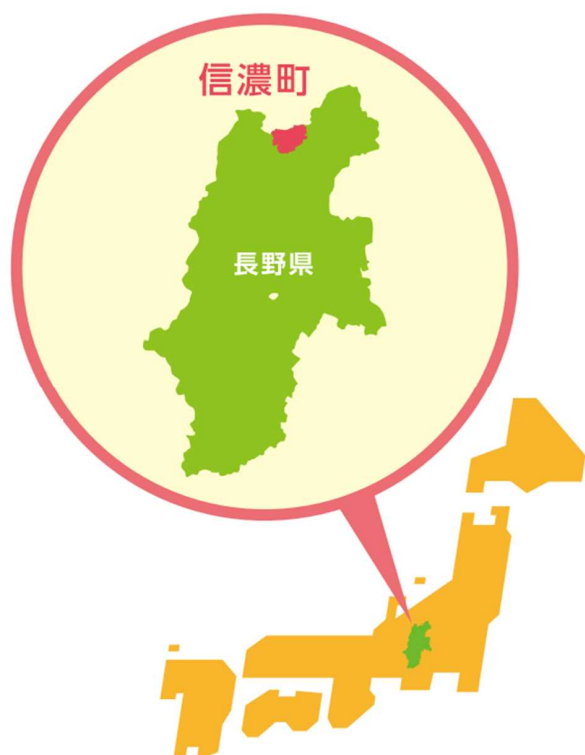


令和2年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会
令和3年2月10日

長野県 信濃町教育委員会

1 信濃町の概要

信濃町の概要



信 濃 町	
面 積	149.3 km ²
人 口	8,112人 (2021年1月)
人口密度	54.3人/km ²
森林面積	109.23 km ² (約73%)

- 斑尾・妙高・黒姫・戸隠・飯綱の北信五岳に囲まれ妙高戸隠連山国立公園の中の風光明媚な高原盆地帯
- 野尻湖のナウマンゾウ化石発掘、江戸時代の俳人小林一茶の生誕、終焉の地
- 積雪寒冷地：これがまあ 終の栖か 雪五尺（一茶）



児童生徒数の変遷

学校名	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H23年	H23/S60
野尻湖 小学校	145	133	140	105	96	88	73	52	37.1%
古海 小学校	64	45	36	27	34	30	32	6	16.7%
熊坂 分校	17	13	18	17	H5閉校				
柏原 小学校	347	371	406	344	289	193	159	161	39.7%
富士里 小学校	165	193	194	155	145	107	79	80	41.2%
古間 小学校	268	278	285	208	183	122	124	141	49.5%
小学校 合計	1,006	1,033	1,079	856	747	540	467	440	40.8%
信濃 中学校	561	482	528	523	389	353	252	221	43.2%
小中 合計	1,567	1,515	1,607	1,379	1,136	893	719	661	41.1%

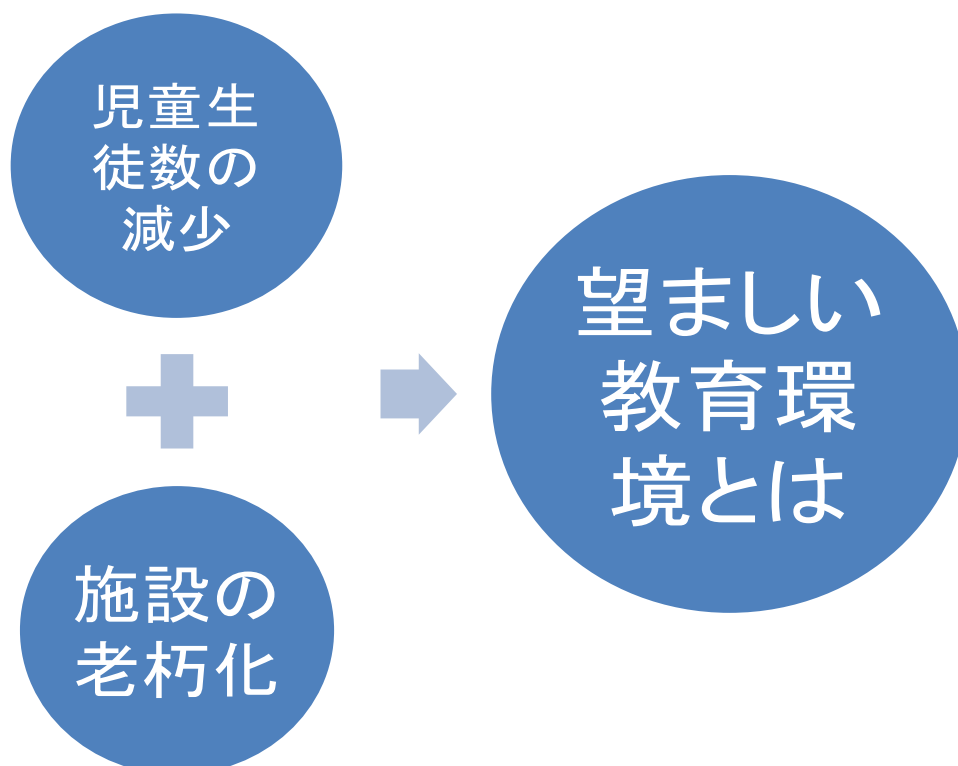
施設の老朽化と耐震性の確保

	野尻湖小		古海小		柏原小	
種別	校舎	体育館	校舎	体育館	校舎	体育館
建築	S47年	S47年	S48年	S55年	S53年	S54年
面積	1,924㎡	612㎡	1,487㎡	630㎡	3,483㎡	969㎡
耐震指数	0.31 3次診断	0.13 H22補強	0.21 1次診断	0.18 H22年補強	0.30 1次診断	0.37 H22年補強

	富士里小		古間小		信濃中	
種別	校舎	体育館	校舎	体育館	校舎	体育館
建築	S50年	S56年	S51年	S51年	S45年	S45年
面積	2,126㎡	732㎡	2,691㎡	790㎡	5,320㎡	1,277㎡
耐震指数	0.43 1次診断	新耐震	0.18 1次診断	0.14 H22年補強	0.188 1次診断	0.37 H22年補強

耐震指数：S56年以前の古い耐震基準で建てられた建築物の強さを表すのに使う数値。国土交通省の基準では0・6未満は「震度6強の地震で崩壊、倒壊する危険性がある」、0・3未満は「危険性が高い」とされる。文部科学省は学校の建物は地震時の避難所になることから、より安全な0・7以上に耐震補強するよう求めている。

望ましい教育環境とは何か？



2 小中一貫校施設概要



〈閉校記念〉信濃町立 野尻湖小学校 H23. 6. 8 撮影



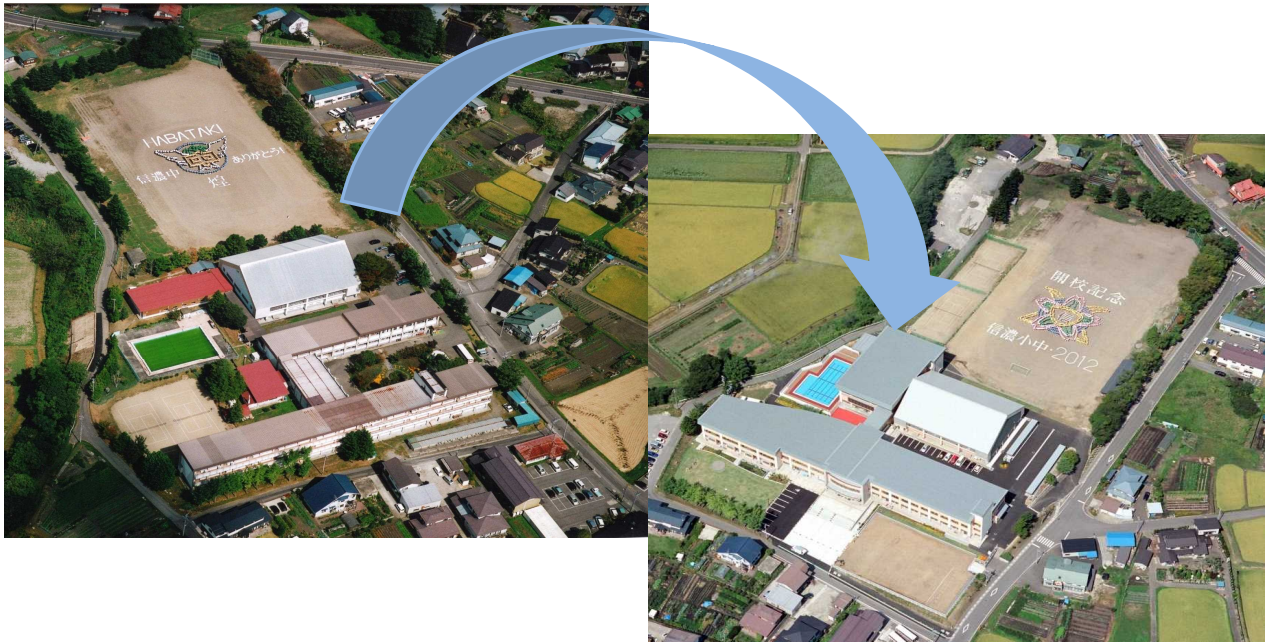
〈閉校記念〉信濃町立 古海小学校 H23. 6. 8 撮影



〈閉校記念〉信濃町立 柏原小学校 H23. 6. 8 撮影



〈閉校記念〉信濃町立 富士里小学校 H23. 6. 8 撮影



5つの小学校を中学校敷地へ統合して、
施設一体型小中一貫教育校をH24年4月に開校

建設費内訳・施設概要

事業費総額	2,262,417 千円
起債合計額	644,500 千円
補助金合計額	1,045,905 千円

学校建設年度別支払

H21	H22	H23	H24
125,774千円	833,853千円	1,175,241千円	127,549千円

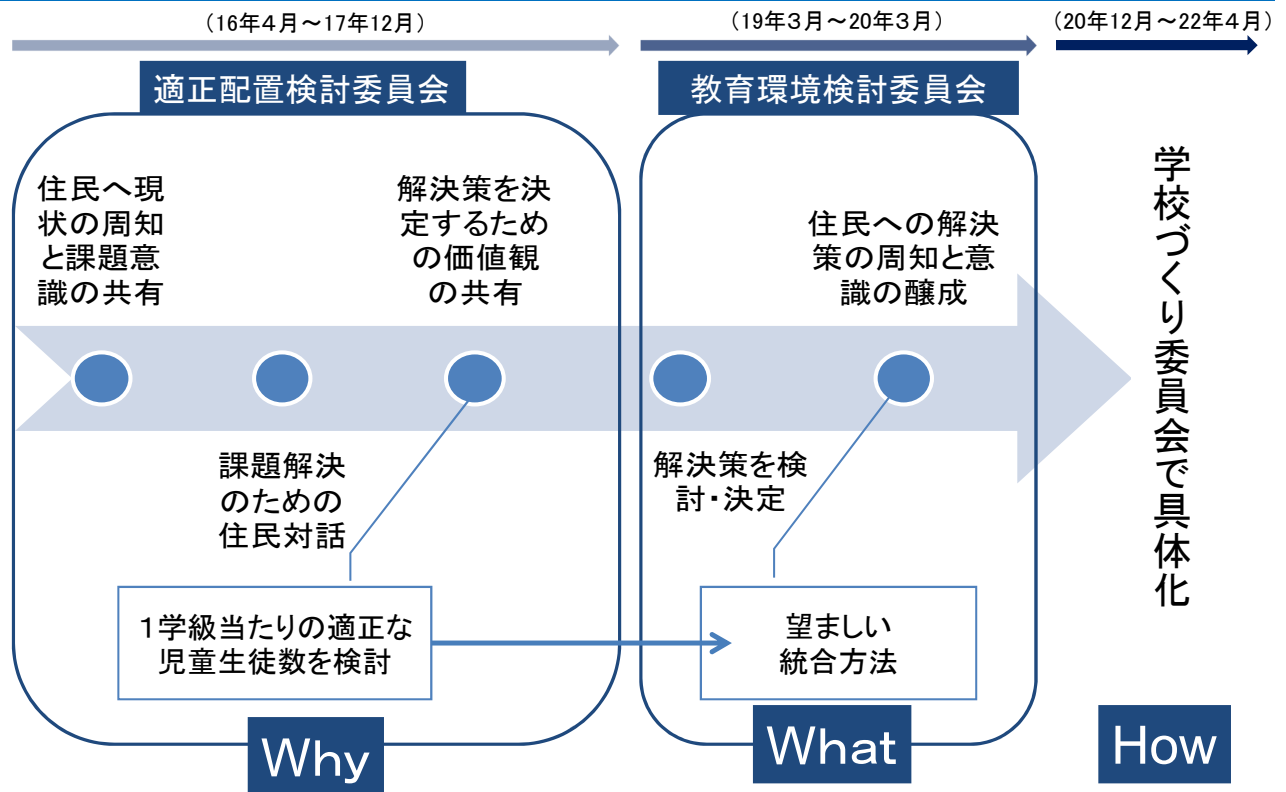
敷地	信濃町大字古間491			29,042m ²
建物概要	校舎棟	鉄筋コンクリート	3階	7,085m ²
	渡廊下棟	鉄骨	2階	118m ²
	新体育館棟	鉄筋鉄骨コンクリート	2階	1,789m ²
	旧体育館棟	鉄筋コンクリート	2階	1,280m ²
	プール棟	鉄筋コンクリート	平屋	98m ²
整備合計面積				10,370m ²

学校建設補助金

補助メニュー			場 所	補助率	算出根拠	金 額
H21 繰越	安全・安心な学校 づくり交付金事業	中学校地震補強	体育館	1/2 (1/3)	単価×面積	28,224千円
H22 H23	公立学校施設整備 国庫負担金事業	統合(小学校)	校舎 体育館	5.5/10 (1/3)	単価×面積	515,074千円
H22	安全・安心な学校 づくり交付金事業	危険改築(中学校)	校舎	5.5/10 (1/3)	単価×面積	163,424千円
H22	安全・安心な学校 づくり交付金事業	中学校 体育施設整備	クラブハウス	1/3	単価×面積	5,967千円
H23	学校施設環境改善 交付金事業	危険改築(中学校)	校舎	5.5/10 (1/3)	単価×面積	272,586千円
		学校プール 校内LAN 太陽光発電	小学校 中学校 中学校	1/3 1/2 1/2	単価×面積	
H23	木造公共施設 整備事業	木の香る環境づくり 総合推進事業	内装 木質化	100%	限度額	60,000千円
H21 繰越	地震補強	中学校体育館	学校教育施設等整備事業債			33,200千円
H22	統合 危険改築	信濃小学校	過疎債			282,600千円
H23		信濃中学校				328,700千円

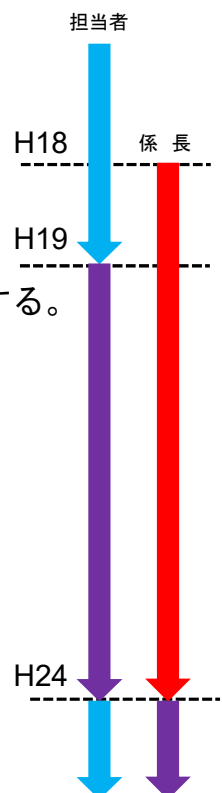
3 開校までの経過

開校までのプロセス



小中一貫校開校までの経過

- 平成16年 4月 信濃町立小学校適正配置検討委員会【18人】
- 平成17年12月 答申：現在5校ある小学校を統合し1校とする。
(意見：小中の連携及び小中一貫教育の研究を進め、建設地は最も望ましい場所を選定されたい)
- 平成19年 3月 信濃町教育環境検討委員会【27人】
- 平成20年 3月 答申：現中学校敷地に統合小学校及び中学校を建設する。
(統合小学校及び中学校において、特色ある小中一貫教育を目指す)
- 12月 学校づくり委員会設立準備会【26人】(基本構想の検討)
- 平成21年 4月 学校づくり委員会【89人】住民評議委員【28人】
- 4月 **プロポーザル実施** (基本構想提示)
- 5月 **事業者決定** (株式会社エーシーエ設計)
- 平成22年 4月 答申：6部会からの具体的方策
- 平成23年 4月 信濃小中学校開校準備委員会設置
- 7月 特別支援教育あり方検討委員会設置
- 12月 特別支援教育あり方検討委員会答申
- 平成24年 4月 信濃町立信濃小学校中学校開校



学校建設のための先進地視察等の取り組み

平成18年

- 6月2日 長野県中野市立高社中学校及び北部学校給食センター視察【学校改築】
- 6月7日 新潟県上越市立安塚小学校及び中学校視察【雪室冷房校舎】
- 7月25日 長野県小谷村立小谷小学校視察【オープンスペース校舎】
- 7月28日 小中一貫教育サミット2006参加（東京都品川区日野学園）
- 8月28日 福島県郡山市湖南小中学校視察【小中一貫教育内容】
- 10月3日 福島県郡山市湖南小中学校視察【教育委員会】
- 10月13日 木材を活用した学校施設に関する講習会2006参加（岐阜県高山市立南小学校）
- 10月28日 奈良県奈良市立田原小中学校研究発表会参加【小中一貫教育内容】
- 11月 長野市立共和小学校及び公德中学校視察【学校改築】
- 11月5日 福島県郡山市湖南小中学校 齋藤義益校長講演会開催【町民への理解】
- 11月15日 宮城県登米市立豊里小中学校視察【小中一貫教育】

平成19年

- 1月22日 福島県郡山市湖南小中学校視察【新町長・教育委員会】
- 7月17日 福島県郡山市湖南小中学校視察【教育環境検討委員会】
- 9月11日 福島県郡山市湖南小中学校視察【教育環境検討委員会】

平成20年

- 6月10日 長野市立共和小学校視察【学校づくり施設部会】
- 6月16日 福島県郡山市湖南小中学校視察【学校づくり施設部会・カリキュラム部会】

郡山市立湖南小中学校との出会い



福島県郡山市立湖南小中学校
(平成18年当時) 齋藤 義益 校長

平成18年、適正配置検討委員会からの答申の付帯意見としてあった小中一貫教育が学校統合の方法として本当に最善の解決策となるのか、不安のままに小中一貫教育校の視察を教育委員会事務局で重ねていた。

その際、湖南小中学校長の齋藤先生との邂逅が、小中一貫校建設の大きな転機となった。

福島県郡山市湖南地区にある湖南小中学校は、5つの小学校を統合し、既存の湖南中学校の隣に小学校校舎を併設し、平成17年に施設一体型の小中一貫教育を実践していた。

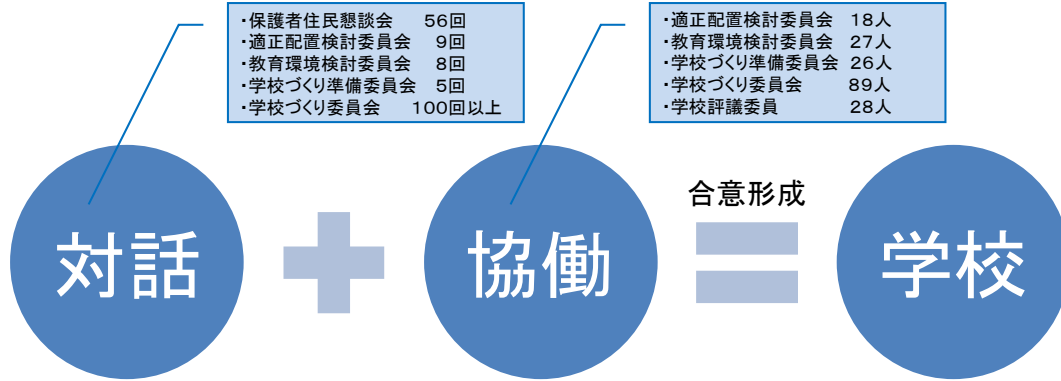
湖南地区の統合以前の課題は、「過疎化」「少子化」「複式学級」「表現力不足」とされており、それらを小中一貫校とすることで、課題解決するをキーワードに、学校づくりに取り組んでいた。

- ・当町と郡山市湖南地区の状況（少子化、過疎化、積雪地）が似ていたこと
- ・デメリットをメリットに発想を転換する施設一体型小中一貫校だったこと
- ・複雑な仕組みではない6・3制のシンプルな一貫教育であったこと
- ・齋藤義益校長先生の小中一貫教育に対する熱意に感動したこと
- ・何より、湖南小中学校の子どもたちが自信に満ちた表情で、生き生きと学校生活を過ごしていると感じたこと

町民の納得感ある合意形成を目指した学校づくり

◆ 県下初の施設一体型小中一貫教育校

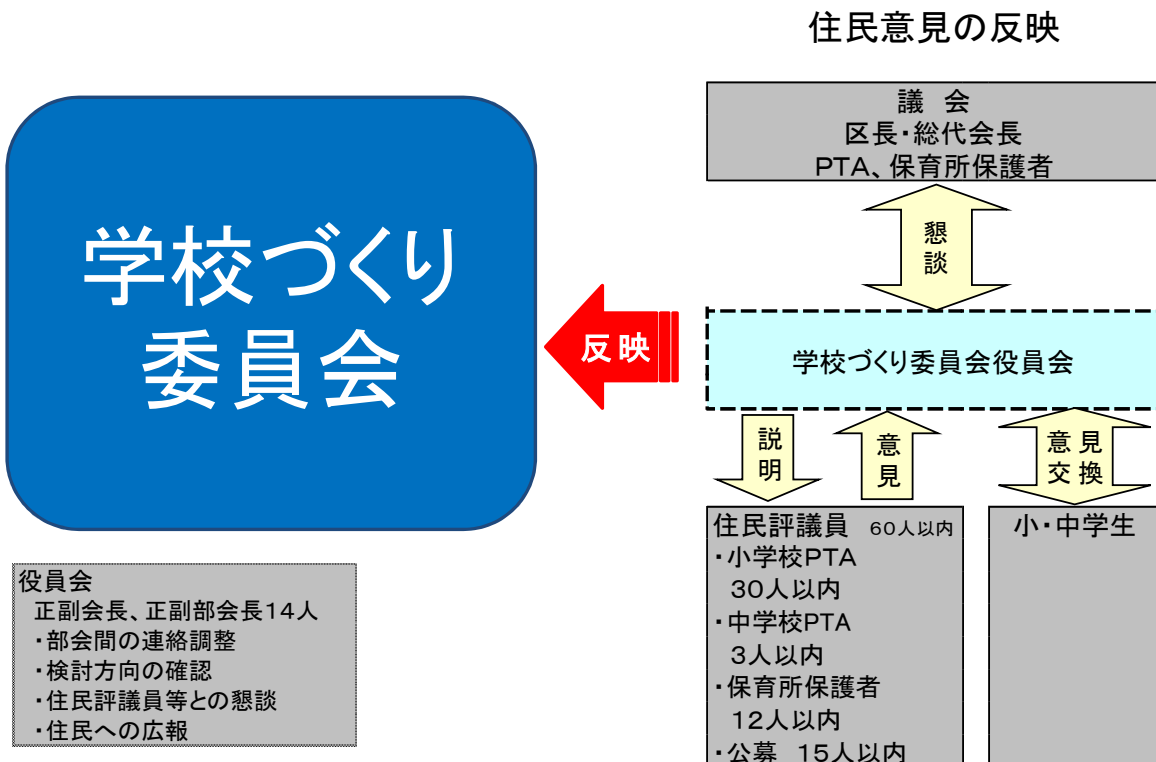
デメリットをメリットに発想を転換した小中一貫教育校建設には試行錯誤がともなう。結果の納得を得るためには、町民が自らの選択と決定のプロセスが必要であり、選択と決定のためには、情報開示と情報共有も重要であった。



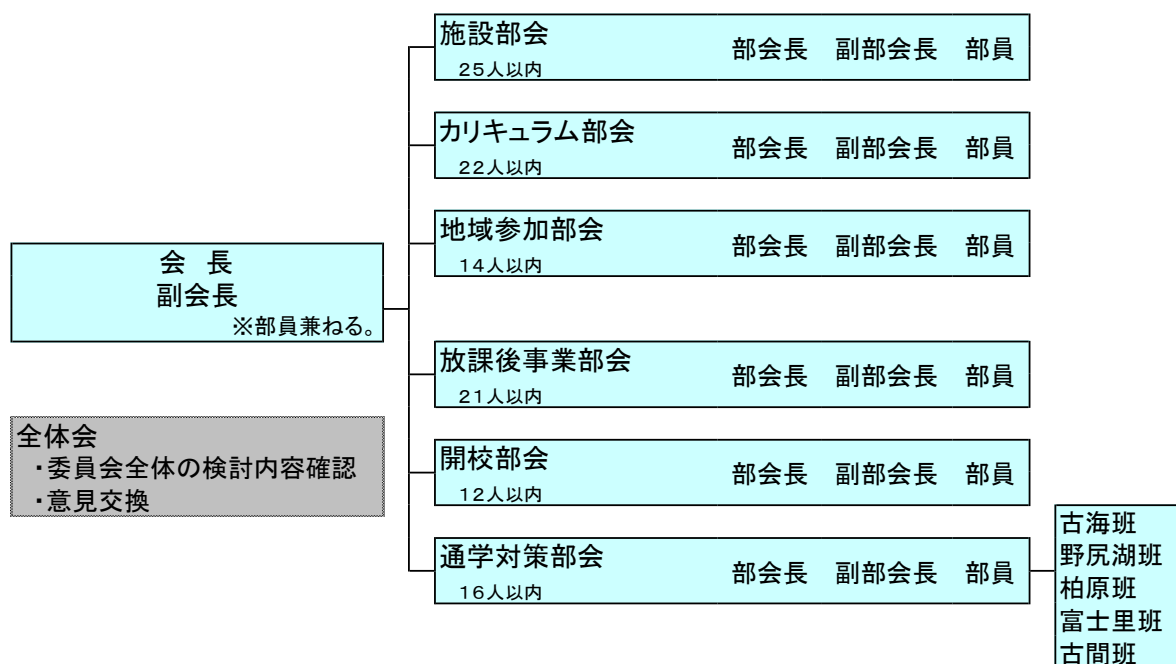
対話 = 限られた財源と時間の中、個々人の多様な価値観のベクトルを整えるための対話

協働 = 様々な立場の人が、パートナーシップ(対等な関係性)によって学校づくりをする協働

学校づくり委員会及び役員会の役割



学校づくり委員会構成図



学校づくり委員会の任務

組 織		任 務 (検 討 項 目)
全体会		①委員会全体の検討内容確認 ②意見交換
役員会		①部会間の連絡調整 ②検討方向の確認 ③住民評議員等との懇談 ④住民への広報
部 会	施 設 部 会	①基本設計、仮設計画 ②学校施設の開放
	カリキュラム部会	①カリキュラム、教育活動 ②小中合同行事 ③保・小・中連携
	地域参加部会	①学校支援地域本部の実施 ②学校運営協議会(コミュニティ・スクール)、住民の意見を吸い上げる仕組み ③寄付活動
	放課後事業部会	①児童クラブ・放課後子ども教室の実施 ②社会教育との連携 ③育成会活動 ④(教育に関する)跡地利用・避難施設利用
	開 校 部 会	①学校名 ②校歌・校章 ③制服 ④各校資料・財産の活用 ⑤記念事業 ⑥開校式典 ⑦同窓会 ⑧PTA組織 ※追加
	通学対策部会	①通学路の選定と安全確認 ②スクールバス運行内容

プロポーザル基本構想のテーマ

「ひと(もの・こと)とのかかわりを大切にする学校」

小中一貫教育のフィールドを最大限利用して、クラス・学年を超越した交流や教職員、地域住民とのふれあいを通して、自主的に考え、行動できる子どもたちの育成をめざす。

- ① 信濃町産や県内産など地域の木材の活用、自然光の取り込み、風景の活用、自然環境や景観との調和、校内緑化など信濃町の地域特性を生かし、かつ、環境を考慮する施設とすることで、子どもたちが、視覚的にも感覚的にも、信濃町らしさや癒し、ぬくもりを感じられる学校
- ② 小中一貫教育の特性を生かし、異学年であったり、教職員であったり、地域の住民であったり、子どもたちが、様々な人との接点を持ち、その関係をより深めることのできる空間を備えた学校

プロポーザル基本構想のテーマ

- ③ 子どもたちや教職員の、様々な要望や動きに対応可能な、可変性や柔軟性を備えた学校
- ④ 子どもたちが、通学や除排雪対策を含め、安全に安心して快適に通え、過ごし、学ぶことができる学校
- ⑤ 子どもたちが、学びがいを感じ、9年間の自らの成長を実感できる学校
- ⑥ 子どもたちが、表現し、発表できるスペースを備え、表現力を身に付けることができる学校
- ⑦ 自由な空間、落ち着ける空間、十分な収納スペースを備え、子どもたちが、ゆとりを持って過ごすことができる学校

講演2
国内事例

山と湖の小さな町の大きな挑戦
～住民対話と協働による学校づくり～

信州大学学術研究院・教育学系 教授

信濃町立信濃小中学校 初代校長

伏木 久始 峯村 均

信濃町教育委員会 総務教育係長

株式会社エーシーエ設計 取締役副会長

小林 義尚 関口 浪男

信濃小中一貫教育校

学校・地域・行政・設計者の
対話で生まれる学校建築



株式会社エーシーエ設計

どのように想いを受け止めて、設計者は形にしていってか？

町で唯一の学校を一体型の小中一貫教育校へ はじめに

■プロポーザル方式による選定…ゼロからの出発

町と一緒に学校づくりができる**最適な設計者**を選定

■設計者の選定後…信濃町に溶け込む[分室の設置]

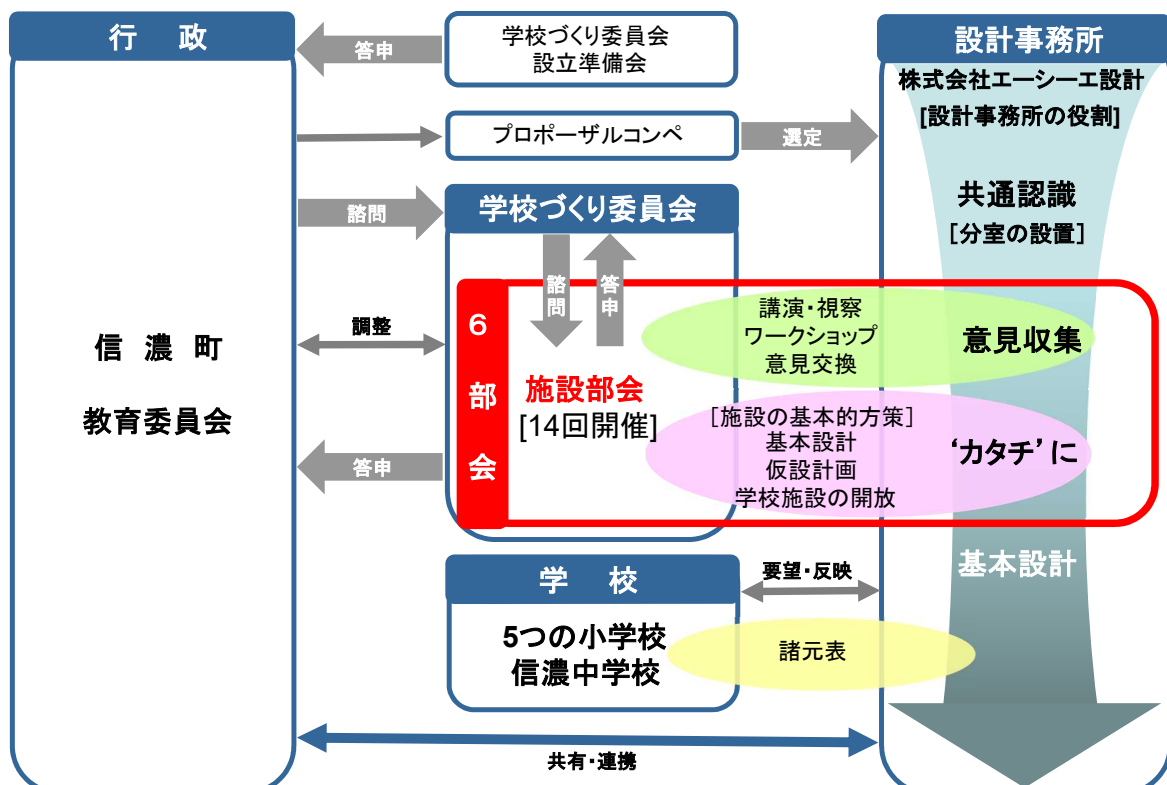
設計者はここに住む住民でも十分検討を要した検討委員でもないため、町の人々と共に意見や時間を共有し、その想いをきちんと理解しなければならない。そのため信濃町に分室を設置し、町に溶け込むため地域や行政の人に**気軽に訪れてもらえる環境づくり**が必要だった。

■施設部会を通じて…同じ体験を通じた共通認識の構築

何をどこまで意見を集約して施設部会で決定するのか。視察やワークショップ、講演によるレクチャーを通し、同じ時間や体験を共有することで一体となって**学校をつくり上げていく共通認識**を持つことが重要。そして、丁寧な説明と意見交換に多くの時間をかけて基本設計をつくりあげていった。

地域・学校・行政と設計事務所の関係

設計事務所の役割



①同じテーマを共有する

第1回～第3回施設部会

施設部会(説明・質疑・要望・確認)

- ① 小中一貫教育校の現状の講演
(第2回施設部会)
- ② エーシーエ設計による
プロポーザル提案の説明
- ③ 「街で一つの学校」の要望や意見交換

要望・意見書

- ・校舎をグラウンド側に建てたらどうだろう？
- ・グラウンドとサブグラウンドだけでは広さが不十分？
- ・地域開放や社会開放するゾーンを各グループで検討など



プロポーザル提案の説明



グループディスカッション

②同じ経験を通じてテーマを共に考える [その1]

第7回施設部会

ワークショップ

①教室の広さの検証

- ・小中の教室の広さを小学校の体育館でモックアップをつくり検討。
※材料は地元工務店さんが支給

②信濃小中学校の違いは・・・

- ・教室に併設するフリースペースの利用方法は？
- ・学校にバルコニーがないから中廊下を広く？
- ・1年生から9年生の教室は同じ広さ？



③ 同じ経験を通じてテーマを共に考える [その2] 第4・8回施設部会

- 1) 郡山市湖南小中学校視察 (初めて小中学校を知る)
- 2) 県内の小学校視察 (当社設計の学校を知ってもらう)

歴史の継承と教育

9年間の成長を感じられる空間

郷土愛を育む



統廃合となった校章記念碑



多目的ホール (子どもたちの発表の場)



郷土学習室 (歴史の継承)



一つの職員室 (教育体制)



記録コーナー (年上への憧れ)



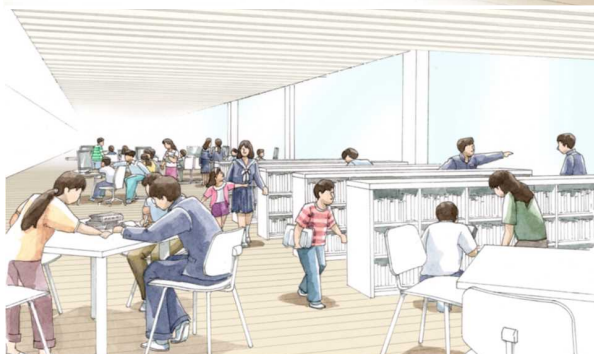
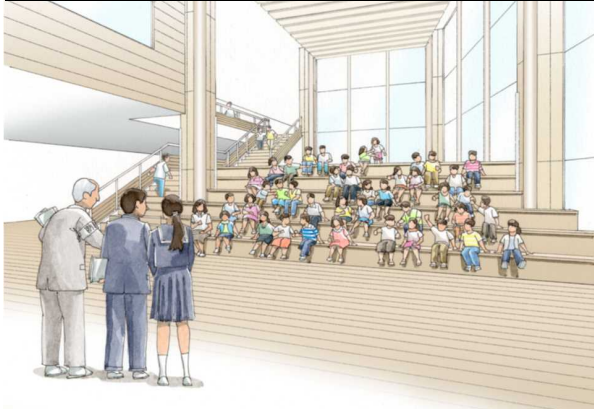
囲炉裏・小上がり (郷土の継承)

④ 'イメージ' を共有して新たな発想を生む

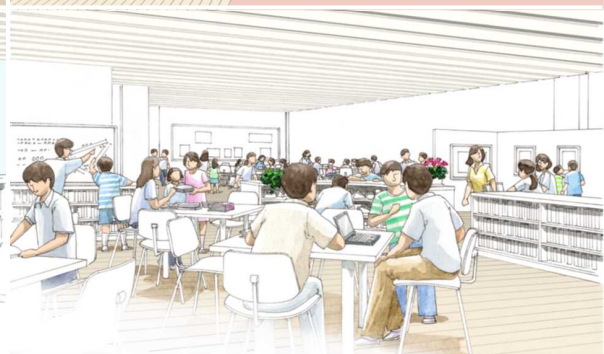
第12回~第14回施設部会

交流スペース

スポーツストリート



ラーニングセンター



ティーチャーズステーション

自らの想いを ‘カタチ’ に
できているか？

要望・説明・意見交換

「子どもたちが(に)(を)〇〇学校」のテーマに対して出された提案

- ・地域産木材をふんだんに使った学校
- ・木のぬくもりを常に感じられる
- ・一生思い出に残るシンボリックな構造物がある学校
- ・雑巾で磨けば磨くほど輝きが出る木の床
- ・1年から9年まで同じ机と椅子を使う

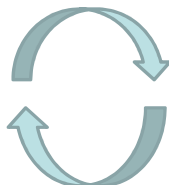
- ・卒業後も「私は信濃小中学校卒です」と胸を張って言える学校
- ・他校の子どもに自慢のできる
- ・子どもの社会・町のような学校
(子どもによる提案書一部抜粋)

- ・地域の人たちが来やすい学校
- ・大人も使える図書室のある学校
- ・保護者同士がなかよしの学校
- ・障害のある人でも生活しやすい学校

- ・パソコン学習が自由にできる学校
- ・先生同士がスムーズにコミュニケーションできる
- ・先生方が安心して情熱を持って働ける

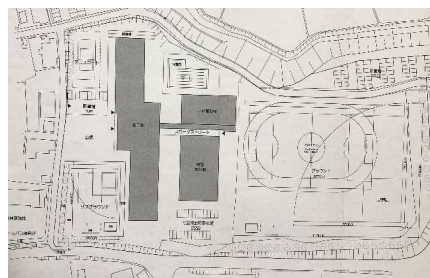
- ・小学生・中学生が自由に憩い合える学校
- ・低中高学年が分け隔てなく使える学校
- ・1年生と9年生が衝突などしない学校
- ・たまり場のたくさんある学校
- ・1年生から9年生までが交流できる学校
(保護者による提案書一部抜粋)

要望・質疑

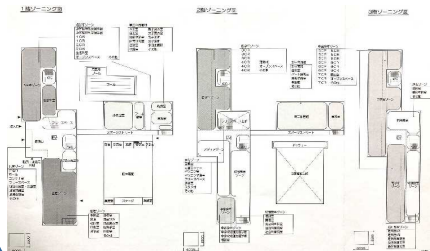


説明・確認
(フィードバック)

何度も説明を繰り返すことで
より考えを深めていく



配置ゾーニング



平面ゾーニング

「町で一つの学校」はこれ！

■他部会からの提案・要望事項
(カリキュラム部会・地域参加部会 など)

①施設配置について

- ・管理ゾーン
14日の施設部会に提出された平面ゾーニング図で管理ゾーンを保健室と合わせ両グラウンドから近い1階東側に配置する。
- ・スポーツストリート
スキーの乾燥室があるようだが、小学生分のスキーを置くスペースとしては足りないと思われる。スポーツストリートを広くすることでスキー置き場として利用できないか。広くすることで他の活動にも利用可能になる。
- ・その他

テニスコートを南西側の駐車場に設置することで、サブグラウンドを広くしたり、利用頻度の少ない地域資料室、スキー用具置き場など、出せる施設は外に配置したりすることで、校舎内と敷地のスペースを確保する工夫をしてほしい。

②さらなる敷地の確保について

北西の公会堂前の敷地を駐車場ではなくグラウンドとし、間を走る町道を廃止し、合わせてグラウンドとすることを検討してほしい。

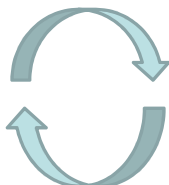
③プール時のバス送迎について

移動の時間は極力短縮したい。農跡地の停留所ではなく、昇降口付近でバスの乗降ができるようにしてほしい。



(部会要望書一部抜粋)

要望・質疑



説明・確認
(フィードバック)

具現化して ‘カタチ’ にする



ボリューム検討

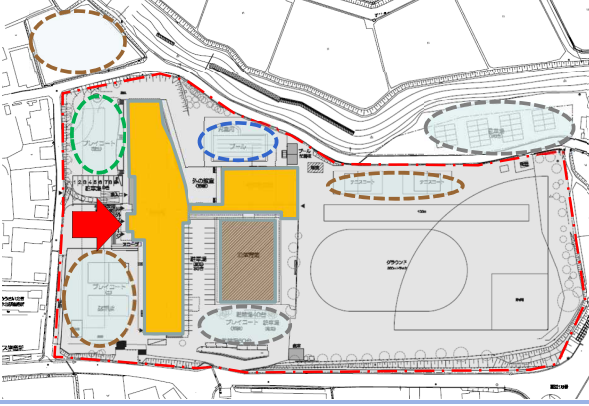


町民の森視察(木育)

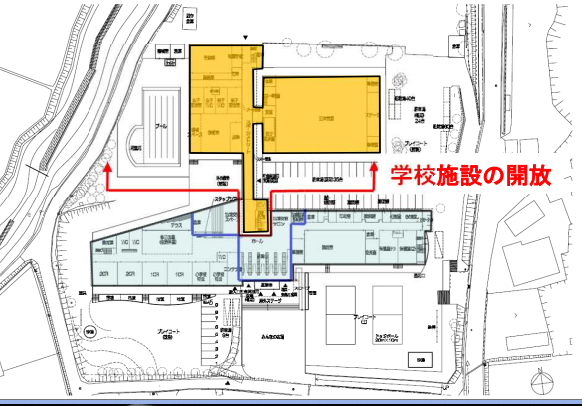
⑦学校施設の具体的方策のまとめ

第12回～第14回施設部会

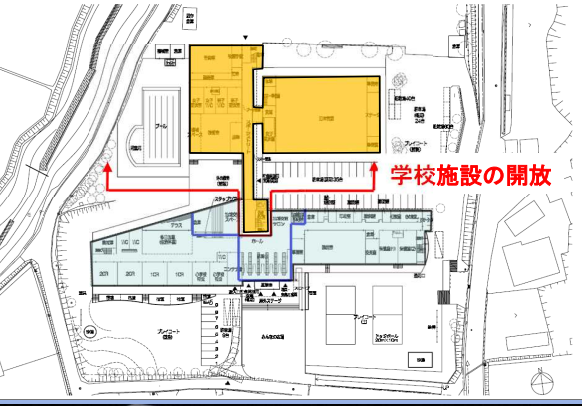
配置図



社会開放




学校施設の開放




仮設計画

1期




H22. 4～H24. 6

2期




H22. 7～H22. 8

3期



H22. 9～H24. 2


4期



H24. 4～H24. 7

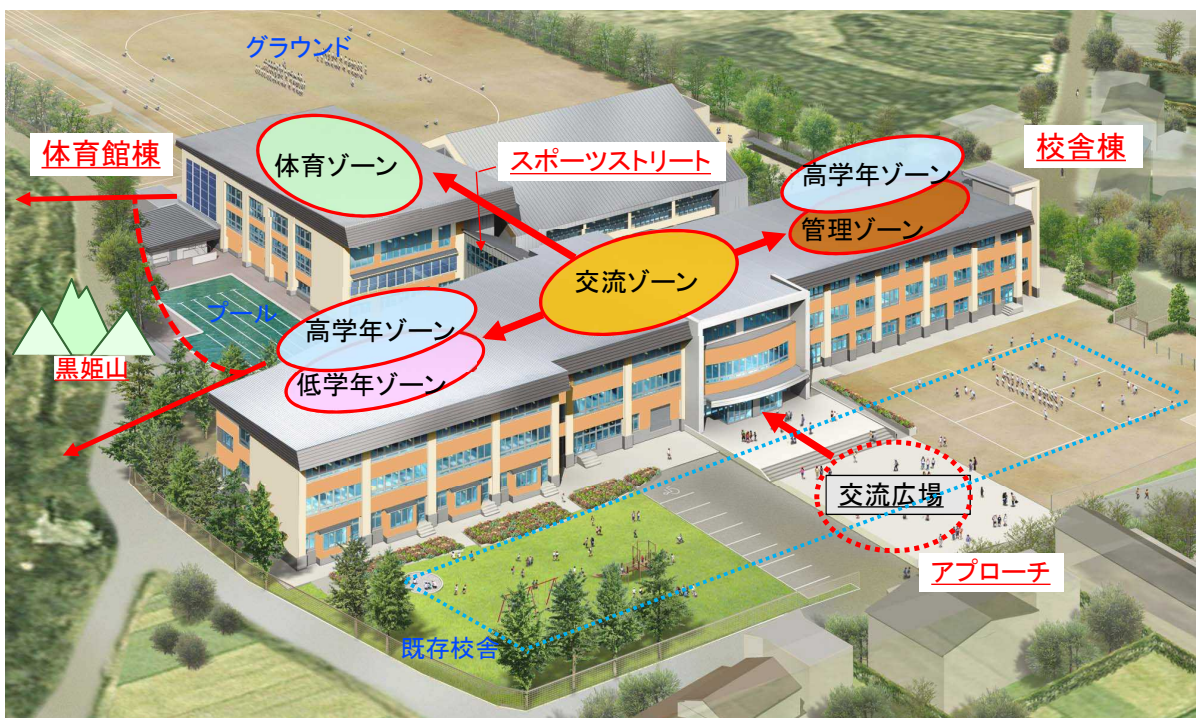
平成24年4月
開校

ポリウム模型



信濃小中教育校の施設の説明

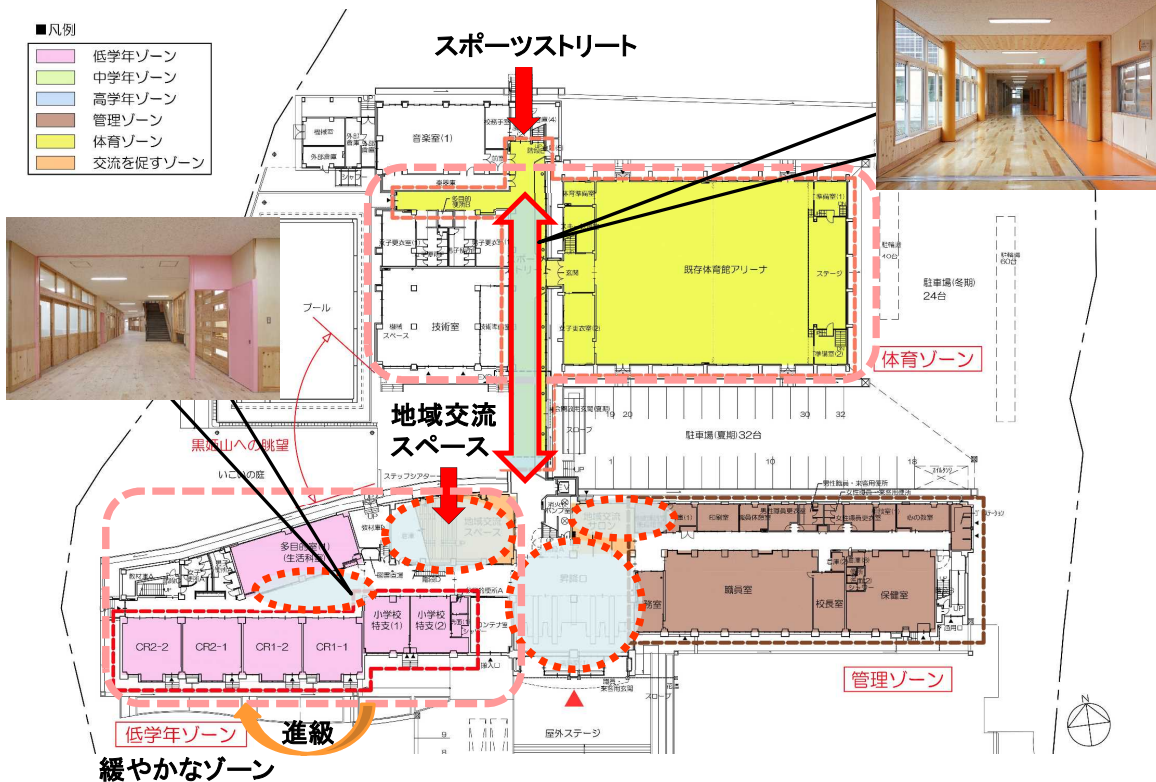
①校舎棟と体育館棟を配し、黒姫山を望むスポーツストリートで繋ぐ



②交流ゾーンを中心に体格差を考慮した各ゾーンへ

1階平面図

■交流ゾーンを中心に校内の様々な場所に交流を促す場を設置



異学年・教職員・保護者・地域の方々の交流スペース

特徴的なステップシアターによる開放的な空間

合同リーダー会議

アカマツ・カラマツ材による壁面デザイン



授業風景



課題の発表をしあう語らいの場

地域スポーツの継承

1階クロスカンリースキー置場



クロスカンリースキー



出番を待つスノーモービル



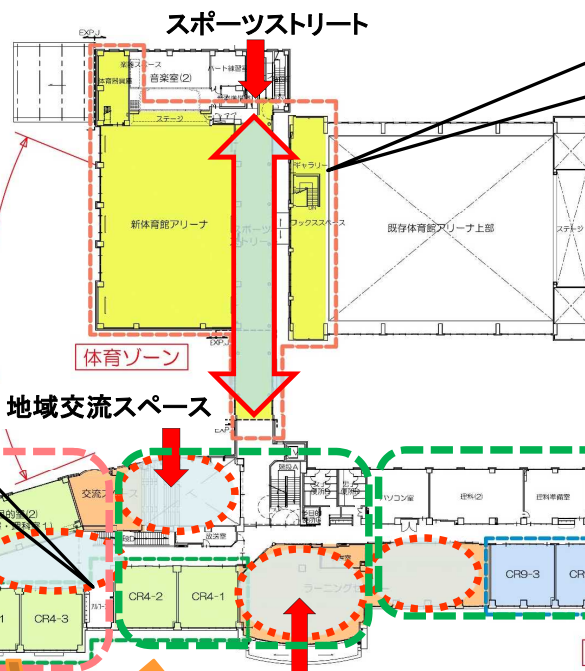
冬場の体力向上を目指した活動

2階平面図

■ゾーン別・階別に色や空間に変化をつけた演出

■凡例

- 低学年ゾーン
- 中学年ゾーン
- 高学年ゾーン
- 管理ゾーン
- 体育ゾーン
- 交流を促すゾーン



中学年ゾーン
緩やかなゾーン

進級

ラーニングセンター

高学年ゾーン



ラーニングセンター

読み聞かせや表現力を養う場



縦割り班活動



かご作り



自ら学び、自ら活動する開放的なラーニングセンター

冬場や雨天時の体力向上の場

校舎棟を体育館棟を繋ぐ広いスポーツストリート



汗かき元気っコタイム



部活対抗! 20mシャトルラントライアル

【実施日】 毎週金曜日の放課後(11月22日~3月まで実施予定) 【実施場所】 第1体育館
 【実施時間】 男子部員 15:25 集合 15:30 スタート 女子部員 15:45 集合 15:50 スタート
 (詳細方法) 中学生の部: 男子上位10名、女子上位5名に入った生徒が所属している部の欄にシールを貼って、頑張りを示せる。
 5、6年生の部: 上位3名(男女別)に入った児童が所属している部の欄にシールを貼って、頑張りを示せる。

	中学生の部	5・6年生の部
野球部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
サッカー部		●●
男子バレーボール部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
女子バレーボール部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
男子テニス部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
女子テニス部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	
男子バスケットボール	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
陸上部(男子)	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
陸上部(女子)	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
フリスビー部	●●●●●●●●●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●●●●●

部活対抗で競う



20mシャトルラントライアル

新体育館(床暖房とパネルヒーターを完備)

講堂として



ステージと一体の音楽室



初等部 合奏発表会



3階平面図

■各学年にふさわしいゆとりと可変性のある学習環境

- 普通教室の可変性 ➡ 教室を南面に配列
- 9年間の変化を演出 ➡ 各学年ごとによる緩やかなゾーニング
- 居場所づくりと遊び ➡ 廊下や天井による変化のある空間づくり(広い・狭い・高い・低い)

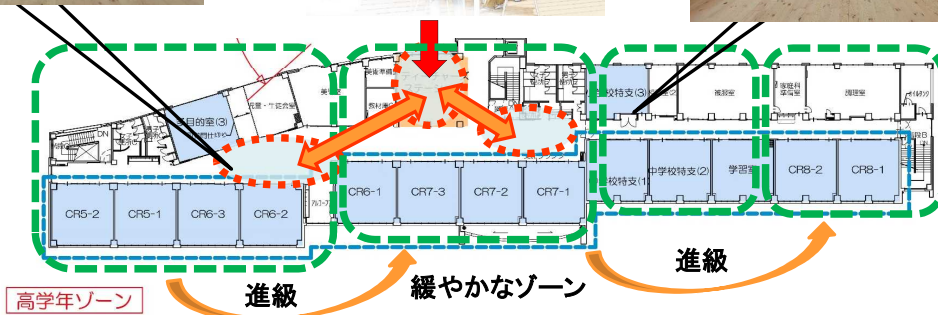
○変化のある廊下



○ティーチャーズステーション



○多くの生徒が過ごす広い廊下



高学年ゾーン

進級

緩やかなゾーン

進級



木質化 : 木のぬくもりに溢れた学び舎。床・壁・天井に町内産の木材がふんだんに使われている。



色彩計画 : ゾーンごとにテーマカラーを設ける

【1階】低学年ゾーン

【2階】中学年ゾーン



信濃町の
四季折々



【3階】高学年ゾーン

体育館ゾーン



信濃小中学校 建設だより

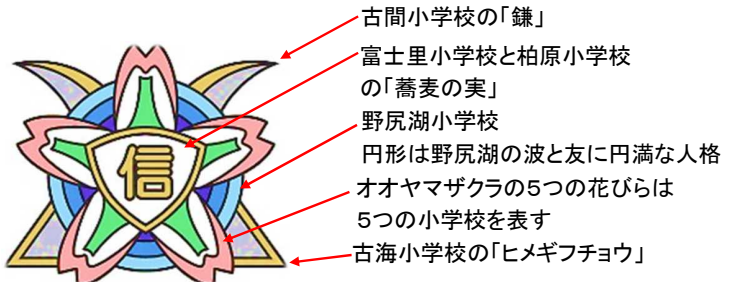
新校舎の色決定! 一信濃中学校生徒投票結果一

A案	52票
B案	37票
C案	51票
D案	6票
E案	66票

投票の結果 **E案**に決定しました

■E案を選んだ理由(抜粋)

校舎の外観ももちろん、内装も明るく心地よいから。
 外観が校舎だけでなく、周辺に馴染むデザインが気に入っているから。
 校舎のデザインだけでなく、校舎の機能も気に入っているから。
 校舎の外観だけでなく、校舎の機能も気に入っているから。
 ... (text continues with reasons for choosing Option E)



統合する5つの小学校の校章の要素を取り入れた
 信濃小中学校の校章を募集

工事が進んでいます。

■基礎工事・体育館改修工事

基礎工事、体育館改修工事の進捗状況を共有しています。写真や動画で工事の様子をお知らせしています。

9月 10月

講演2
国内事例

山と湖の小さな町の大きな挑戦
～住民対話と協働による学校づくり～

信州大学学術研究院・教育学系 教授

信濃町立信濃小中学校 初代校長

伏木 久始

峯村 均

信濃町教育委員会 総務教育係長

株式会社エーシーエ設計 取締役副会長

小林 義尚

関口 浪男

‘校舎一体型 小中一貫教育’の可能性’を求めて



元・信濃小中学校長 峯村 均(平成24年度～27年度)

施設一体型の校舎の可能性

- 1 ふるさとへの誇りを育む校舎
- 2 異学年交流を活性化させる校舎
- 3 主体的な学びを生み出す校舎
- 4 個に応じた指導を可能にする校舎
- 5 地域と一体となった学校づくりを進める校舎
- 6 教職員の意識を変える校舎

1 ふるさとへの誇りを育む校舎

「信濃町に誇りを持ち次代を担う人材の育成」

校歌に歌われる **黒姫山** をスポーツストリートから正面に眺めて生活する

町の人ガイドでふるさとの山に登る



野尻湖も学びの場



4年 斑尾山 5年 飯縄山
6年 黒姫山 8年 唐松岳



信濃町の自然を感じる

1 ふるさとへの誇りを育む校舎



毎日の清掃 地域の木材で造られた校舎を 磨く

2 異学年交流を活性化させる校舎



休み時間のコマ 広く明るく温かい廊下

小学生、中学生が同じ棟で生活

- ・ 日常生活での自然な関わり
- ・ 「ケアリング」と「ヒーリング」



2 異学年交流を活性化させる校舎



真冬でも温かな新体育館



全校での音楽集会

行事や日々の活動を通して育む力

- ・ 9年生のようになりたい 「憧れ」
- ・ 9年生になっていく 「誇り」
- ・ 「指導」ではなく「感じる」ことで育つ
- ・ 中学校にない関係性

2 異学年交流を活性化させる校舎



2階のスポーツストリートから見た大体育館

高等部の活動を肌で感じる

大体育館で活動する高等部の様子に日々触れられる

高等部になったらあんなことをするんだ。楽しみだなあ！

← 夏休み明けの9年生の総合テスト

3 主体的な学びを生み出す校舎



ティーチャーズ・ステーション（7・8・9年生の教室前）

壁のない職員室

開放的な空間が、生徒に「いつでも質問できる」という気持ちを生んでいる。

3 主体的な学びを生み出す校舎



広い廊下に置かれた丸テーブル

学級の枠を超えた学びの空間

放課後、バスを待つ生徒が自主的に学習に取り組める場となっている。

4 個に応じた指導を可能にする校舎



個別指導教室

自由にレイアウトできる教室

- ・ 発達障害や不適応に対応
- ・ 町費でも多くの職員を配置

4 個に応じた指導を可能にする校舎



保護者との支援会議もコーディネート 卒業生のサポートも

5 地域と一体となった学校づくりを進める校舎



多様に使える階段教室

講演会、発表会等、地域との交流で頻繁に活用。準備の必要がなく、気軽に使えるのが魅力。

← 映画監督を招いての講演会

5 地域と一体となった学校づくりを進める校舎



広く自由度の高いスペース

長机を並べて、地域との会議でも活用。

左は、畳を並べて「茶道」のクラブ活動。

6 教師の意識を変える校舎



70名を超える職員

小中一貫教育校の一番の課題は、小学校と中学校の教師の意識の溝

開校2年目から、職員室の中央に特別支援教育担当者を配置

6 教師の意識を変える校舎



廊下から授業の様子が見える教室

全ての授業が公開される環境

教室王国からの脱却

若い教師が先輩の授業を気軽に覗ける環境

若い先生を育てようという意識の醸成



講演2
国内事例

山と湖の小さな町の大きな挑戦
～住民対話と協働による学校づくり～

信州大学学術研究院・教育学系 教授

信濃町立信濃小中学校 初代校長

伏木 久始

峯村 均

信濃町教育委員会 総務教育係長

株式会社エーシーエ設計 取締役副会長

小林 義尚

関口 浪男

国立教育政策研究所 文教施設研究講演会
2021.2.10



小中一貫教育を支援する
教育学者としての役割

信州大学 学術研究院教育学系
伏木 久始

教員研修 & 講演会を通しての支援

- ①信濃町教職員研修会 2010.8.3
信濃町の子どもへの誇りとなる小中一貫校づくり
- ②信濃町教職員研修会 2011.8.17
小中一貫教育の難しさを「やり甲斐」に変える
- ③信濃小中学校職員会議 2012.8.17
個の学びを9年間のスパンでケアしていく小中一貫教育
- ④平成24年度国立教育政策研究所プロジェクト研究
小中一貫教育・信州フォーラム
- ⑤上水内郡PTA講演会 2013.8.31
子どもと向き合う大人同士の連携
- ⑥信濃小中学校公開研究会 2013.10.21
人口減少社会における小中一貫校の意義と役割
- ⑦信濃小中学校「学校公開」講演会 2015.10.26
信州型コミュニティスクールとしての信濃小中学校の展望
- ⑧信濃小中学校「学校公開」講演会 2016.10.17
「義務教育学校」創成期の実践に期待されること



学校公開での自由討議



通学合宿の企画運営



校務支援システム197

信濃町の小中一貫校づくりへの参画

◎伏木研究室の学校支援プロジェクト

■平成23年度国立教育政策研究所公募型研究に応募

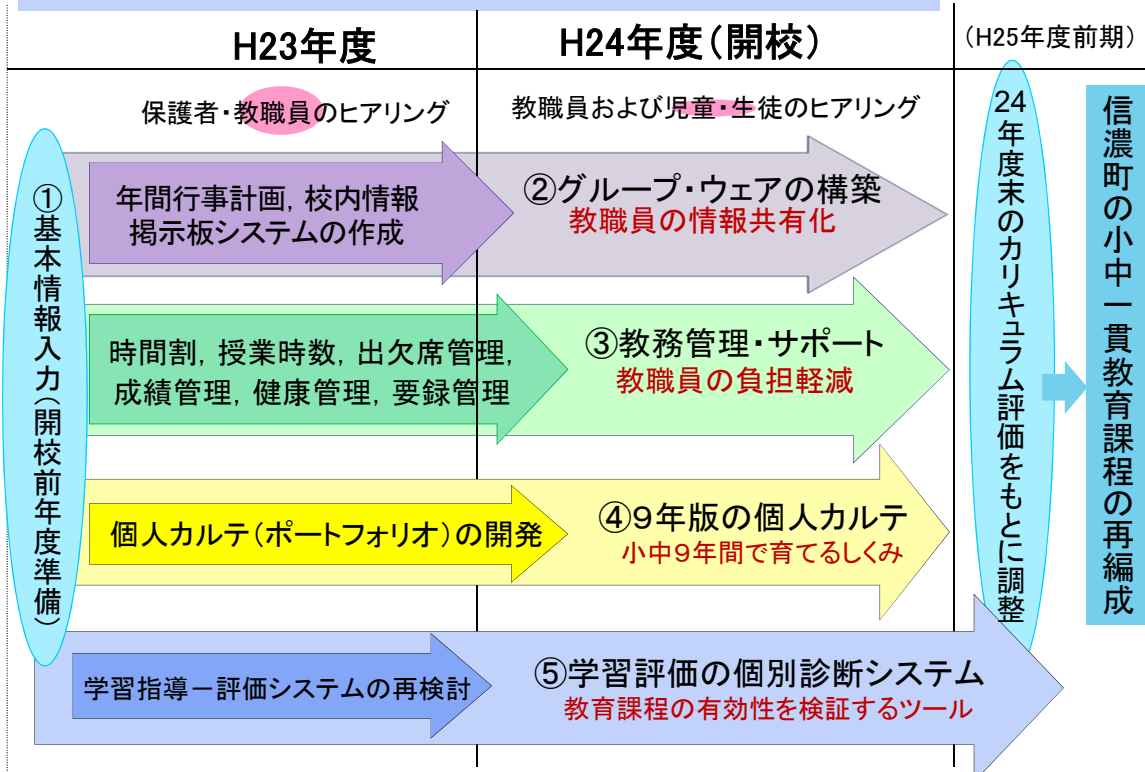
研究テーマ <平成23~24年度プロジェクト>

「過疎地域の実情に即した小中一貫校づくりと 教育課程の開発」

(全国28件の応募中、採択された2件のプロジェクトのうちの一つ)

- 1). 複数の学校が統合する複雑性を解消・軽減するシステム
- 2). 教職員同士のもつ情報やノウハウを共有するしくみづくり
- 3). 子どもの9カ年間の育ちを継続的・系統的にみるツール作成

校務支援システムの導入計画



※この図中のステップ①から④までの基盤部分と⑤の一部を国研予算で導入した

●スケジュールの共有でスムーズな予定管理

- 情報共有
- ・学校内
- ・学校 ↔ 学校
- ・教員 ↔ 学校

ポイント：個人予定の作成・確認、学校行事は年・月・週・日単位で確認できます。

スケジュール

月予定	< 10/26(月)	10/27(火)	10/28(水)	10/29(木)	10/30(金)	10/31(土)	11/1(日)
予定	[校] 保護者面談		[校] 職員会議事前打合せ	[校] 職員会議での説明	[校] 職員会議後	[校] 地区ミニバス大会	
学校行事		基本テスト		職員会議			
勤務	五十嵐 市教研研修				斎藤 IOT		
来校者	[校] 高橋様 生徒保護者 相談	PTA会長 足柳打合せ					
日直	水野	安田	山内	吉川	吉村		

マークをクリックするだけでスケジュールを簡単に登録できます。

●日予定

職員会議
 ①モ: 職員会議について
 本日、下記のとおり職員会議を開催します。
 1. 場所: 第一会議室
 2. 議題:
 (1) 次年度のクワス構成について
 (2) 卒業式の式次第について
 (3) 卒業式の分担について
 (4) 2006年度入学生予定者の概要
 (5) 期考テストの予定
 (6) 特設の年度集計について
 資料については、掲示板に添付してありますので事前に確認しておいてください。

●年予定

エクセルデータでの入出力が簡単に行えます。

●月予定

●週予定

● 閲覧相手を特定し、未読既読をひと目で確認

— 情報共有 —
 ・ 学校内
 ・ 学校 ⇄ 学校
 ・ 教員 ⇄ 学校

ポイント：閲覧文書を送信することで、事前に設定した閲覧者へ情報共有します。



教育委員会または他の学校からの閲覧も確認することができます。
 ※出席の確認が必要な場合に大変便利に利用できます。



既読ボタンをクリックすると状態が未読から既読になります。
 ※ボタンが既読から未読に切り替わりますので、状態を既読から未読へ戻すこともできます。

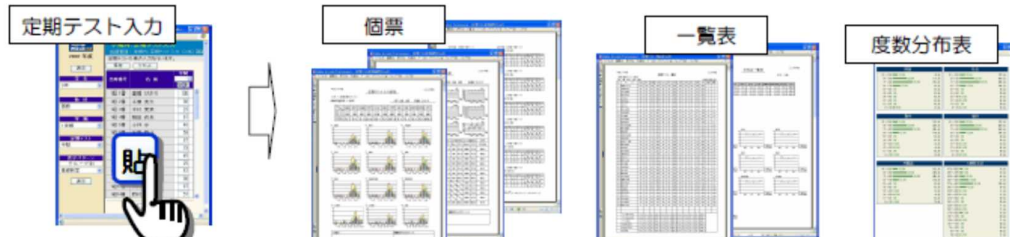
ワードやエクセル等の資料データが添付できます。

簡単なコメントを返すことができます。

閲覧相手を特定することができ、未読と既読がひと目で確認できます。

成績処理・管理

ポイント：教科担任作業終了後の、クラス担任の作業はシステムにお任せください。
 ・ 成績が連動し通知表、指導要録（抄本含む）、調査書を自動作成します。



時数管理

1～4年生版

●クラス時間割

クラス時間割の作成
2008年度のクラス時間割を作成します。

学年: 1年1組 | 校時: A校時 | 時間割: 1

時間	月	火	水	木	金	土	日
1	国	算	英	理	社	体	休
2	算	国	英	理	社	体	休
3	国	算	英	理	社	体	休
4	算	国	英	理	社	体	休
5	算	国	英	理	社	体	休

●学担週案

実施した学担週案の作成
2008年度: クラスごとの実施した学担週案を作成します。

学年: 1年1組 | 開始日: 09月22日 | 終了日: 10月01日

月	日	科目	担当	時間
9月	22日	国語	佐藤	10分
9月	23日	算数	佐藤	10分
9月	24日	英語	佐藤	10分
9月	25日	理科	佐藤	10分
9月	26日	社会	佐藤	10分
9月	27日	体育	佐藤	10分
9月	28日	音楽	佐藤	10分
9月	29日	美術	佐藤	10分
9月	30日	家庭科	佐藤	10分
9月	31日	総合	佐藤	10分

時間割のデータが週案へ連動しています。

クラス担任の週案作成とは別に、専科担任の週案も作成できます。

●教職員時間割

教職員時間割の作成
2008年度の教職員時間割を作成します。

学年: 1年1組 | 校時: A校時 | 時間割: 1

月	日	科目	担当	時間
9月	22日	国語	佐藤	10分
9月	23日	算数	佐藤	10分
9月	24日	英語	佐藤	10分
9月	25日	理科	佐藤	10分
9月	26日	社会	佐藤	10分
9月	27日	体育	佐藤	10分
9月	28日	音楽	佐藤	10分
9月	29日	美術	佐藤	10分
9月	30日	家庭科	佐藤	10分
9月	31日	総合	佐藤	10分

●週案

実施した週案の作成
2008年度: 教職員ごとの実施した週案を作成します。

学年: 1年1組 | 開始日: 09月22日 | 終了日: 10月01日

月	日	科目	担当	時間
9月	22日	国語	佐藤	10分
9月	23日	算数	佐藤	10分
9月	24日	英語	佐藤	10分
9月	25日	理科	佐藤	10分
9月	26日	社会	佐藤	10分
9月	27日	体育	佐藤	10分
9月	28日	音楽	佐藤	10分
9月	29日	美術	佐藤	10分
9月	30日	家庭科	佐藤	10分
9月	31日	総合	佐藤	10分

5～9年生版

先生ごとの週案が作成できます。

1日3回までのモジュール学習時間に対応しています。
朝学、昼学、夕学で15分、30分、45分から選択できます。

1/2および1/3単位で時間の設定ができます。

1時間の上段を黒字で計画、下段を赤字で実施内容を設定します。

委員会への時数報告ができます。

教科担任の時間割からクラスごとの時間割を自動作成します。(相互反映)
特定週の時間割を個別に設定でき、日単位および時限単位の入れ替えが簡単にできます。

管理者による週案の承認処理ができます。コメント記入もできます。



校長先生

月別の実施時数集計が自動化され、年間の実施状況も確認できます。

教育委員会への時数報告を送信できます。

1日3回までのモジュール学習時間に対応しています。
朝学、昼学、夕学で10分、25分、50分から選択できます。

学級閉鎖や授業短縮などのアテンションの追加ができます。

1時間の上段を黒字で計画、下段を赤字で実施内容を設定します。

●子どもたちの出欠情報をタイムリーに共有

情報共有
・学校内
・学校⇄教委⇄地域
(インフルエンザ発生状況)

- ポイント: トップページで情報共有でき、過去の情報から子どもたちに手厚い対応ができます。
- インフルエンザ発生状況等、地域への情報活用を図ることができます。
- 出欠情報は、成績管理(通知表)や出席簿に自動反映します。

●出欠情報

出欠状況入力

学年	欠席	遅刻	早退	停・忌・公
1年1組	0	0	0	1
1年2組	0	0	0	0
2年1組	0	0	0	0
2年2組	0	0	0	0
3年1組	0	0	0	0
3年2組	0	0	0	0
4年1組	0	0	0	0
4年2組	0	0	0	0
合計	0	0	0	1

氏名	欠席	遅刻	早退	停・忌・公	理由
1 大島 みのり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
2 小川 悠希	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
3 青木 夢華	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
4 阿部 遥空	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
5 五十嵐 海翔	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
6 杉田 晴斗	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
7 石井 翔輝	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由
8 下村 悠希	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理由

●出欠入力

出欠状況と出欠理由をクリック操作で簡単に入力できます。

●出欠状況

子どもたち個々人の過去1カ月の出欠状況が確認できます。

出欠状況 1年1組1番 大島 みのり

2009年1月 / 2009年2月 / 2009年3月

日	月	火	水	木	金	土
1/25	26	27	28	29	30	31
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
2/1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
2/8	9	10	11	12	13	14
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
2/15	16	17	18	19	20	21
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
2/22	23	24	25	26	27	28
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
3/1	2	3	4	5	6	7
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明

【計】 欠席: 7回 遅刻: 4回 早退: 3回 停・忌・公: 3回
【累計】 欠席: 12回 遅刻: 7回 早退: 5回 停・忌・公: 8回
※累計は4月25日の数値に反映します。

●インフルエンザ発生状況



教育委員会への報告データの送信により、自動でホームページ上へ公開できます。

●子どもたちの活動やようすを共有し、確かな見取りへ

ポイント：学校内の先生みんなで、子どもたちの学校生活全般の活動や日々のようすを所見として記録し共有することで、子どもたちを励まし見守っていきます。
：記録の内容は通知表、指導要録、調査書の所見欄に転記できます。

●顔写真一覧



顔写真から子どもたちを選択できます。

印刷した資料は記録してくれた先生全員の所見が参照できます、※面談等で活用できます。

●所見入力



画面の上段に、その子の基本情報が確認できます。

「学習の記録」の他に「総合的な学習の記録」、「活動の記録」、「生活・健康の記録」、「その他の記録」に所見が記録できます。

「励まし」では通知表、「見守り」では指導要録へ転記できる所見が記録できます。
※見守りは公開・非公開が選択できます。

ねらい：9年継続のポートフォリオ



■ (保)小中一貫教育の強み・良さを生かした指導 (指導要録には必ずしも掲載しない内容)

●学習指導

- 信濃町の教科等一貫カリキュラムの履修状況
- ふるさと学習(総合的な学習)での活動履歴

●生活指導

- 地域スポーツ, 文化芸術面での活躍, ボランティア等の記録
- 異学年交流・縦割り活動での記録
- 育成会やスクールバス方面グループでの行動
- 学校内外での活躍とトラブルや不登校の履歴など

校舎一体型：県初の公立小中一貫校

5つの小学校と1つの中学校が合体
小中一貫校 → 現在は義務教育学校

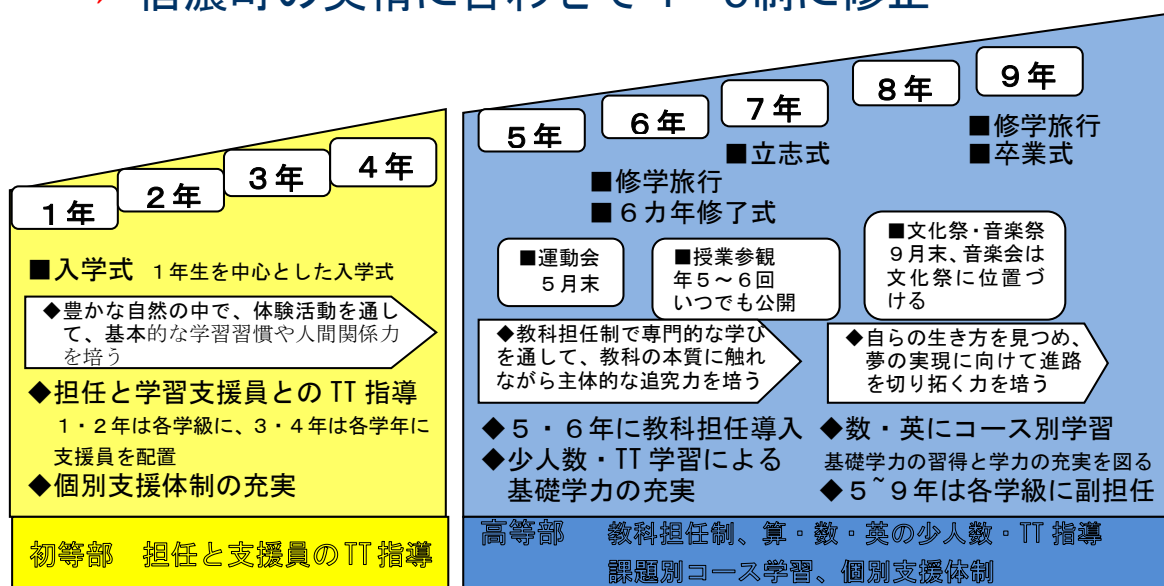
平成24年4月 開校



新1年生と9年生 仲良く入場
信濃小中学校 開校式と入学式

4-5制の小中一貫カリキュラム

他県他市のモデルから当初は4-3-2制案
→ 信濃町の実情に合わせて4-5制に修正



教育課程の中間評価の実施

☆児童・生徒向けアンケートの実施 → 子どもたちの声を学校づくりに反映

信濃小中学校 児童・生徒アンケート

学年: 一年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

問1 授業はわかりやすく楽しく学べている。

問2 授業では、「知りたい」「やってみよう」「できるようになりたい」と感じる。

問3 勉強のことや生活のこと誰かに相談したい時、先生に話すことができる。

問4 友達の良いところを考えて行動したり、友達の意見をしっかりと聞いていたりする。

問5 誰にでも気持ちのよいあいさつができています。

問6 学校行事などに意欲的に取り組んでいる。

問7 努力していること・がんばっていることなどを学校で認めてもらえている。

問8 信濃小中学校での生活は楽しい。



そこで学ぶ子どもたちの
目線で考える学校

学校評価アンケートから学校改善を構想

☆信濃小中学校の教職員アンケート

- ①定期的に実践を振り返り、今後の教育活動の改善点を抽出する調査フォームの作成
- ②校務支援ソフトや今後の校務支援についての要望等を吸い上げる
- ③過疎地の小中一貫校としての評価項目案

☆児童・生徒向けおよび保護者向けのアンケートの実施

信濃小中学校 児童・生徒アンケート

学年: 一年 二年 三年 四年 五年 六年 七年 八年 九年

問1 授業はわかりやすく楽しく学べている。

問2 授業では、「知りたい」「やってみよう」「できるようになりたい」と感じる。

問3 勉強のことや生活のこと誰かに相談したい時、先生に話すことができる。

問4 友達の良いところを考えて行動したり、友達の意見をしっかりと聞いていたりする。

問5 誰にでも気持ちのよいあいさつができています。

問6 学校行事などに意欲的に取り組んでいる。

問7 努力していること・がんばっていることなどを学校で認めてもらえている。

問8 信濃小中学校での生活は楽しい。

開校後2カ月を振り返ってのアンケート<職員>

★中一貫校に求められる教育課題や一貫教育の推進を前提に、今後の学校づくりを進めていきたいと考えていますので、4～6名の先生に意見を募集します。以下の項目にお答えください。□は「はい」を意味し、○は「いい」とは意味せず、○と△がなければその項目にお答えください。□は1～5位は具体的に記入してください。□は1～5位の評価項目を記入してください。

01. 校長の名前を記入してください。	□ A. 1～4年級主任 藤原 隆 □ B. 5～6年級主任 藤原 隆 □ C. 7～9年級主任 藤原 隆 □ D. 特別支援学級主任 藤原 隆 □ E. 事務 藤原 隆 □ F. 養護 藤原 隆 □ G. その他 藤原 隆
02. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
03. 今年一貫校になってから、中継室や特別室に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
04. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
05. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
06. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
07. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
08. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
09. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
10. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
11. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
12. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
13. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
14. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
15. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
16. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
17. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
18. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
19. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他
20. 今年一貫校になってから、授業準備や教材研究に費やす時間が減ったと感じますか。	□ A. 減った □ B. 変わらない □ C. 増えた □ D. その他

ご協力ありがとうございました。最後に、「感想」を添付して頂きたいです。
[感想欄] [印刷]

■ 校内に目を向けた努力

教職員同士の対話，教育「観」の切磋琢磨

- ⇒ 学習意欲の向上に必要なことを考え合う。
「小5ギャップ」や「中1(7年)ギャップ」に対してどう向き合うのか。

■ 校外に目を向けた努力

地域の“材”に着目し，地域に根ざした教育実践

- ⇒ 学校が「人材を活用」するという発想を超えて，
地域みんなが学校を「学びの場」「集う場」として
活用するコミュニティーを創っていく。

開校当初の先生方へ伝えたこと

新しい学校づくりに直面して...

- 20年，30年，40年…先を生きる子どもたちにどんな力と感性を育む教育を目指すべきかを考えるのが私たちの職務です
- 自分のこれまでの経験を生かしつつも，その経験知を超えて異なる見方・考え方で捉え直しながら，これまでの「当たり前」にダウトをかけて、未来型の教育を発想しましょう！



それが，小中一貫校づくりの鍵
システムよりも人々の“意識”が問題

国立教育政策研究所プロジェクト研究

初等中等教育-018

平成 23-24 年度 公募型研究報告書

過疎地域の実情に即した 小中一貫校づくりと教育課程の開発



研究代表： 総括客員研究員 伏木久始
(信州大学教育学部 教授)

平成 25 年 3 月

新刊案内

山と湖の 小さな町の大きな挑戦

信濃町の小中一貫教育の取り組み

2017年7月下旬刊行
定価(本体2000円+税)
ISBN:978-4-7620-2726-0

伏木 久始・峯村 均 著
(信州大学教授) (信濃町小中学校初代校長)

長野県初の校舎一体型の公立小中一貫校が生まれました。
5つの小学校と1つの中学校がひとつになった
町の期待を結集した学校の誕生です。

長野県と信濃町と先生たちと子どもたちと保護者のみなさんと
町の人々と……みんなで作り上げた信濃町立信濃小中学校。
その軌跡をたどります。

日本の多くの中山間地域が今後直面するであろう状況にいち早く取り組んだ信濃町。法制化された義務教育学校(小中一貫校)は、小さな町の豊かな資源を生かすためにも今後ますますそのニーズが高まっていくことでしょう。本書はこの信濃小中学校誕生までの学校創設の過程を分析し、誕生してからの日々をつづり記しました。

カシキウちゃんはどう誕生されたのか、地域との関係はどのようになされたのか、広域通学の子どもたちに及ぼす影響は……、子どもたちはどう受けとめたのか……、広域通学もありました。ひとつひとつを振り返りながら考えを深めていって出来上がった新しい学校です。

これからの中山間地域の未来を照らす、信濃小中学校の軌跡の軌跡をぜひご覧ください。

<p>目次</p> <p>プロローグ</p> <p>序章 人口減少時代の次世代型教育</p> <p>1 小中一貫教育の推進と学校の教育</p> <p>2 小中一貫教育へのシフト</p> <p>第1章 町にたった一つの学校をつくる</p> <p>一 信濃町の学校創設の歩み</p> <p>1 信濃町の学校創設の歩み</p> <p>2 開校までの準備</p> <p>3 小中一貫教育の教育課程づくり</p> <p>4 子どもたちの登下校</p> <p>5 教員の確保</p> <p>6 コミュニティ・スクールとしての学校づくり</p> <p>7 校舎建築システムの導入</p> <p>第2章 新しい形の学校のスタート</p> <p>1 「開校」とは何かのスタート</p> <p>2 新しい形の学校の、新しい指針</p> <p>3 1年間の学校生活</p>	<p>第3章 一人一人を大切に育てる教育の仕組み</p> <p>1 校務分掌と校内研究会</p> <p>2 チーム学校としての取り組み</p> <p>3 実践を通して育まれた教育課程</p> <p>4 教職員が育つ学校</p> <p>5 小中の文化的継承</p> <p>第4章 学校を支える地域の教育力</p> <p>1 スタートは地域関係者によるクラブ活動から</p> <p>2 地域の特色を生かしたプロによる指導</p> <p>3 三尊動物の学習資源による授業サポート</p> <p>4 地域の力での実践</p> <p>5 地域の力を活用することで</p> <p>終章 中山間地の次世代型学校の学校を創出して</p> <p>1 知恵とともに歩む学校</p> <p>2 次世代型教育の発信前へ</p> <p>エピローグ 異序編</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〒163-0084 東京都目黒区下目黒 3-6-1
TEL:03-3715-1501 (代) FAX:03-3715-2012
URL: http://www.gakusa.net/sa.com/

学文社

講演2
国内事例

山と湖の小さな町の大きな挑戦
～住民対話と協働による学校づくり～

信州大学学術研究院・教育学系 教授

信濃町立信濃小中学校 初代校長

伏木 久始

峯村 均

信濃町教育委員会 総務教育係長

株式会社エーシーエ設計 取締役副会長

小林 義尚

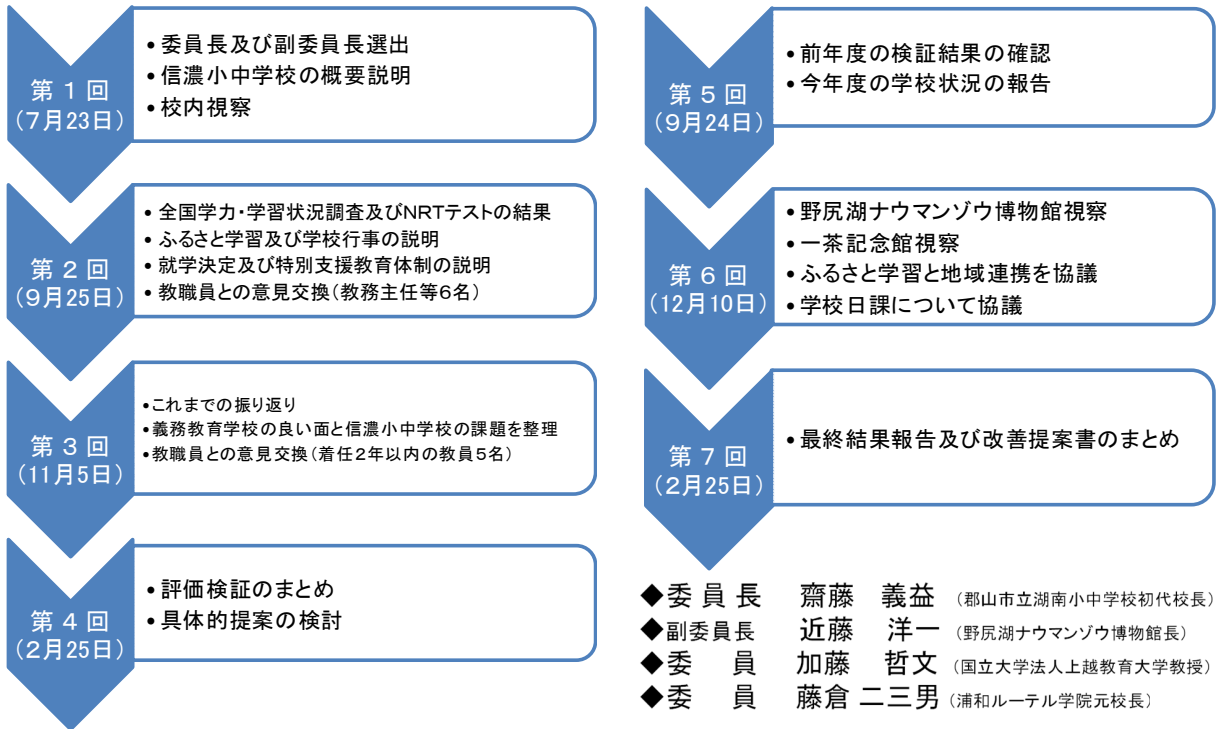
関口 浪男

4 小中一貫教育の成果

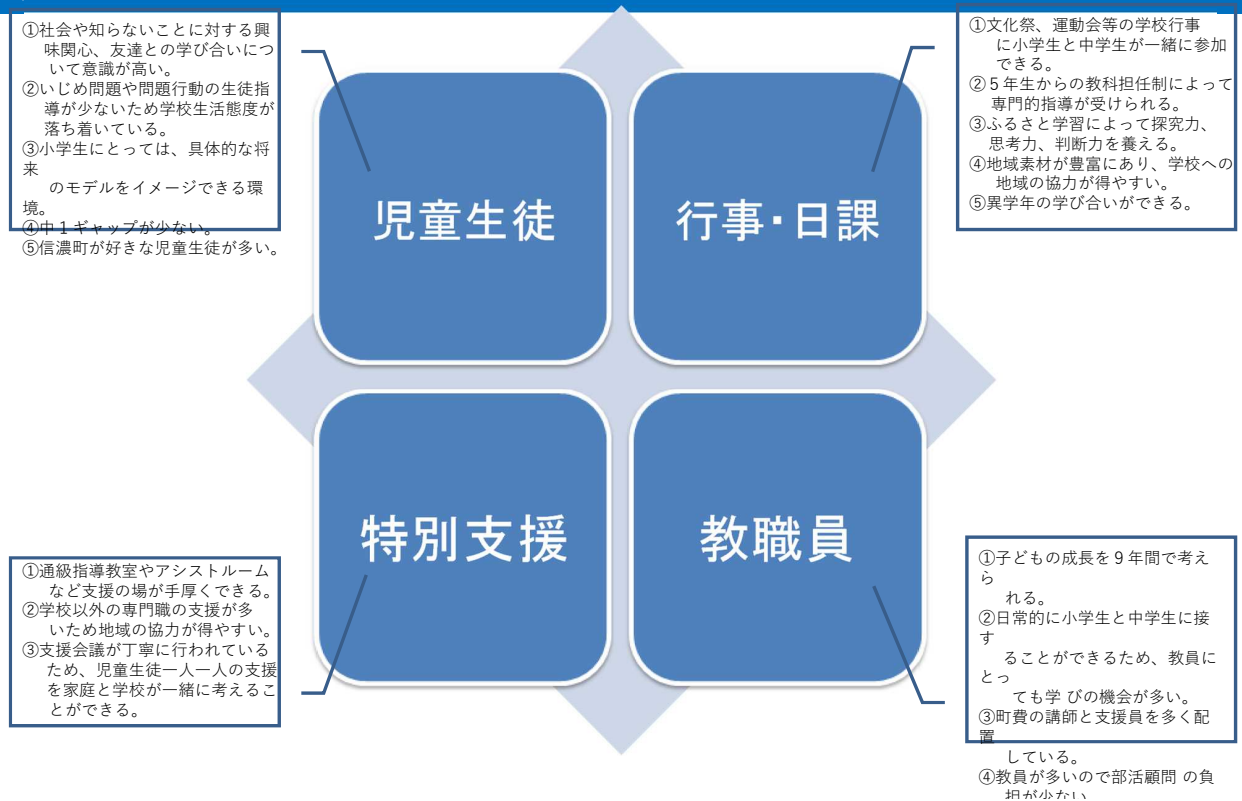
第三者評価検証委員会を設置して小中一貫教育の成果を検証

平成30年度

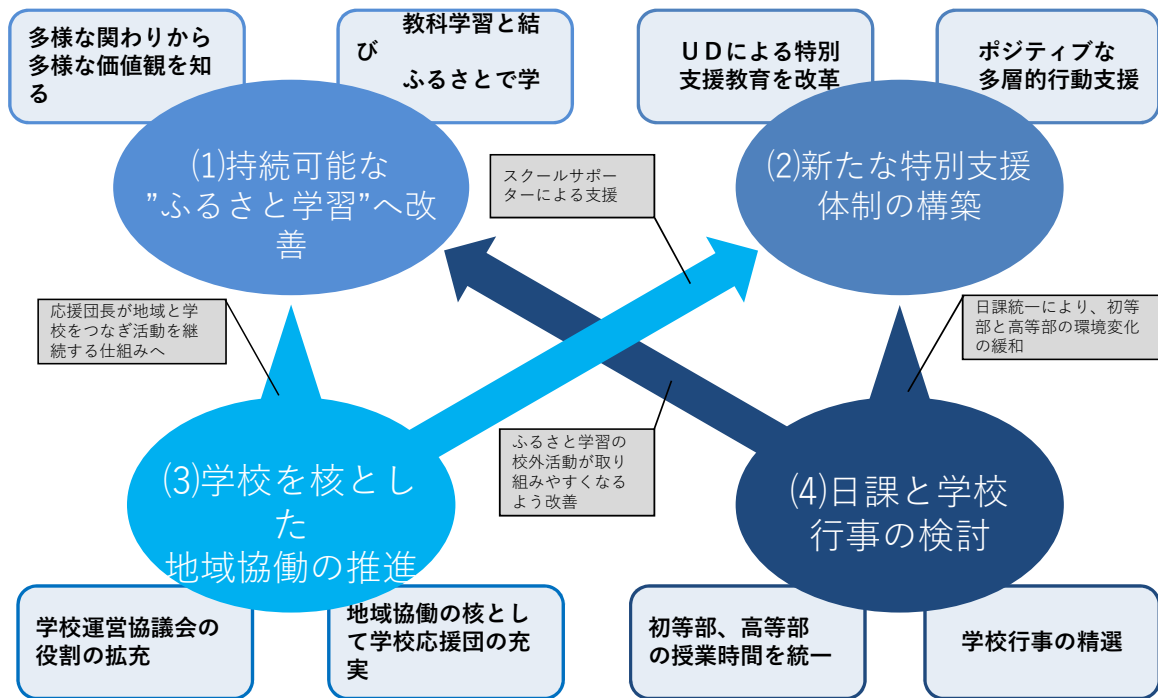
令和元年度



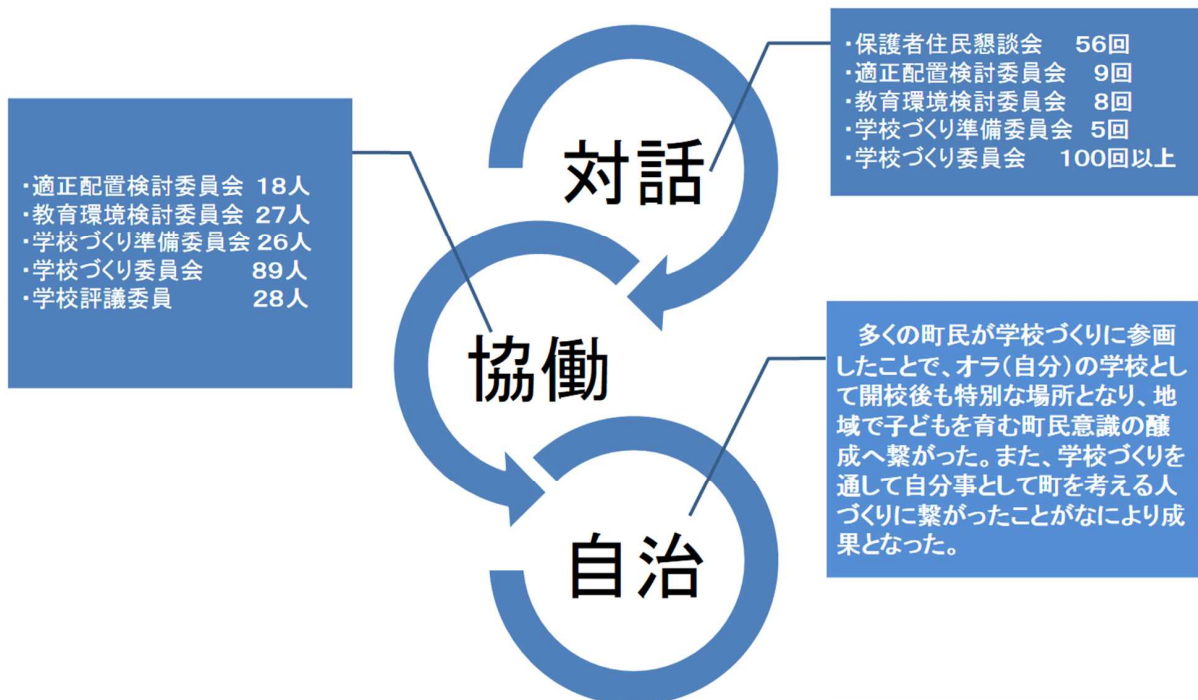
第三者による評価検証の成果の結果 (平成30年度～令和元年度実施)



現在も小中一貫教育の試行錯誤を継続



地域・保護者との対話と協働による学校づくり



小中一貫教育校が町のアイデンティティを確立